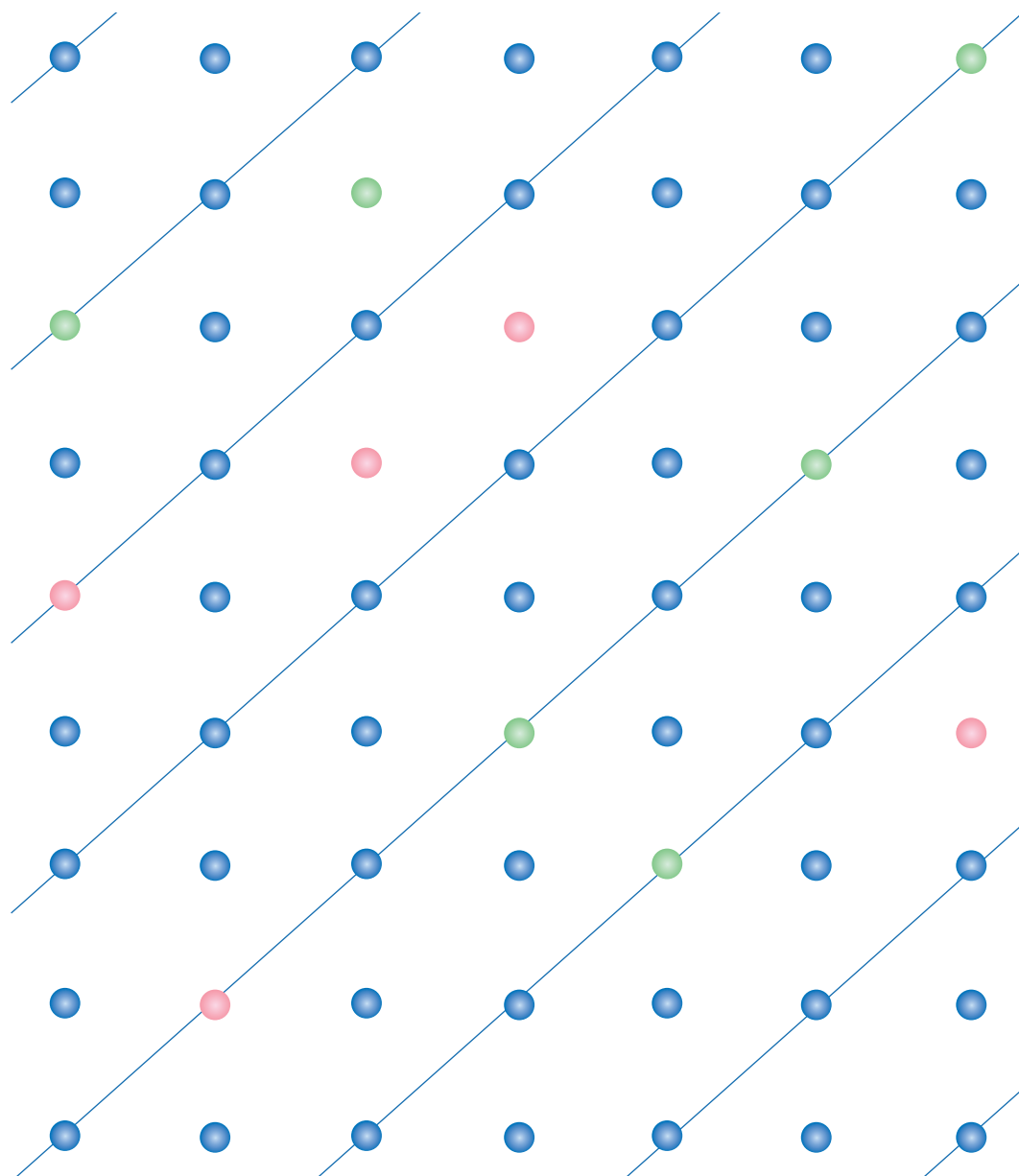


シラバス

2021年度

看護学科



平成医療短期大学

Heisei College of Health Sciences

建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

教育目的

1 全学の目的

教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

2 看護学科

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。

- ①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
- ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
- ③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多種職と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
- ④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志をもつ看護師

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ理学療法士を養成する。

- ①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。

- ①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ視能訓練士を養成する。

- ①科学的根拠に裏づけされた視機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する視能訓練士
- ②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する視能訓練士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する視能訓練士

学習成果

1 全学

教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得

2 看護学科

- (1) 看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得
- (2) 看護の専門基礎知識の修得
- (3) 看護の専門知識・技術の修得
- (4) 看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 視能訓練士として全人的医療を実践し、社会に貢献するために必要な人間性と教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 視機能療法学の土台となる人間科学領域の知識と技術の修得
- (3) 視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得
- (4) 視機能療法学の各分野における発展的な知識と技術、実践力の修得
- (5) チーム医療における視能訓練士の役割の理解と実践力の修得
- (6) 視機能療法に関わる課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 全学方針

科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。

- (1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。
- (2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。
- (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。

2 看護学科

看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
- (2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。
- (3) 看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。
- (4) 生涯にわたり向上心と探究心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (4) 学術研究活動を通じて理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、理学療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。

- (4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。
- (4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、視機能療法の質の向上のため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を推進し、主体的・能動的に研鑽できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 全学方針

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

- (1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
- (2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

2 看護学科

- (1) 豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。
- (3) 看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。
- (4) 看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために理学療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。

- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す理学療法専門知識と技術を身につけるため、理学療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力を身につけるため、理学療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上でひとが営んでいる作業活動を用いて疾病や障害を予防すること、そして疾病に伴う障害から生じる日常生活動作ならびに社会適応能力の回復・改善を促すための科学的根拠に基づいた作業療法の知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために視能訓練士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 視機能療法学の基盤である人間科学を修得させる科目として、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、視覚機能の基礎と検査機器及び保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの理念に関する専門基礎科目を配置する。
- (3) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を修得させる科目として、基礎的視機能療法学の科目を配置する。
- (4) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を臨床現場において適切に実践し得る能力を身につけるために、視機能療法学領域の各系統における発展的科目と分野横断的科目を配置する。
- (5) 対象者に応じた視機能療法の実践及びチーム医療の在り方を了知させるために、臨床実習を配置する。
- (6) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、医療情報と実験研究に関する科目を配置する。

履 修 要 領

看護学科

履 修 要 領

1. 教育課程の編成の基本的方針

本学は、知識、技能両面において教養ある医療技術者を育成すると共に、多様化する社会に順応できるよう、人間、社会、文化、語学といった観点における学問を学び、また、医療に携わるものとして不可欠なコミュニケーション能力や、社会人としての基盤構築のための科目を編成しています。

さらに、各専門分野の科目についても学術的に編成した上で細分化し、それぞれが体系的な学問として学ぶことができる配置となっています。

これにより、一人の社会人として、そして医療に携わるものとしての資質と技術を磨き、専門性に富んだ医療に適応できる医療技術者の育成を目指しています。

本学の教育課程は「総合教育科目」と「専門教育科目」に大別し、「総合教育科目」は「教養教育科目」と「基礎教育科目」に、「専門教育科目」は「専門基礎科目」「専門科目」「統合科目」に区分して、科目群による教育が有機的かつ系統的に行われるように配慮されています。

2. 「総合教育科目」の考え方

「総合教育科目」は、大半の科目について両学科学生が合同で受講できるよう科目立てして、配慮しています。職種は違うが同じ医療人との観点から捉えた場合、両職種に共通した知識として蓄えたい分野があることから、それらに関する科目を配置しています。

まず「教養教育科目」には、現代社会を取り巻く様々な要素について考察する力を養うために、また看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士として、保健、医療、福祉の分野で貢献するための基礎となる科目を配置しています。医療技術者として活躍するためには、社会の多様な事象や考え方に対して理解を深め、受け止めつつ自らの考えを確立し、なおかつ相手の立場に立って考えることが出来る感性と、洞察力が求められます。よってこれらに関する科目を配置し、人間を科学と社会に関連付けながら学べるように編成しています。

次に、「基礎教育科目」には、「専門教育科目」を学び、理解を深めるための基盤となる社会の仕組みを理解することや、読み書き、思考力の形成、コミュニケーション能力の育成に主眼を置いた科目群を配置しています。

3. 「専門教育科目」の考え方

「専門教育科目」は、両学科がそれぞれ独自性をもった科目群で構成しています。

看護学科に配置した「専門基礎科目」には、看護の専門領域を学ぶ前段階として基礎医学に関する科目群を配置し、看護学の専門性を高める基盤となるよう配慮しています。また、看護を取り巻く社会の構造と環境についても、系統別に科目立てをしています。

「専門科目」には、看護の各領域に関する学問を系統立てて配置し、それぞれの領域が融合しながら看護学を学び、人間、健康、環境の面から看護を考え、看護の実践ができるよう考慮しています。

「統合科目」は、各領域を統合させた看護の提供ができる能力を養うために、「看護学の発展」的な位置付けとして科目立てしています。

本学の教育課程及び授業科目は、次表のとおりです。

＜看護学科＞

区 分			授 業 科 目	単位数		卒業要件
				必修	選択	
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	2		2
			物理学		2	
			化学		2	
			情報科学		2	
			人間工学		2	
			環境と人間		2	
		人間と社会	社会学		2	
			人間関係論		2	
			ボランティア論		2	
			哲学		2	
			教育学		2	
			心理学		2	
	基礎教育科目	コミュニケーション	生命倫理学	2		2
			基礎演習	1		
			文章表現法	1		3
		外国語	コミュニケーション学	1		
			英語Ⅰ(教養英語)	1		1
			英語Ⅱ(日常英会話)		1	
		英語Ⅲ(専門英語)		1		
		ドイツ語		1	1	
		中国語		1		
	専門基礎科目	人体の理解	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等)	2		
			解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等)	2		
			生化学	1		
栄養学			1			
疾病の成り立ちと回復の促進		疾病論Ⅰ(神経・病理組織)	1			
		疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養)	1			
		疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚)	1			
		微生物学	1			
		公衆衛生学	1			
		薬理学	1			
		病態心理学	1			
		リハビリテーション概論	1			
社会の構造と環境		カウンセリング論	1			
		保健行政論	1			
		保健統計学	1			
		看護と法律	1			
専門教育科目		健康生活を支えるための看護の原理と基礎	障害者と福祉	1		
			医療と経済	1		
	社会福祉学		1			
	看護学概論		1			
	基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔)		2			
	基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄)		2			
	基礎看護技術Ⅲ(診察・処置)		2			
	基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習)		1			
	フィジカルアセスメント		2			
	基礎看護学実習Ⅰ(基礎)		1			
	基礎看護学実習Ⅱ(発展)		2			
	健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動		成人看護学概論	1		
		成人看護活動論Ⅰ(基礎)	3			
		成人看護活動論Ⅱ(発展)	2			
		成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期)	3			
		成人看護学実習Ⅱ(手術・急性・終末期)	3			
		高齢者看護学概論	1			
		高齢者看護活動論Ⅰ(基礎)	2			
		高齢者看護活動論Ⅱ(発展)	1			
		高齢者看護学実習Ⅰ(基礎)	2			
		高齢者看護学実習Ⅱ(発展)	2			
		小児看護学概論	1			
		小児看護活動論Ⅰ(基礎)	2			
		小児看護活動論Ⅱ(発展)	1			
		小児看護学実習	2			
		母性看護学概論	1			
		母性看護活動論Ⅰ(基礎)	2			
		母性看護活動論Ⅱ(発展)	1			
		母性看護学実習	2			
	精神看護学概論	1				
	精神看護活動論Ⅰ(基礎)	2				
	精神看護活動論Ⅱ(発展)	1				
	精神看護学実習	2				
	課題研究事前演習	1				
課題研究	1					
統合科目	看護の統合と実践	在宅看護概論	1			
		在宅看護活動論Ⅰ(基礎)	2			
		在宅看護活動論Ⅱ(発展)	1			
		在宅看護論実習	2			
		安全管理論	1			
		災害管理論	1			
		総合判断育成演習	2			
		看護の統合実習	2			
合 計						99

4. 履修方法等

1) 学期

学年は、4月1日から3月31日までで、その学年は、次の学期に分かれています。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

2) 授業

① 授業時間割

授業時間割表は、毎月初旬に翌月分を GSuite クラスルームで配信します。

なお、授業時間割表の変更、休講、補講等がある場合は、その都度 GSuite クラスルームで配信しますので始業前等には必ず確認してください。

② 授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

③ 集中授業

集中授業は、原則として夏季休業中及び冬季休業中に行われます。具体的な開講日・時限等は、授業時間割表にて確認してください。

④ 休講

大学又は担当教員のやむを得ない理由により、休講することがあります。休講の場合は、その都度 GSuite クラスルームで連絡します。また、休講の連絡がなく、始業時刻から 15 分を経過しても担当教員が教室に来られない場合は、事務室に連絡し指示を受けてください。

⑤ 補講

休講した授業科目は、補講を行うことがあります。補講は GSuite クラスルームで連絡しますので、履修者は通常の授業と同様に受講してください。

3) 履修方法

学則、教育課程表及び授業時間割表の定めるところに従い、各自が履修計画を検討し計画的に各科目を履修しなければなりません。

<履修上の注意事項>

- ア. 必修科目、選択必修科目を含めて、卒業に必要な単位数以上を履修登録、修得してください。
- イ. 同一時限に複数の授業科目を履修することはできません。
- ウ. 既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

4) 履修登録

学生は、各年度の各学期に履修する選択科目について、本学の定める期日までに履修登録届を提出し、承認を得なければなりません。必修科目については、自動的に履修登録されますので、履修登録届は不要です。

履修登録がされていないと、授業に出席しても試験の受験資格が得られませんから、十分に注意してください。

学生は、履修登録をして承認を得た後においては、任意に履修科目を変更し、又は届け出た科目の履修を放棄することはできません。

<履修登録の上限単位数 (CAP 制) >

CAP 制とは、授業科目の単位修得に必要な学修時間を確保する観点から、各学年において履修登録できる単位数の上限を定めた制度です。

本学では、全学科・全専攻において1年間に履修登録できる単位数の上限を 55 単位としています。

5) 授業の出・欠席の取り扱い

- ① 原則として、授業開始前に出・欠席の確認を行います。
- ② 出欠席の取り扱いは次の各号によりますが、遅刻・早退・欠課・欠席等の該当事項が生じた場合は、本学所定の用紙により、「遅刻・早退・欠課・欠席届及び公認願」を提出しなければなりません。
 - ア. 出席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席した場合をいいます。
 - イ. 欠席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席しなかった場合をいいます。
 - ウ. 欠課は、本学授業に出席した日のうちで、各授業時間において遅刻並びに早退に該当する範囲を超えた場合をいいます。
 - エ. 遅刻は、授業開始時刻、本学行事の日にあつては定められた登校時刻又は集合時刻の 20 分以内の遅れをいいます。
 - オ. 早退は、授業終了前、本学行事の日にあつては定められた解散時刻前の 20 分以内に退出した場合をいいます。
 - カ. 同一科目において遅刻、早退 2 回をもって 1 時限の欠課となります。
- ③ 公認の取り扱いは、次の各号によりますが、公認願を事務室へ提出し学長が認めた場合に限りま。
 - ア. 授業中の負傷・病気に伴う治療の場合
 - イ. 忌引きによる場合

父母	兄弟姉妹	祖父母	伯叔父母
7 日	5 日	3 日	2 日

ただし、遠隔地に赴く場合は、必要最低限の日数を認めることができる。

 - ウ. 伝染病発生並びに罹患による登校停止の場合。
 - エ. 本人の責めによらない不可抗力の場合
- ※ 公欠は本学が欠席事由を認めたものではあるが、授業の出席とみなすものではありません。
なお、公欠として認められたものは、授業開講数には含みません。
- ④ 各届・願は、本学所定の用紙により、原則として事前に事務室へ提出し、学長の承認を受けなければなりません。やむを得ない場合には、事後速やかに届け出るものとし、遅くとも 3 日以内（土・日・祝含まず）に事務室へ提出しなければなりません。
なお、②の遅刻・早退届については、当日教員に直接提出してください。

5. 選択科目の履修人数について

選択科目のうち、次に掲げる科目については、授業方法の形態及び教室の座席数の関係上、履修人数の制限を設けます。履修希望者が制限人数を超えた場合は、学内での抽選により履修者を決定します。

その他の選択科目についても教室の座席数等の事情により、人数調整の上履修者を決定します。

科目名	制限の人数
情報科学	40名
英語Ⅱ（日常英会話）A	40名
英語Ⅱ（日常英会話）B	60名
英語Ⅱ（日常英会話）C	40名

6. 臨地・臨床実習科目の履修に関する条件

実習科目を履修するためには、次表のとおり履修前提条件を満たしている必要があります。

履修前提条件を満たしていない人は、履修できませんので注意してください。

<看護学科実習科目の履修前提条件> 平成29年度以降入学生に適用

区分			授業科目	時期	履 修 条 件	
					単位修得済み科目	当年度履修登録済み科目
専 門 教 育 科 目	専 門 科 目	健康 生活 を支 える た め の 基 礎	基礎看護学実習Ⅰ	1前		看護学概論 基礎看護技術Ⅰ
			基礎看護学実習Ⅱ	2前	1年次の[専門基礎]科目全て 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ フィジカルアセスメント
		健康 生活 を支 える た め の ラ イ フ サ イ ク ル 別 看 護 活 動	成人看護学実習Ⅰ	2後＊ ～ 3前	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ	成人看護活動論Ⅱ
			成人看護学実習Ⅱ	2後＊ ～ 3前	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ	成人看護活動論Ⅱ
			高齢者看護学実習Ⅰ	2後＊	【看護の原理と基礎】全科目 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護活動論Ⅱ
			高齢者看護学実習Ⅱ	3前	高齢者看護活動論Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ	
			小児看護学実習	2後＊	【看護の原理と基礎】全科目 小児看護学概論 小児看護活動論Ⅰ	小児看護活動論Ⅱ
			母性看護学実習	2後＊	【看護の原理と基礎】全科目 母性看護学概論 母性看護活動論Ⅰ	母性看護活動論Ⅱ
			精神看護学実習	3前	【看護の原理と基礎】全科目 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ	精神看護活動論Ⅱ
	統 合 科 目	看 護 の 統 合 と 実 践	在宅看護論実習	3前	【看護の原理と基礎】全科目 在宅看護概論 在宅看護活動論Ⅰ	在宅看護活動論Ⅱ
			看護の統合実習	3後	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護論実習	総合判断育成演習

※表中の【看護の原理と基礎】とは、「専門科目」の「健康生活を支えるための看護の原理と基礎」の科目を示す。

＊「健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動」の2年次後期にある実習については、2年次前期までの[専門基礎]科目すべてを単位履修済みであること。

7. 試験、成績評価及び単位の授与

1) 試験の種類

試験は、原則として下記の種類があります。ただし、科目によっては授業時間中に随時期間外試験を行うことがあります。

試験は各授業科目の担当教員が行い、試験を受けることができる者は、当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席した者とします。

① 定期試験

前学期、後学期授業終了後に行います。

② 期間外試験

前学期試験、後学期試験の期間以外に行うことがあります。

③ レポート試験

上記の試験に代わり、レポート提出を求められることがあります。詳細は担当教員の指示に従ってください。

④ 追試験

病気、その他正当な理由により試験を受けられなかった場合、願い出が認められた者に対し追試験を実施します。

⑤ 再試験

試験及び追試験に不合格となった者について、授業担当教員は1回に限り再試験を行うことができます。

2) 追試験の手続き

追試験の受験を希望する者は、当該試験の終了から1週間以内に追試験願を事務室に提出しなければなりません。

なお、受験できなかった理由がわかる書類（病気やけがの場合は医師の診断書、その他忌引きや事故等による場合は証明できる書類等）の添付が必要です。

願い出が認められた場合は、担当教員の指示に従って受験することとなります。

なお、追試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の追試験は行いません。

3) 再試験の手続き

再試験を希望する者は、定められた期日までに再試験願に再試験料（1科目につき3,000円）を添えて申請し、学長の承認を得なければなりません。

なお、再試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の再試験は行いません。

4) 受験上の注意

ア. 座席は、別途指定された席についてください。

イ. 学生証は、写真の面を上にして通路側の机の上に置いてください。なお、学生証を携帯していない者、有効期限の切れた学生証持参の者は受験できません。ただし、当日事務室にて当日のみ有効の受験特別許可証を発行します。手数料は1,000円です。

ウ. 試験に必要な筆記用具、消しゴム等以外のものを机の上に置かないでください。

エ. 監督者の指示に従ってください。指示に従わない者には退場を命じ、その試験は無効とします。

オ. 遅刻は、試験開始後30分までを認め、それ以後の入室は認めません。

カ. 退室は、試験開始後30分経過するまでは認めません。

キ. 試験実施中は、スマホ・携帯電話及び腕時計のアラーム等の電源を切ってください。

ク. 不正行為を行った者には退室を命じ、当該科目または以後の全科目の受験を認めません。また、当該学期の履修科目の一部または全部の単位を認定しません。詳細は学生便覧の「平成医療短期大学試験等における不正行為に対する取扱基準」でご確認ください。

また、不正行為と見なされてしまう可能性のある行為（例：筆記用具や消しゴムの貸し借り等）は、決して行わないでください。

5) 成績評価

成績の評価は次のとおりです。(学則第26条第2項)

(平成28年度以降入学者)

成績は、本人に秀、優、良、可、不可の評価をもって通知します。

成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与えます。各試験の評価は、次のとおりです。

評価	前学期、後学期、期間外、 及びレポート試験等	追試験	再試験
秀	100点～90点	100点～90点	なし
優	89点～80点	89点～80点	なし
良	79点～70点	79点～70点	なし
可	69点～60点	69点～60点	100点～60点
不可	60点未満	60点未満	60点未満

<実習科目>

出席が当該実習科目の授業時間数の5/6以上を対象とし、成績評価は、秀(平成28年度入学者から適用)、優、良、可、不可とします。出席が当該実習科目の授業時間数の5/6に満たない場合は、補習実習を認める場合があります。

この場合は本学所定の申請用紙により、補習実習願を事務室に提出し、実習担当教員と学長の承認を得なければなりません。

<GPA> *グレード・ポイント・アベレージ

GPAとは、「秀」を4、「優」を3、「良」を2、「可」を1、「不可・失格」を0として各科目の成績を一定の基準で換算して、全体成績を数値で表記したものです。

[GPA算出方法] *小数第三位四捨五入

(平成28年度以降入学者)

$$\frac{([秀] \text{ 修得単位数} \times 4) + ([優] \text{ 修得単位数} \times 3) + ([良] \text{ 修得単位数} \times 2) + ([可] \text{ 修得単位数} \times 1) + ([不可] \text{ 修得単位数} \times 0)}{\text{総修得単位数} + (\text{不可・失格} \text{ 単位数})}$$

*GPAには、各期のGPAと入学からその時点までの通算GPAがあり、各期の成績表には両方のGPAが掲載されます。

*不可・失格について再履修で単位修得した場合は、過去の不可・失格の評価は通算GPAには算入されません。

*GPAは履修登録されたすべての科目が対象になります。よって、選択科目を必要単位数以上に履修申請した場合も、すべて対象になります。

*入学前既修得単位(単位認定科目)はGPA対象外です。

<GPAに基づく個別指導、退学勧告> (平成28年度入学者から適用)

成績不振の基準を、学期GPA1.5未満とし、該当する学生には次の各号により個別面談・指導等を行います。

- ① 学期GPAが1.5未満の場合は、指導教員による個別面談・指導を行います。
- ② 2期連続GPAが1.5未満の場合は、保護者同席のうえ指導教員による個別面談・指導を行います。
- ③ 3期連続または通算4学期のGPAが1.5未満の場合は、学長が退学勧告できます。

6) 成績発表

原則成績表を手渡しすることで発表とします。その際は必ず学生証を持参してください。

発表日時、場所等は時間割表に記載の上 GSuite クラスルームにてお知らせします。

なお、再試験の申し込みは成績発表の当日以降に行います。時間、場所等は GSuite クラスルームにてお知らせします。

8. 単位について

1) 単位の計算方法

学則第24条により、次のように定めています。

第24条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

二 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。

三 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

四 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組み合わせに応じ、次の表の換算時間により計算した総時間数が45時間となる授業をもって1単位とする。

授業の種類	授業1時間当たりの換算時間
講義	3時間
演習	1.5時間
実習・実験・実技	1時間

2) 単位の考え方

1) に記載されているように、1単位の学修時間を45時間としながら、実際の講義については15時間(30時間)で1単位としています。これは、45時間の中に講義以外の事前・事後学習の時間が含まれるとする考え方によるものです。

9. 卒業要件、学位の授与及び国家試験

1) 卒業要件

本学を卒業するためには、本学に3年以上在学し、本学学則の別表1に定める授業科目の次の表に示す単位を修得しなければなりません。

2) 学位の授与及び国家試験

所定の単位を修得すると、看護学科は「短期大学士(看護学)」(英訳名: Associate of Science in Nursing)の学位が授与され、看護師国家試験の受験資格が得られます。

国家試験は、厚生労働省により年1回実施されます。

<看護学科の卒業要件単位数>

区 分			必 修	選 択	合 計
総 合 教 育 科 目	教養教育科目	人間と科学	2 単位	2 単位以上	4 単位以上
		人間と社会	2 単位	2 単位以上	4 単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	3 単位	—	3 単位
		外国語	1 単位	1 単位以上	2 単位以上
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	人体の理解	6 単位	—	6 単位
		疾病の成り立ちと回復の促進	9 単位	—	9 単位
		社会の構造と環境	6 単位	—	6 単位
	専門科目	健康生活を支えるための看護 の原理と基礎	1 3 単位	—	1 3 単位
		健康生活を支えるためのライ フサイクル別看護活動	4 0 単位	—	4 0 単位
	統合科目	看護の統合と実践	1 2 単位	—	1 2 単位
合計			9 4 単位	5 単位以上	9 9 単位以上

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

教育目的
看護学科…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。

① 科手的根拠に表つた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
② 高度化・多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師

③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づき対象者への看護の実践及び多職種と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師

※ディプロマ・ポリシーの番号はP3の該当番号

★成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期)と成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期)は2年後期・3年前期のいずれかで履修する。

カリキュラムマップ＜看護学科＞ 2020年度以降入学生

建学の精神 「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づく 全学 … 教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

教育目的

- ①科学的根拠に基づいた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
- ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
- ③生命の尊厳と人間に対する全人的な深い理解に基づき対象者への看護の実践及び多職種と連携、協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
- ④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意思を持つ看護師

教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		1年次			2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー	
全学方針	看護学科方針	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	全学方針	看護学科
(1)社会生活に求められ、看護職として必要な教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	(1)豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ、対象者を全人的に深く理解するため、全学的に科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	前期	情報科学 環境と人間	後期				(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得	(1)豊かな人間性と教養を身につけ、看護職としての責任感や倫理観など、医療職として求められるコミュニケーション能力・倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。
		人間と社会	社会学 教育学 心理学 生命倫理学 コミュニケーション学	後期	英語Ⅰ（教養英語） 英語Ⅱ（日常英会話） 英語Ⅲ（専門英語） ドイツ語 中国語	前期				(1)看護職に求められる教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身につける。また、医療人として求められる教養を身につける。	
		コミュニケーション	基礎演習 文章表現法	後期	英語Ⅰ（教養英語） 英語Ⅱ（日常英会話） 英語Ⅲ（専門英語） ドイツ語 中国語	前期				(2)看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。	
		外国語	英語Ⅰ（教養英語） 英語Ⅱ（日常英会話） 英語Ⅲ（専門英語） ドイツ語 中国語	後期	英語Ⅰ（教養英語） 英語Ⅱ（日常英会話） 英語Ⅲ（専門英語） ドイツ語 中国語	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
(2)専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、病態などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	(2)看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。	人体の理解	解剖学Ⅰ（解剖学総論・骨格・筋系等） 解剖学Ⅱ（循環・神経・内分泌・消化器等） 生理学 生化学 微生物学	前期	疾病論Ⅰ（神経・循環系） 疾病論Ⅱ（呼吸と循環、代謝と栄養） 疾病論Ⅲ（神経と運動、生殖、排泄と感覚） 公衆衛生学 リハビリテーション概論 社会福祉学	後期	疾病心理学 カウンセリング論	前期		(2)看護の専門基礎知識の修得	
		社会の構造と環境	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
(3)看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目及び総合科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。	(3)看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目及び総合科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
(4)看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を提供するための実習科目を段階的に配置する。	(4)看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を提供するための実習科目を段階的に配置する。	看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を提供するための実習科目を段階的に配置する。	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を提供するための実習科目を段階的に配置する。	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を提供するための実習科目を段階的に配置する。	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を提供するための実習科目を段階的に配置する。	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
(5)看護職に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める。制度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために総合科目を配置する。	(5)看護職に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める。制度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために総合科目を配置する。	看護職に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める。制度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために総合科目を配置する。	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		看護職に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める。制度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために総合科目を配置する。	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		看護職に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める。制度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために総合科目を配置する。	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	
		看護職に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める。制度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために総合科目を配置する。	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	後期	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄） 基礎看護技術Ⅲ（修養・処置） 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	前期				(2)看護の専門基礎知識の修得	

※ディプロマ・ポリシーの番号はP0の該当番号

★成人看護学実習Ⅰ（慢性・回復期）と成人看護学実習Ⅱ（手術・急性・終末期）は2年後期・3年前期のいずれかで履修する。

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

基礎的な教養を身につける

- ・生物学
- ・化学
- ・ポラントイア論
- ・生命倫理学
- ・英語
- ・哲学
- ・教育学 など

- ・解剖学Ⅰ
- ・解剖学Ⅱ
- ・生化学 など

どんな病気になるか

- ・ 疾病論 I
- ・ 疾病論 II
- ・ 疾病論 III
- ・ 病態心理学
- ・ リハビリテーション

どんな看護が
必要か

- ・看護学概論
- ・基礎看護技術
- ・フィジカルアセスメント

- ・成人看護学
- ・高齢者看護学
- ・小児看護学
- ・母性看護学
- ・精神看護学 など

- ・基礎看護学実習
- ・成人看護学実習
- ・高齢者看護学実習
- ・小児看護学実習
- ・母性看護学実習
- ・精神看護学実習
- など

(1) 看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得

(2) 看護の専門基礎知識の修得

(3) 看護の専門知識・技術の修得

(4) 看護の対象者を主人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を遂行する実践力の修得

(5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身に付け、向上心と探究心をもち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

- ・保健行政論
- ・看護と法律
- ・医療と経済
- ・保健統計学
- ・障害者と福祉
- ・社会福祉学 など

教育学や哲学などが基礎になります

- ・総合判断育成演習
- ・災害看護論
- ・在宅看護論
- ・看護の統合実習 など

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療
福祉に相応し得る知識・技術及び実践力をもつ看護師

到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜看護学科＞

※学習成果の番号はカリキュラムマップ・関連図の該当番号

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
(2)看護の専門基礎知識の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等) 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) 生化学 栄養学 微生物学 疾病論Ⅰ(神経・病理組織) 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養) 疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚) 公衆衛生学 薬理学 リハビリテーション概論 社会福祉学 保健統計学 病態心理学 保健行政論 看護と法律 障害者と福祉 医療と経済 カウンセリング論	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得 (3)看護の専門知識・技術の修得 (4)看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得 (5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔) 基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄) 基礎看護技術Ⅲ(診察・処置) 基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習) フィジカルアセスメント 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ(基礎) 成人看護活動論Ⅱ(発展) 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅱ(発展) 小児看護学概論 母性看護学概論 小児看護活動論Ⅰ(基礎) 小児看護活動論Ⅱ(発展) 母性看護活動論Ⅰ(基礎) 母性看護活動論Ⅱ(発展) 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ(基礎) 精神看護活動論Ⅱ(発展) 在宅看護概論 在宅看護活動論Ⅰ(基礎) 在宅看護活動論Ⅱ(発展) 安全管理論 災害看護論 課題研究事前演習 課題研究 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(発展) 成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期) 成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) 高齢者看護学実習Ⅰ(基礎) 高齢者看護学実習Ⅱ(発展) 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護論実習 総合判断育成演習 看護の統合実習	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

シラバス

看護学科

◎ 看護学科
◆ 総合教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
教養教育科目	人間と科学	生物学	1年次前学期	江村正一	25
		物理学	1年次前学期	中村 琢	27
		化学	1年次前学期	武藤吉徳	29
		情報科学	1年次後学期	福岡大輔	31
		人間工学	1年次前学期	山田宏尚	33
		環境と人間	1年次後学期	大藪千徳	35
	人間と社会	社会学	1年次前学期	伊原亮司	37
		人間関係論	1年次前学期	神戸博一	39
		ボランティア論	1年次前学期	益川優子	41
		哲学	1年次後学期	竹内章郎	43
		教育学	1年次後学期	益川優子	45
		心理学	1年次後学期	大井修三	47
		生命倫理学 ※1	3年次前学期	塚田敬義、熊田ますみ、吉崎純夫	49
		生命倫理学 ※2	1年次後学期	塚田敬義、熊田ますみ、吉崎純夫	51
基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習(看護学科)	1年次前学期	小林美奈子、皮野さよみ、松野ゆかり、古田弥生、長屋江見、加藤清人 他	53
		文章表現法	1年次前学期	弓削 繁	55
		コミュニケーション学	1年次後学期	近藤ひろえ	57
	外国語	英語Ⅰ(教養英語)	1年次前学期	ジャマリ・マルジャン	59
		英語Ⅱ(日常英会話)A	1年次後学期	ジャマリ・マルジャン	61
		英語Ⅱ(日常英会話)B	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	63
		英語Ⅲ(専門英語)	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	65
		ドイツ語	1年次後学期	安藤彰浩	67
		中国語	1年次後学期	橋本永貢子	69

※1 2019年度以前入学生

※2 2020年度以降入学生

◎ 看護学科
◆ 専門教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門基礎科目	人体の理解	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等)	1年次前学期	佐竹裕孝	71
		解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等)	1年次前学期	佐竹裕孝	73
		生化学	1年次前学期	亀山泰永	76
		栄養学	1年次前学期	久保和弘	78
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ(神経・病理組織)	1年次後学期	武内康雄、山本容正	80
		疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養)	1年次後学期	近藤直実、松井永子、山本容正	82
		疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚)	1年次後学期	西本 裕 坂 義人、平野聡子、塩谷滝雄、大江直行、中山則之	84
		微生物学	1年次前学期	林 将大	86
		公衆衛生学	1年次後学期	和田恵子	88
		薬理学	1年次後学期	足立哲夫	90
		病態心理学	2年次前学期	深尾 琢、大井一高、杉山俊介、藏満彩結実、武藤恭昌、野瀬早織、高井健太郎、藤兼大輔	92
		リハビリテーション概論	1年次後学期	長谷部武久	94
		カウンセリング論	2年次前学期	山田日吉	96
	社会の構造と環境	保健行政論	3年次後学期	小林美奈子、田中 耕、鷺崎典子	98
		保健統計学	3年次前学期	紀ノ定保臣	100
		看護と法律	3年次後学期	鷺見高光	102
		障害者と福祉	3年次後学期	加藤清人	104
		医療と経済	3年次後学期	塩野美里	106
		社会福祉学	1年次後学期	竹内章郎	108

◎ 看護学科
◆ 専門教育科目 ◆

科目区分	科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論	皮野さよみ、小林美奈子	111
		基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔)	皮野さよみ、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	113
		基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄)	長屋江見、皮野さよみ、佐々木智恵、坂本裕子	116
		基礎看護技術Ⅲ(診察・処置)	長屋江見、皮野さよみ、佐々木智恵、坂本裕子	119
		基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習)	長屋江見、皮野さよみ、佐々木智恵、坂本裕子	122
		フィジカルアセスメント	眞田正世、河合克尚、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	124
		基礎看護学実習Ⅰ(基礎)	皮野さよみ、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子 他	127
		基礎看護学実習Ⅰ(基礎)	皮野さよみ、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子 他	129
		基礎看護学実習Ⅱ(発展)	皮野さよみ、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子 他	131
	健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	成人看護学概論	古田弥生	133
		成人看護活動論Ⅰ(基礎)	古田弥生、吉崎純夫、林宗典、森岡菜穂子、眞田正世、飯沼温美、粥川誠至	135
		成人看護活動論Ⅱ(発展)	古田弥生、吉崎純夫、林宗典、森岡菜穂子、中嶋武広	139
		成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期)	古田弥生、吉崎純夫、林宗典、森岡菜穂子	142
		成人看護学実習Ⅱ(手術・急性・終末期)	古田弥生、吉崎純夫、林宗典、森岡菜穂子	144
		高齢者看護学概論	熊田ますみ	146
		高齢者看護活動論Ⅰ(基礎)	熊田ますみ、二村美津子、加藤清人、山本容正、住若智子、中川幸代	148
		高齢者看護活動論Ⅱ(発展)	熊田ますみ、二村美津子	151
		高齢者看護学実習Ⅰ(基礎)	熊田ますみ、二村美津子 他	153
		高齢者看護学実習Ⅱ(発展)	熊田ますみ、二村美津子 他	155
		小児看護学概論	松野ゆかり	157
		小児看護活動論Ⅰ(基礎)	松野ゆかり、岩瀬桃子、近藤富雄、遠渡絹代、岡本友美、白木大輔、中川みのり	159
		小児看護活動論Ⅱ(発展)	松野ゆかり、岩瀬桃子	162
		小児看護学実習	松野ゆかり、岩瀬桃子 他	164
		母性看護学概論	皮野さよみ	166
		母性看護活動論Ⅰ(基礎)	皮野さよみ、清水ゆかり、平野聡子、山内久美子	168
		母性看護活動論Ⅱ(発展)	皮野さよみ、清水ゆかり、舩戸智子、鷺見陽恵	171
		母性看護学実習	皮野さよみ、清水ゆかり、舩戸智子、鷺見陽恵	173
		精神看護学概論	三品弘司	175
		精神看護活動論Ⅰ(基礎)	三品弘司、臼田成之、森敏幸	177
		精神看護活動論Ⅱ(発展)	三品弘司、臼田成之	180
		精神看護学実習	三品弘司、臼田成之	182
		課題研究事前演習	熊田ますみ 他	184
		課題研究	熊田ますみ 他	186
統合科目	看護の統合と実践	在宅看護概論	小林美奈子、山田剛司	189
		在宅看護活動論Ⅰ(基礎)	小林美奈子、堀 信宏、山田剛司、鷺崎典子、清水美智子、中川幸代	191
		在宅看護活動論Ⅱ(発展)	小林美奈子、山田剛司	194
		在宅看護論実習	小林美奈子、松野ゆかり 他	196
		安全管理論	眞田正世	198
		災害看護論	松田好美、額綱朋弥、杉山清美、白木大輔	200
		総合判断育成演習	熊田ますみ、皮野さよみ、長橋友恵 他	202
		看護の統合実習	熊田ますみ 他	204

看 護 学 科

教養教育科目
基礎教育科目

授業科目名		担当教員				
生物学		江村 正一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
すべての生物の基本構造である「細胞」についての理解をもとに、遺伝、発生、生命の進化と多様性などについて学び「生命」とは何かを考える。生物学で得た知識と理解が、将来、医療に携わるために修めなければならない、他の多くの科目の基礎となる。特に解剖学と生理学の学習にとって直接関係のある事象が多く出て来ますので、その部分については特に理解を深めてください。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 細胞・組織・器官について説明できる。 ② 遺伝・発生について説明できる。 ③ 進化・多様性について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	細胞とその構造について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
2	細胞膜の構造と機能について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
3	細胞の増殖について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
4	遺伝情報とその伝達について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
5	ヒトの遺伝と先天性異常について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
6	生殖について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
7	発生について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
8	呼吸系・消化系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
9	循環系・免疫系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	神経系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
11	内分泌系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
12	生命の進化と多様性について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
13	ヒトの起源と進化について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
14	生物と環境について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
15	人体の仕組みを学ぶことから生命とは何かを理解する	① ② ③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
課題に対するレポート提出（100%）						
使用教科書						
系統看護学講座 生物学 / 高畑ほか.--第10版--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03189-9						
参考図書						
適宜、参考資料を配布する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	課題に対する模範となる記述を掲示するとともに、質問をメールでも受け付ける。 E-mail:s.emura@heisei-iryuu.ac.jp					
備考						

授業科目名		担当教員				
物理学		中村 琢				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この授業は物理学の様々な分野について短期間で概括的に学習するものである。特に看護やリハビリテーションなど医療・看護の職に就く際には物理学の知識は必須であり、本授業では現場で働く際に役に立つ物理学の原理、原則についても扱う。後半では放射線についても扱い、実習を含める。授業の形態は一方的な情報伝達でなく、オンライン上でグループワークなど、学習者の主体的な学び（アクティブラーニング）を取り入れる。						
学 修 の 到 達 目 標						
①物理学の学習内容について理解し、自分の言葉で説明できる。 ②学習した内容を活用して計算、思考、探究することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物理学の基礎知識 第1回と第2回はパワーポイントで説明します。	①	中村		シラバスと教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
2	自然界の階層性 第1回と第2回はパワーポイントで説明します。	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
3	力学の基礎 1 第3回以降は黒板に板書します。	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
4	力学の基礎 2	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
5	力学の基礎 3	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
6	波動 1	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
7	波動 2	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
8	光と音の性質	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
9	電気と磁気	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	電流と電圧	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
11	原子と原子核	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
12	放射線の性質	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
13	放射線の利用と被ばく	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
14	放射線の測定	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
15	放射線被ばく防護	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
知識・理解、思考・判断・表現、技能、関心・意欲・態度の観点を経合的に判断する。 定期試験（50%）、時間内レポート・課題（30%）、授業参加態度（20%）						
使用教科書						
ここからスタート物理学 / 為近和彦、一葉華房、2018年、9784785322649 必ずしも教科書に沿って扱うわけではありません。学習者の実態に応じ授業中で使い方を説明します。						
参考図書						
自然科学の基礎としての物理学、原康夫、学術図書出版社、2014年、体系看護学 基礎科目 物理学、平田雅子、メヂカルフレンド社、2006年						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポートの総評を授業で説明する。レポート課題を出す前に、評価指標について詳しく説明します。					
備考	1. オフィスアワー：講義終了後20分程度。電子メールでの質問に随時対応します。 2. 質問等：講義時間中や授業終了後に受け付けます。Zoomのチャット機能での質問にもできるだけ対応しますが、受講者数が多い場合は電子メールで問い合わせてください。 3. 電子メールアドレス：nakamura@gifu-u.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
化学		武藤 吉徳				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
化学は「物質」を理解することを目的とする。医療技術に関わる多くの装置や薬品、そして人体など全てのものが物質で構成されているので、化学の知識は医療分野の基礎として非常に重要である。この講義では、化学の基礎的な内容を無機化学、有機化学の全般に亘ってなるべくわかり易く解説するよう努める。また、医療に関連する事項をできる限り多く取り上げて、専門科目への橋渡しとなるようにしたい。						
学 修 の 到 達 目 標						
①生体物質や医薬品を構成する元素や化学結合の特徴が理解できる。 ②主要な有機化合物について、その構造や性質を説明できる。 ③医療の場で出会う様々な物質、薬品について科学的特性を把握できる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物質の特性	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
2	原子と分子	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
3	化学結合	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
4	物質の三態・溶液とコロイド	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
5	塩化物	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
6	酸・アルカリ	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
7	無機化合物	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
8	放射性元素	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
9	有機化合物概要	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脂肪族炭化水素	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
11	酸素、窒素を含む有機化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
12	カルボン酸、その他	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
13	芳香族化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
14	脂環・複素環化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
15	生体物質	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
評価基準：化学物質に関する知識・理解を重要視する。 定期試験 (100%)						
使用教科書						
系統看護学講座基礎分野「化学」 / 奈良雅之. --第7版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03181-3						
参考図書						
舟橋弥益男・渡辺昭次 著 「炭素化合物の世界」東京教学社						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出されたレポートにコメントをつけて返却する。					
備考	授業中に質問の時間を取るほか、質問紙による質問には、次回の授業時に回答する。					

授業科目名		担当教員				
情報科学		福岡 大輔				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
情報科学において基礎となるデジタル化とネットワークによる情報の蓄積・交換を中心として、情報社会のすがたを描きつつ情報システムやビックデータを活用した業務や生活の変革について検討する。さらに、医療分野をはじめとした情報通信技術や人工知能の活用について調査し、レポートやプレゼンテーションを作成する過程をとおして、問題解決に情報手段を活用するための情報活用能力を身につける。このために、本学が整備しているgoogleのclassroomをはじめとした各種サービスを利用する。						
学 修 の 到 達 目 標						
情報社会の特徴を理解し、将来の社会像や働き方、生活等を具体的に描いて論述できる。 ② 情報手段を効果的に活用して協働学習を行い、課題解決を効果的に推進することができる。 ③ 本学の提供するgoogle classroomをはじめとした各種サービスを活用する基礎技能を習得する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	情報とコンピュータおよび通信ネットワーク， google classroomの利用	① ③			配布資料を読み情報科学への理解を深める (120分)	配布資料を読みまとめる (120分)
2	Society 5.0が描く情報社会の現在と未来を知る	①			Society5.0について事前調査 (120分)	Society5.0を説明できるようにまとめる (120分)
3	社会インフラにおけるデータ活用	①			社会インフラと情報技術について事前調査 (120分)	社会インフラと情報技術についてまとめる (120分)
4	医療分野における情報化の進展	①			医療現場における情報システムについて事前調査 (120分)	医療現場における情報システムについてまとめる (120分)
5	無線通信を活用するこれからの医療	①			医療現場における無線通信技術の活用について事前調査 (120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる (120分)
6	情報通信技術を活用したマルチアクセス環境におけるレポート作成 (google ドキュメント利用)	② ③			レポートのアウトライン作成 (120分)	レポートの修正・加筆 (120分)
7	情報通信技術を活用した共同作業によるプレゼンテーション作成 (google プレゼンテーション利用)	② ③			プレゼンテーションのアウトライン作成 (120分)	プレゼンテーションの修正 (120分)
8	情報通信技術を活用したこれからの医療に関する調査報告	①			調査報告の検討 (120分)	調査報告の修正 (120分)
9	進化する自動車関連技術	①			自動運転技術についての事前調査 (120分)	専門用語を説明できるようにまとめる (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	人工知能の進展による社会の変化	①			人工知能の仕組みについて調査(120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる(120分)
11	情報社会への備えに関する現状調査と課題設定	②			調査課題の事前検討(120分)	調査課題の再検討(120分)
12	情報社会への備えに関する調査項目の検討と調査フォームの作成(google Forms利用)	② ③			調査のアウトライン検討(120分)	レポートの修正・加筆(120分)
13	情報社会への備えに関する調査結果の集計とグラフ作成(google スプレッドシート利用)	② ③			調査結果のまとめ方の事前検討(120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる(120分)
14	情報社会への備えに関するプレゼンテーションとハンズオンの作成(google ハングアウト利用)	② ③			プレゼンテーションのアウトライン作成(120分)	プレゼンテーションの修正(120分)
15	情報社会への備えに関する調査研究の報告	①			調査研究報告発表の検討(120分)	調査研究報告の修正(120分)
	レポート試験					
評価基準・評価方法						
① 知識・理解は、授業中の対話状況、質疑応答等での評価と数回的小レポートで評価する。(30%) ② 情報手段の活用及び態度は、classroom利用状況、課題提出、成果物で評価する。(20%) ③ 思考・判断は、授業中の対話、レポートにおける論述における批判的思考に基づく論理展開の深さで評価する。(50%)						
使用教科書						
なし						
参考図書						
情報科学基礎-コンピュータとネットワークの基本, 伊東俊彦, ムイスリ出版, 2015, ISBN978-4-89641-235-2						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	授業では資料配布, 課題提出・評価等はGoogle classroomを用いて実施し, 教師と学生, 学生相互のコミュニケーションに活用する。その内容はclassroom内で公開して共有する。					
備考	授業時間以外にもコミュニケーションのためにclassroomへのアクセスが必要となる。					

授業科目名		担当教員				
人間工学		山田 宏尚				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
人間が普段無意識に行っている身体運動や生命維持活動は、筋肉・骨格・内臓・血管など身体の各部位に働く力やモーメントをはじめとした物理学的メカニズムによって成立している。本講義では、医療行為の具体例に基づいて、身体活動の物理学的なメカニズムを学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 人間の身体活動に関わる物理学の基礎を身につけることができる。 ②物理的根拠に基づく治療行為を実践するための基礎を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
2	重いものを持つにはどうしたらよいか (1)	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
3	重いものを持つにはどうしたらよいか (2)	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
4	看護ボディメカニクスの物理 (1)	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
5	看護ボディメカニクスの物理 (2)	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
6	身近な圧力 (1)	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
7	身近な圧力 (2)	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
8	呼吸器と吸引の物理 (1)	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
9	呼吸器と吸引の物理 (2)	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	点滴静脈内注射の物理（１）	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
11	点滴静脈内注射の物理（２）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
12	循環器の物理（１）	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
13	循環器の物理（２）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
14	感覚器の物理	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
15	体温制御の物理，総復習	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
・評価基準： 知識の修得度と計算能力（目標①）、応用的思考能力（目標②） ・評価方法： 定期試験（70%）、小テスト・宿題・授業態度（30%）で評価する。						
使用教科書						
看護学生のための物理学 / 佐藤和良.--第5版--医学書院，2014年，ISBN978-4-260-02051-0						
参考図書						
適宜紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出された課題について全体の総評コメントを口頭にて公開する					
備考	・毎回の授業で小テストを実施し、随時課題を課す。 ・オフィスアワー： 講義前後の時間に非常勤講師室で待機する。 ・質問： 講義中やオフィスアワーに直接、それ以外にメール（yamada@gifu-u.ac.jp）で随時受け付ける。					

授業科目名		担当教員				
環境と人間		大藪 千穂				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
資源・環境問題を解決し、持続可能な社会を構築することが、21世紀最大の課題である。しかし、そのためのアプローチの方法は、まだ、見出されていない。この講義では、環境問題は人間の問題であるとの観点に立ち、環境と人間の関係を、生活と情報によってむすびつけ、環境問題を根本的にとらえなおし、環境問題の解決法を考え、持続可能な社会を展望する。また、人間の成長・発達や脳疾患のリハビリ等に対して、環境が果たす重要な役割を考察する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①受講者ひとりひとりが、自分で問題解決の手がかりを、考え、見出すことができる。 ②既存の考え方や方法にとらわれることなく、自分自身の考え方をもち、発展させることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	環境問題とは何か？	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
2	環境問題の原点、水俣病の問題を、生産、消費、環境から考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
3	家庭生活から環境問題の本質を探る。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
4	衣生活から環境を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
5	食生活から環境を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
6	簡易生ゴミ分解器を製作し、その活用法を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
7	河川環境と人間の関係を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
8	情報から環境と人間を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
9	人間形成に対する情報と環境の意味を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳障害者の発達、脳疾患のリハビリを、環境と情報の観点から捉えなおす。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。 (120分)	授業時に配布されたプリントを読む。 (120分)
11	環境教育のあり方を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。 (120分)	授業時に配布されたプリントを読む。 (120分)
12	アーミッシュと現代社会を比較する。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。 (120分)	授業時に配布されたプリントを読む。 (120分)
13	近代のライフスタイルを再考する。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。 (120分)	授業時に配布されたプリントを読む。 (120分)
14	生態学の意味を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。 (120分)	授業時に配布されたプリントを読む。 (120分)
15	環境と情報から、持続可能な社会を展望する。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。 (120分)	授業時に配布されたプリントを読む。 (120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
評価基準は、知識・理解、思考・判断、授業態度の総合であるが、特に、各自のオリジナルな思考を重視する。 評価方法は、レポート（50%）、小レポート・小テスト（30%）、授業態度等（20%）による。						
使用教科書						
21世紀の情報とライフスタイル / 杉原利治.--論創社、2001年、ISBN978-4-8460-0261-9						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。					
備考	毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。					

授業科目名		担当教員				
社会学		伊原 亮司				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この講義は、現代社会のあり方について学ぶ。なかでも、ほとんどの人にとって切実なテーマである＜働くこと＞に焦点をあてて、現代社会のあり方を理解する。わたしたちは、人生の早い段階から＜働くこと＞を意識させられ、その準備をするように煽られている。しかし、働く場の実態については無知なまま、耳に優しい言葉ばかりを聞かされる。本講義は、現代社会における労働の現実を理解し、自分たちの働き方を構想することを目的とする。医療関連の仕事に就く予定である受講者は、「就活」にはさほど困らないかもしれない。しかし、働き出してから、「いじめ」、「うつ病」、「過労死」といった様々な問題に直面する可能性がある。医療従事者は「感情労働者」ともいわれ、専門知識のみならず、コミュニケーションの仕方や感情の表出の仕方など、人格に関わる側面が重視される。感情労働に付随する問題点を理解し、「うつ病」や「過労死」から自分の身を守る術を習得して欲しい。						
学 修 の 到 達 目 標						
①現代社会における働く場の実態を理解できる ②その際に、いかなる視点から「現実」を切り取ればいいのか、分析枠組みを理解することができる ③自分自身で職場の実態を捉えられるようになる ④＜働くこと＞に対する自分のスタンスを考えることができる ⑤その際、狭義の「能力」の形成に励むだけでなく、自分の「身の守り方」にも留意することができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	イントロダクションー＜働くこと＞とは	②			テキストの「はじめに」と「おわりに」を読み、概要を理解する (120分)	講義を踏まえた上で、テキストの全体像をイメージする (120分)
2	従来の社会と働き方ー「日本的経営」と「企業社会」	① ②			テキストの第一章を読み、概要を理解する (120分)	第一章を読み直し、ドラッカーの経営思想を復習する (120分)
3	労働社会の変容ー学校、会社、家庭の関係	① ③			テキストの第一章から、現代社会の変容の概要を理解する (120分)	戦後日本の労働社会の変容を自らたどる (120分)
4	働く場の実態Ⅰー過労死・過労自殺	① ③			テキストの第四章を読み、概要を理解する (120分)	テキストの第四章から、過労死と過労自殺の違いを復習する (120分)
5	組織や役割への過剰適応	④			テキストの第四章から、組織への「過剰適応」について頭に入れる (120分)	逸脱と過剰適応との違いを復習する (120分)
6	働く場の実態Ⅱー「うつ病」	① ③			テキストの第三章を読み、概要を理解する (120分)	第三章を読み直し、精神疾患と労働との関係を復習する (120分)
7	感情労働の特質	④			テキストの第三章から、「感情労働」の特徴をつかむ (120分)	肉体労働、知的労働との違いを理解する (120分)
8	働く場の実態Ⅲー「ハラスメント」	① ③			テキストの第二章を読み、概要を理解する (120分)	日産の事例を追いながら、いじめとハラスメントとの違いを理解する (120分)
9	経営合理化と過度のプレッシャー	④			テキストの第二章から、相互扶助と相互監視のメカニズムを理解する (120分)	職場における過度のプレッシャーが生じる理由を考える (120分)。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	働く場の実態Ⅳ－職場秩序の悪化	① ③			職場秩序の悪化のメカニズムについて、概要を理解する (120分)	現在の職場における「秩序」の崩壊理由を整理する (120分)
11	非正規雇用の増大	① ③			雇用規制の緩和と非正規雇用の増大の実態について理解する (120分)	非正規雇用が増大した契機・時期・理由を整理する (120分)
12	新しい働き方とは	① ④			テキストの第六章を読み、概要を理解する (120分)	「日本的経営」から新自由主義に基づく経営への推移を整理する (120分)
13	社会貢献という働き方	① ④			テキストの第七章を読み、概要を理解する (120分)	「社会貢献」の問題点について整理する (120分)
14	働くということを考え直す	④ ⑤			テキストの第七章を読み、＜働く＞ということを考え直す (120分)	賃労働とは何かを考え直す (120分)
15	労働を規制する、勤勉さを相対化する	④ ⑤			テキストの第八章を読み、概要を理解する (120分)	講義を踏まえた上で、自らの働き方を構想する (120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
授業への参加態度（20％）、レポート（20％）、テスト（60％）などから総合的に評価。						
使用教科書						
私たちはどのように働かせるのか / 伊原亮司, 一こぶし書房, ISBN978-4-87559-299-0						
参考図書						
講義中に適宜紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義前に、予習時にわからなかったことを聞く。また、講義の最後に、理解が不十分な点を意見してもらう。					
備考						

授業科目名		担当教員				
人間関係論		神戸 博一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この講義では、日常生活や職場、家族、医療の現場などで起こる様々な人間関係について理解し、より良い人間関係を築くために学びます。まず人間関係の基本的な意義・視点から、職場での人間関係論、生涯にわたる人間発達と人間関係、更に人間関係を構成する自己と他者、人間関係の成立と維持、対立について学びます。次いで人間関係を円滑に進めるために、コミュニケーションの基礎・基本、マスコミ、インターネットなども学びます。なお、人間関係は、Human Relationなので、授業計画の中で、HRと略して使います。						
学 修 の 到 達 目 標						
テキストの内容について、学生自身が考え、充分に理解し、そこから実践できるレベルを目標とします。						
①人間関係の意義・視点について考えることができる。		⑥人間関係が成立し、維持するルール、葛藤・対立への対処法を学び、実践できる。				
②職場の人間関係と対処法について理解できる。		⑦コミュニケーションの基礎、基本が理解できる。				
③生涯の人間発達と人間関係について知り、応用できる。		⑧コミュニケーションの種類、その長短が理解できる。				
④人間関係の一方である自己が理解できる。		⑨マスコミの基本、影響について理解できる。				
⑤他者が理解できる。		⑩インターネットと人間関係について知る。				
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	シラバス（成績評価の試験、学習対策、成績評価の基準など）第1章人間関係の中の自己と他者 A人間関係論とは	①			シラバス、①関係的存在としての人間、生理的早産について（120分）	身近なHRでは何があるか、生理的早産の意味とは何か（120分）
2	野生児について	①			フランスやインドの野生児と社会、HR（120分）	野生児の定義、特殊な「実験」の意味とその結果は（120分）
3	メーヨーのホーソン実験	②			②人間関係論のはじまりで、ホーソン実験の概要とインフォーマル論について（120分）	ホーソン実験のポイント、その結論とインフォームドコンセントとの関係（120分）
4	人間関係の発達 ― エリクソンの理論	③			③人間関係の発達で、その段階と課題、HRを理解する（120分）	特に、乳児期、青年期、老年期について、子どもの虐待をデータからみる（120分）
5	B自己認知 ― 自己概念	④			①自己概念で、文化の相違 ②関係的自己とは（120分）	鏡に映った自己とは西欧的自己と日本的自己との対比・比較（120分）
6	自己認知 ＝ 自己評価	④			③自己評価で、他者との比較の仕方 ④自己呈示の意味や目的、内面化（120分）	下方比較、上方比較の相違について（120分）
7	C 対人認知 ― 印象形成、バイアス	⑤			①印象形成で、断片の情報と全体像との関係 ②バイアス、偏見について（120分）	ステレオタイプの具体例を挙げる 予言の自己成就とは（120分）
8	第2章 対人関係と役割 ― A 対人関係の成立	⑥			他者との関係が成立する魅力や好意の条件は6つあり、その内容を理解する（120分）	カメレオン効果、単純接触効果、錯誤帰属とは（120分）
9	B 対人関係の維持	⑥			①社会的交換で、対人関係を維持する条件の4つ ②私的利益と公的利益のジレンマ（120分）	社会的交換の4つのモデルのうち、どれが良いと考えるか 囚人のジレンマ（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	C 対人関係の葛藤と対処	⑥			①葛藤の分類で、その3つの水準 ②認知のバイアス ③不合理な思考 ④対処 (120分)	原因帰属のバイアスとH R、葛藤への対処法と有効性、燃え尽き症候群 (120分)
11	第5章 A コミュニケーション - 基本	⑦			①コミュニケーションの定義 ②コミュニケーションの目標 (120分)	コミュニケーションのモデルとは (120分)
12	B 対人コミュニケーション	⑦			①コミュニケーションの機能 ②コミュニケーションのチャネル (120分)	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの特徴と種類 (120分)
13	コミュニケーションの種類 - メリット・デメリット	⑧			③口頭と書面の相違 ④コンテキストと文化 (120分)	高コンテキストと低コンテキストの比較、医療のコンテキスト (120分)
14	C マスコミュニケーション - 影響・効果	⑨			①映像メディアと活字メディア ②マスメディアの効果 (120分)	マスメディアの効果についての研究の変化 (120分)
15	D ICTの発達とコミュニケーション	⑩			①インターネットや②SNSの利用状況、注意点 ③人間関係への影響 (120分)	SNS利用するさいの注意点、最近の社会問題について (120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
持ち込み物なしの筆記試験(100%)学んだことの理解、記憶、表現力などが評価されます。ただし、新学期の社会環境によっては、オンライン授業(資料配付)に切り替え、提出課題の点数化による評価に変えます。						
使用教科書						
系統看護学講座基礎分野 人間関係論 / 石川ひろの 他.--第3版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03170-7						
参考図書						
特に指摘しない。教科書の章ごとに、その最後に「参考文献」一覧が提示されているので、必要に応じ、利用する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義がある程度進展した段階で小テスト(10分ぐらい)を予告し、実施します。この小テストは、持ち込みなしで実施し、次回以降の授業で小テストの答案を返却します。解答の状況、正解や解答のポイントなどについてコメント、解説します。オンライン授業になった場合は、メールでやり取りします。jiemon13@outlook.jp					
備考	教科書『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』(石川ひろの編)を利用し、特にその第1章と第2章、第5章を学びます。授業の前後の時間帯に非常勤講師室を訪問することをお勧めします。1年後期「コミュニケーション学」がありますが、本講義と内容的なかかわりが強く、「事前学習」と位置付けられるでしょう。					

授業科目名		担当教員				
ボランティア論		益川 優子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
本講義においては、1990年代中頃より日本社会に普及・定着したボランティア活動について、普及・定着の社会的背景、ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義、ボランティア活動が社会にもつ意味・意義、そしてボランティア活動によって切り拓かれる新たな社会のあり方等について概括的認識を得るとともに、そうした認識に基づいて現代社会の諸問題・課題の解決に主体的・能動的に参画しようとする、ボランティアとしての態度・心構えを形成することを目標とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①ボランティア活動の定義について歴史的背景を踏まえながら説明できる。 ②ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。 ③ボランティア活動を支援する意味とボランティア活動支援専門機関の役割について理解し、説明することができる。 ④ボランティア活動を通じて社会に参画しようとする主体的・能動的な態度・心構えが形成されている。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ボランティアとは何か	①			自身の持つ「ボランティア」という言葉に関するイメージをノートに列挙してくる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
2	ボランティアにかかわる思想と歴史の変遷	①			ボランタリズム、利他主義、ボランティア・アクションという言葉について調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
3	ボランティア活動の現状と課題	① ②			NPO法人の活動分野、認定NPO法人制度について調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
4	ボランティアと現代社会	① ② ④			自己実現、ボランティア・セクターについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
5	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み	① ② ③			COS、セツルメント運動について調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
6	ボランティアに期待される社会的役割	② ③			ノーマライゼーション理念、ソーシャル・アクションについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
7	地域社会のボランティア	② ③ ④			ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョンについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
8	環境とボランティア	② ③ ④			ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョンについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
9	災害ボランティア	② ③ ④			東日本大震災等の大規模災害において、被災者の生活復興に関する課題を調べる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	国際ボランティア	② ③ ④			NGO、シンパシーとエンパシーについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
11	ボランティア学習	② ③ ④			生涯学習、ESDについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
12	ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター	③			JVCAについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
13	ボランティア組織の運営	③			OJT、Off-JT、SDの違いについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
14	ボランティアの可能性と展望	④			ボランタリズムとボランタリズムの逆説について考察してくる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
15	ボランティア活動と自分	④			これまでの学習を踏まえ、自身にとってのボランティアの意義と社会的役割について考察してくる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
受講態度（時間内レポートを含む）30%、レポート70%						
使用教科書						
なし						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	※授業時間内で作成して頂いた小レポートは、コメントをつけて返却いたします。 ※学期末レポートについては、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。					
備考	質問等ございましたら授業終了後、気軽に声をかけてください。					

授業科目名		担当教員				
哲学		竹内 章郎				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
自由・平等・友愛（共同性）は、近代社会全般の基礎とされるが、この講義では、自由と共同性との関連も重視しながら、平等とはいかなることかの解明を中心に、格差や不平等が広まる現実を根本から（ラディカルに）理解することを目指す。近代思想史や哲学史の理解も、そのための手段であるという位置づけで、講義をしたいと考えている。						
学 修 の 到 達 目 標						
①大きな問題を根本から考える姿勢を身に付けるために、抽象度の高い言葉を理解しこれがある程度使えるようにする						
②近代思想・近代哲学の基本を一定程度理解できる。						
③現代社会の課題の基本を捉える姿勢を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス（全体の進行について、資料の使い方など）	①			資料の前書きの熟読(120分)	講義内容の復習(120分)
2	現代において平等を問うことの意味＜教科書iii～vii頁＞	③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
3	平等はなぜ避難されることが多いのか？ 平等の根本的定義(1)＜教科書1～14頁＞	①			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
4	平等はなぜ避難されることが多いのか？ 平等の根本的定義(2)＜教科書14～31頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
5	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(1)＜教科書33～44頁＞	②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
6	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(2)＜教科書44～54頁＞	②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
7	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(3)＜教科書54～68頁＞	②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
8	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(4)＜教科書～68頁＞	②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
9	悪平等はなぜ生まれたのか？ 伝統的平等論の意義と問題(1)＜教科書69～93頁＞	①			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	悪平等はなぜ生まれたのか？ 伝統的平等論の意義と問題 (2) <教科書93～117頁>	①			左記該当箇所の熟読 (120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習 (120分)
11	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論 (1) <教科書119～143頁>	① ③			左記該当箇所の熟読 (120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習 (120分)
12	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論 (2) <教科書143～166頁>	① ③			左記該当箇所の熟読 (120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習 (120分)
13	新たな平等論の体系の構築に向けて (1) <教科書 167～185頁>	① ③			左記該当箇所の熟読 (120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習 (120分)
14	新たな平等論の体系の構築に向けて (2) <教科書185～200頁>	① ③			左記該当箇所の熟読 (120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習 (120分)
15	新たな平等論の体系の構築に向けて (3) <教科書200～215頁>	① ②			左記該当箇所の熟読 (120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習 (120分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
授業への取り組みと定期試験の結果による。						
使用教科書						
使用しない (講義に先立って、講義全体に関する資料を配布する。)						
参考図書						
必要に応じて講義中に紹介する。						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	講義について、適宜配布する質問用紙に記入してもらう内容に、その都度応答する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
教育学		益川 優子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
本講義は、人間が生き、成長・発達していく上で教育がどのような意義を持ち、社会においてどのような役割をはたすのかについて考察していきます。また、教育をとりまく現代の諸問題を多面的に捉えつつ、教育という営みの現代的意義についても考察していきます。						
学 修 の 到 達 目 標						
①教育の概念と機能、その役割について説明できる。 ②人間の生涯発達理論について説明できる。 ③他者とのかかわりを導く技法を使うことができる。 ④現代の教育と教育を取り巻く諸問題について自分の考えを持つことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	教育の概念	①			自身の持つ「教育」という言葉に関するイメージをノートに列挙してくる。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
2	学ぶということ・教えるということ	①			第1回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
3	生涯発達理論①乳児期～幼児期	②			第2回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
4	生涯発達理論②児童期～青年期	②			第3回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
5	生涯発達理論③成人期～老年期	②			第4回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
6	教育の営みと教育を取り巻く諸問題	① ④			第5回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
7	他者とのかかわり	③			第6回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
8	他者とのかかわりを導く技法	③			第7回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
9	教育の目標と評価	①			第8回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	教育のデザイン	①			第9回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
11	キャリア教育	④			第10回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
12	ジェンダーとセクシュアリティ	④			第11回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
13	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	④			第12回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
14	生涯教育	④			第13回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
15	シティズンシップ教育	④			第14回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
受講態度30%、定期試験70%						
使用教科書						
なし						
参考図書						
適宜紹介いたします。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	※定期試験については、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。					
備考	質問等ございましたら授業終了後、気軽に声をかけてください。					

授業科目名		担当教員				
心理学		大井 修三				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
心理学を正しく理解していると、人と人が関わる場所では、相手の理解に強力な武器となる。なぜなら、①心理学は他者理解の学問だからである。医療従事者と患者さん、医療従事者同士、日常の人間関係など。しかし、「心理学」という言葉は知っていても、心理学を正しく理解している人はなかなかいない。それは、心理学をきちんと勉強した人がなかなかいないということである（授業1）。そこで本授業では、相手の心を理解するということはどういうことか（授業2, 3, 4, 5, 6, 7）、③一人一人違うということはどういうことか（授業8, 9, 10, 11）、④相手に目的に向かって動いてもらうということはどういうことか（授業12, 13, 14, 15）の3点を中心に、医療現場で他者との関係をうまく成立させることに役に立つ心理学の話をする。なるべく日常の状況に合わせた事例を紹介しながら、他者理解に必要な視点を育む。						
学 修 の 到 達 目 標						
これらの授業を通して、①相手の「心」を直接把握することができないこと、②相手の「心」は推測でしか扱えないこと、③同じ状況でも人によって違う心が推測されうること、④自分の心を相手にわかってもらうためには推測し易い情報を提供しなければならないこと、その上で相手との人間関係を考えなければいけないことを理解して、人間関係に活用することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	イントロダクション：「行動」を説明する「心」：授業の概要、評価の方法	①			テキストのイントロダクションを読み、PPW資料の該当部分を考える。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
2	「心」を知る方法：直接覗くことはできない「心」	①			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
3	「心」を知る方法：「行動」から「心」を推測する	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
4	「心」を知る方法：「心」の推測には行動と刺激の情報が必要	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
5	「相手の心」は私の中に出来上がる：相手の「心」は主観的解釈	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
6	我々の理解とは？：現象の主観的な理解	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
7	科学的学問としての心理学:主観性と客観性	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
8	心理学の中心テーマ：個人差	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
9	個人差を規定する要因1：遺伝	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	個人差を規定する要因2：環境	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
11	個人差を規定する要因3：遺伝と環境の相互作用	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
12	要求・動因・行動とフロイト理論	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
13	行動を出現させるもの：動因と誘因	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
14	動機づけの機能	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
15	要求の生得性と習得性	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
評価は、毎回授業で紹介される内容を理解し、自らの身近な事象に利用できるようになっているかで見ると同時に授業中に解決できなかった質問も書いてよい。その質問には、翌授業回で解説する。						
使用教科書						
教科書は特に用いない。 (授業に必要な資料は、授業開始時及び時間中に配付する。)						
参考図書						
適宜、紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回の授業の終わりにコミュニケーションカードを提出してもらう。ここには授業内容のまとめと同時に授業中に解決できなかった質問も書いてよい。その質問には、翌授業回で解説する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
生命倫理学		塚田 敬義・熊田 ますみ・吉崎 純夫 (代表教員 塚田 敬義)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	2単位 (30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）、吉崎純夫（看護師）				
授 業 概 要						
バイオエシックス（生命倫理学）の基礎的な事項を学習する。現代の医療においては医師だけではなく、多くの医療に関係する職種が協力し、チーム医療を担っている。それぞれの職種に高い倫理観が求められている。本講義では、バイオエシックスに係る歴史的背景から最新の問題群にいたるまで、デジタル教材を活用しながら講義形式で分かり易く解説するとともに医療の現場を想定した事項のグループワークを行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
医療専門職に不可欠な倫理観を身につけるため、バイオエシックスに係る問題群について、倫理的・法的・社会的問題として捉え、思考し行動に移せる能力を修得する。 ①バイオエシックスの歴史的背景等から、人間の尊厳の尊さを理解し、説明することができる。 ②講義の各論から、問題の本質を見極め、立場の違いを理解したうえで、解決に向けた多角的な思考ができる。 ③医療の現場を想定したグループワークを通じて、患者、家族、看護師のそれぞれの立場から倫理的な思考ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	バイオエシックス総論①（ガイダンス、基礎概念、歴史的背景WWⅡ以前）	①	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
2	バイオエシックス総論②（歴史的背景WWⅡ以後）	①	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
3	自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント）①	②	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
4	自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント）②	②	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
5	生殖補助医療の問題（人工授精、体外受精、代理母）	②	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
6	脳死・臓器移植をめぐる問題（脳死の定義、臓器移植法、移植システム）	①	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
7	医療の現場で人と関わる職についての倫理	③	熊田	講義	看護学概論のテキスト（看護倫理）のページに目を通す（120分）	現代医療における様々な倫理的問題をまとめる（120分）
8	医療の現場で人と関わる職についての倫理的問題を考える GW①	③	熊田 吉崎	講義 演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる（120分）	臨床倫理アプローチ（四分割表）について振り返る（120分）
9	医療の現場で人と関わる職についての倫理的問題を考える GW②	③	熊田 吉崎	演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる（120分）	臨床倫理アプローチ（四分割表）について振り返る（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	医療・看護に関わる倫理問題	③	吉崎	講義	生命倫理の4原則をまとめる (120分)	授業後にその内容を説明できるようまとめる (120分)
11	医療・看護に関わる倫理問題を考える GW①	③	熊田吉崎	演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる (120分)	医療・看護に関わる倫理問題について振り返る (120分)
12	医療・看護に関わる倫理問題を考える GW②	③	熊田吉崎	演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる (120分)	医療・看護に関わる倫理問題について振り返る (120分)
13	医療・看護に関わる倫理問題を考える GW③	③	熊田吉崎	演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる (120分)	課題レポートを作成し提出する (120分)
14	終末期をめぐる問題 (尊厳死、安楽死、治療中止、鎮静、緩和医療)	②	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す (120分)	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる (120分)
15	広義のバイオエシックス (動物倫理、環境倫理) と研究をめぐる倫理	①	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す (120分)	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる (120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
定期試験 (90%)、グループワークでの参加度と発表 (10%) を参考に総合的に評価する。						
使用教科書						
生命倫理・医事法 / 塚田敬義ほか、--改訂版--医療科学社、2018年、ISBN978-4-86003-497-9 事例でまなぶ ケアの倫理 / 大北全俊・桑原秀之・高橋綾、--ナース・サブリ 編集委員会--メディカ出版、2015年、ISBN978-4-8404-5755-2						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	実施する定期試験およびミニレポートについては、総評を掲示する。					
備考	適宜、補足資料を配布し、理解が深まるよう講義する。 特段、オフィスアワーは設けないが、講義終了後に質問等について対応する (この時間を活用してください)。					

授業科目名		担当教員				
生命倫理学		塚田 敬義・熊田 ますみ・吉崎 純夫（代表教員 塚田 敬義）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	2単位 (30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）、吉崎純夫（看護師）				
授 業 概 要						
バイオエシックス（生命倫理学）の基礎的な事項を学習する。現代の医療においては医師だけではなく、多くの医療に関係する職種が協力し、チーム医療を担っている。それぞれの職種に高い倫理観が求められている。本講義では、バイオエシックスに係る歴史的背景から最新の問題群にいたるまで、デジタル教材を活用しながら講義形式で分かり易く解説するとともに医療の現場を想定した事項のグループワークを行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
医療専門職に不可欠な倫理観を身につけるため、バイオエシックスに係る問題群について、倫理的・法的・社会的問題として捉え、思考し行動に移せる能力を修得する。 ①バイオエシックスの歴史的背景等から、人間の尊厳の尊さを理解し、説明することができる。 ②講義の各論から、問題の本質を見極め、立場の違いを理解したうえで、解決に向けた多角的な思考ができる。 ③医療の現場を想定したグループワークを通じて、患者、家族、看護師のそれぞれの立場から倫理的な思考ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	バイオエシックス総論①（ガイダンス、基礎概念、歴史的背景WWⅡ以前）	①	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
2	バイオエシックス総論②（歴史的背景WWⅡ以後）	①	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
3	自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント）①	②	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
4	自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント）②	②	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
5	生殖補助医療の問題（人工授精、体外受精、代理母）	②	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
6	脳死・臓器移植をめぐる問題（脳死の定義、臓器移植法、移植システム）	①	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す（120分）	各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分）
7	医療の現場で人と関わる職についての倫理	③	熊田 吉崎	講義	看護学概論のテキスト（看護倫理）のページに目を通す（120分）	現代医療における様々な倫理的問題をまとめる（120分）
8	医療の現場で人と関わる職についての倫理的問題を考える GW①	③	熊田 吉崎	演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる（120分）	臨床倫理アプローチ（四分割表）について振り返る（120分）
9	医療の現場で人と関わる職について倫理的問題	③	熊田 吉崎	演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる（120分）	臨床倫理アプローチ（四分割表）について振り返る（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	医療・看護に関わる倫理問題	③	吉崎	講義	生命倫理の4原則をまとめる (120分)	授業後にその内容が説明できるようにまとめる (120分)
11	医療・看護に関わる倫理問題を考えるGW①	③	熊田吉崎	演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる (120分)	授業後にその内容が説明できるようにまとめる (120分)
12	医療・看護に関わる倫理問題を考えるGW②	③	熊田吉崎	演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる (120分)	授業後にその内容が説明できるようにまとめる (120分)
13	医療・看護に関わる倫理問題を考えるGW③	③	熊田吉崎	演習	事例を読み込み症例検討シート毎の内容についてまとめる (120分)	課題レポートを作成し提出する (120分)
14	終末期をめぐる問題 (尊厳死、安楽死、治療中止、鎮静、緩和医療)	②	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す (120分)	各回の授業後にその内容を説明できるようにまとめる (120分)
15	広義のバイオエシックス (動物倫理、環境倫理) と研究をめぐる倫理	①	塚田	講義	指定教科書の該当ページに目を通す (120分)	各回の授業後にその内容を説明できるようにまとめる (120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
定期試験 (60%)、グループワークでの参加度と発表 (40%) を参考に総合的に評価する。						
使用教科書						
生命倫理・医事法 / 塚田敬義ほか、--改訂版--医療科学社、2018年、ISBN978-4-86003-497-9 事例で学ぶ ケアの倫理 / 大北全俊・桑原英之・高橋綾、--ナーシング・サブリ編集委員会--メディカ出版、2015年、ISBN978-4-8404-5755-2						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	実施する定期試験およびミニレポートについては、総評を掲示する。					
備考	適宜、補足資料を配布し、理解が深まるよう講義する。 特段、オフィスアワーは設けないが、講義終了後に質問等について対応する (この時間を活用してください)。					

授業科目名		担当教員				
基礎演習		小林 美奈子・皮野 さよみ・松野 ゆかり・古田 弥生・長屋 江見・加藤 清人・他 (代表教員 小林 美奈子)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)の達成に寄与している。		小林美奈子(看護師)、皮野さよみ(看護師)、松野ゆかり(看護師)、古田弥生(看護師)、長屋江見(看護師)、加藤清人(作業療法士)				
授業概要						
学生生活をより多いものとするために、自身の日常生活行動から「からだ」の仕組みを理解し、看護の視点で「からだ」の知識を深め、主体的な学習方法を習得する。アカデミックスキルを理解した上で、グループ学習で自分の考えをまとめたり発表するコミュニケーションスキルを身に着ける。						
学修の到達目標						
①学生生活における教員や学生同士の関わり方を理解し実践できる。 ②医療現場において他職医療者と協働することの基本姿勢について説明できる。 ③日々の授業時間での学び方と授業外学習の必要性を理解し、実践できる。 ④協同学習を通して、「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を養い、実践することができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション医療人・看護学生としての学び	①	小林古田	講義	教科書①第1章新生活スタート！について読んで、高校生までとは何が変わる？のかを考えをまとめておく。(30分)	看護学生としての抱負 (30分)
2	教員とのコミュニケーションの取り方	①	小林古田	講義	配布資料を読む (30分)	実際に担当教員（チューター）にメール文章でコミュニケーションを図り、感想をレポートする (30分)
3	授業の受け方とノートテイキングの方法	①③	小林他	講義	教科書(2)第2章 授業が始まったらについて読んでおき考えをまとめておく。(30分)	講義の学びについて感想レポート (30分)
4	レポートの書き方と提出方法	①③	熊田	講義	教科書(1)第4章 レポートはこれで書ける！をあらかじめ読んで考えをまとめておく。(30分)	講義担当教員の指示に従う (30分)
5	学習に必要な検索方法を学ぶ	①③	古田他	講義	教科書(1)第3章 資料の集め方・読み方 をあらかじめ読んで何を調べたいか考えをまとめておく (30分)	講義担当教員の指示に従う (30分)
6	定期試験に向けた日々の授業と看護師国家試験に向けての学び方	①③	長屋他	講義	教科書(1)P11看護師になるまで、P16看護職に必要な能力を読んでおく。 ・教科書(1)第5章 定期試験が始まった！を読んで自分の考えをまとめておく。 ・自分の受講している科目についてシラバスを確認する。(30分)	講義の学びについて感想レポート インターネットで看護師国家試験の出題基準の人体の構造と機能から授業で学んだ項目を復習してみる。(30分)
7	医療接遇とコミュニケーションー実習場面から	②③	松野	講義	教科書①第6章 臨地実習で慌てないために読んで考えをまとめておく。(30分)	実習要項を読んで目標・目的を達成するために必要な内容を調べてまとめる (30分)
8	グループで「動くー運動のしくみー」について学び共有する	①③④	小林	講義	教科書②5:運動器の解剖生理(動くー運動のしくみ)を読んで、テスト&国試過去問を解き、ノートにまとめる。(30分)	講義の学びについて感想レポート (30分)
9	グループで「息をするー呼吸のしくみー」について学びを共有する	①③④	林他	講義	教科書(2)1 呼吸器の解剖生理(息をするー呼吸のしくみ)を読んで、テスト&国試過去問を解き、ノートにまとめる。(30分)	講義の学びについて感想レポート (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	グループで「生きる―生命維持の原動力―」について学びを共有する	① ③ ④	吉崎	講義	教科書(2)2 呼吸器の解剖生理(息をする―呼吸のしくみ)を読んで、テスト&国試過去問を解き、ノートにまとめる。(30分)	講義の学びについて感想レポート(30分)
11	グループで「食べる―食行動と消化・吸収―」について学びを共有する	① ③ ④	長屋	講義	教科書(2)3 消化器の解剖生理(食べる―食行動と消化・吸収)―(食べる―食行動と消化・吸収)理(出す―排泄行動)を読んで、テスト&国試過去問を解き、ノートにまとめる。(30分)	講義の学びについて感想レポート(30分)
12	グループで「自分は何をどのくらい食べたらよいか」自分の食生活の良い点・悪い点から、学生生活の在り方を共有する。	① ③ ④	梶原	講義	農林水産省「食事バランスガイド」にそって、「何を」「どれだけ」食べたらよいか調べる。(30分)	自分の食事とライフスタイルや健康に関して振り返り、改善点や良い点をまとめる。(60分)
13	暮らしの中の解剖学 ―理学療法士による姿勢・立つ・座るの捉え方―	① ② ③	田島	講義	事前に配布した資料に目を通す(30分)	講義の学びについて感想レポート(30分)
14	暮らしの中のリハビリテーション ―作業療法士による食事行動への関わり―	① ② ③	加藤	講義	事前に配布した資料に目を通す(30分)	講義内容の概要と感想をまとめる(30分)
15	まとめ：グループで聞く力、話す力、伝えあう力を学ぶ ―病気を患った人がトイレに行く行動から考える―	① ② ③ ④	小林他	講義	教科書(2)4 腎泌尿器、代謝系の解剖生理(出す―排泄行動)を読んで、テスト&国試過去問を解き、ノートにまとめる。(30分)	病気を患った人が尿意を感じてベッドから降りてトイレに行く行動における解剖生理についてレポート用紙にまとめる。授業全体を通して学んだことについてレポートにまとめる。(30分)
	試験：定期試験またはレポート					
評価基準・評価方法						
定期試験(70%)、課題レポート・演習参加態度(20%)、小テスト(10%)						
使用教科書						
(1) 楽しく学ぶ!看護につながる解剖生理 改訂版 / 小寺豊彦.―照林社, 2019年, ISBN-10: 4796523774 (2) NEW人体のしくみとはたらき要点整理&ドリル (0時間目のメディカルドリル) / SENKOSHAメディカルドリル編集部.―第2版―宣広社, 2015, 10: 4906852122 (3) 看護学生スタートブック / 藤井 徹也.―医学書院, 2017, ISBN-10: 4260030116 (4) 看護学生のための看護ドリル+ちょっと計算 第3版 / 今地ゆきみ (監修).― SENKOSHAメディカルドリル編集部 (編集)― 宣広社, 978-4906852246						
参考図書						
解剖学Ⅰと解剖学Ⅱで使用するテキスト及び資料						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートの内容が不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。					
備考	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。					

授業科目名		担当教員				
文章表現法		弓削 繁				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
将来医療や介護等の世界で働く者にとっては、患者やスタッフ等とのコミュニケーション力や文章作成力がきわめて大切なものになってくる。そこでこの講義では、自らの国語力を知り基礎学力を高めるために毎回初めに小テストを行う。そして次に教科書に沿って文章表現の基礎を学び、手紙文・公用文・作文・論説文・レポートなどの書き方を実践的に身につけていく。						
学 修 の 到 達 目 標						
①豊かな国語力を身につけ、場面や状況に応じた適切なコミュニケーションができる。 ②自分の意見や考えを的確な文章にして表現することができる。 ③専門科目で求められるレポートや、社会人・職業人に必要な種々の文章を作成することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	講義の内容と方法についての説明と、ことばの機能に関する概説。以下、毎回小テストを行い、自己採点する。	①			シラバスと教科書に目を通し、授業の意図・内容を理解しておく。(60分)	言葉の機能を存在・認識というキーワードから考え、その大切さを理解する。(100分)
2	文章表現の基礎知識～原稿用紙の使い方	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
3	文章を書く時の注意点～悪文の種類とその直し方	① ②			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
4	文章を書く時の注意点～間違った言葉遣い、表現	① ②			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
5	レポート・小論文の様式～頭書き・本文・注記・文献の引用など	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
6	レポート・小論文の用語と文体～話し言葉と書き言葉、常体と敬体、など	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
7	論理的な文章構成～帰納法と演繹法、頭括法と尾括法、三段構成と四段構成など	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
8	作文もしくは小論文を書く～授業前半の総括として	② ③			作文・小論文の表題と文章構成を考えて来る。(120分)	作文・小論文を書き上げ、推敲する。(180分)
9	敬語の基礎～敬語の種類と用法	①			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	敬語使用上の注意点～相手との関係性と場面性	①			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
11	手紙の種類と様式～頭語と結語、前文・本文・末文など	① ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
12	手紙文の作成～礼状・挨拶状を書く	① ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
13	公用文の種類と様式～案内状・会議録などを書く	① ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
14	就職関係文書の書き方～履歴書・エントリーシートなど	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
15	社会問題をテーマにした小論文の作成～授業全体の総括として	② ③			課題テーマの資料・データを収集し、文章構成を考えて来る。(140分)	小論文を書き上げ、推敲する。(180分)
	定期試験 筆記試験 (小テスト・教科書からの基礎問題と、課題テーマについての論述問題)					
評価基準・評価方法						
小テスト(学習態度と基礎学力を評価)20%、提出課題(学習意欲と文章表現力を評価)20%、定期試験(総合的な国語力と文章作成力を評価)60%。なお、定期試験は直前の勉強では対応しきれないので、日々の学習を怠らないこと。						
使用教科書						
日本語表現法-2 1世紀を生きる社会人のたしなみ / 庄司達也ほか、--改訂第2版--翰林書房, 2016年, ISBN978-4-87740-316-0						
参考図書						
必要に応じて講義中に紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回実施する小テストは真面目に取り組んだか否かを評価して返却(オンライン授業の場合は何回か分をまとめて正解プリントを配布)、作文・レポート課題については問題点をいくつかに整理して、文章作成の勘所を教示する。					
備考	教科書には提出用の原稿用紙が綴じ込まれているので忘れずに持ってくる。質問は随時受け付けますが、学習相談などは月・火・水の授業時間前後に対応します。気軽に声をかけてください。					

授業科目名		担当教員				
コミュニケーション学		近藤　ひろえ				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年　後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。		近藤ひろえ（人材育成研修講師）自治体・企業・大学など含めコンスタントに年間、100件以上の研修を行う。日本認知療学会正会員、産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント、メンタルヘルスマネジメント検定、心理相談専門員、NLPプラクティショナー資格、など資格多数				
授　業　概　要						
・コミュニケーションの重要性を理解する。 ・自分自身のコミュニケーションのスキルについて深く振り返り、医療現場において、患者さん・医療スタッフとの間でよりよい人間関係を構築するための具体的なコミュニケーション能力を身につける。 ・グループディスカッション、ペアワークなど体験、実践を中心とした講義を行う。						
学　修　の　到　達　目　標						
①非言語コミュニケーションの重要性を理解し、実践できる ②年代が違う人への挨拶、返事など、日常的なコミュニケーションができる ③自分の気持ち・考えなどを明確に相手に伝えることができる ④相手の言葉の背景にある気持ちや考えを想像しコミュニケーションすることができる ⑤医療現場におけるコミュニケーションの重要性と求められているスキルを学ぶ						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	・この授業の目的・到達目標について知る ・コミュニケーションの重要性とトレーニング方法について学ぶ	① ② ③ ④ ⑤				授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
2	・医療現場でのコミュニケーションの重要性を学ぶ ・医療スタッフと患者さんとのギャップについて学ぶ	④ ⑤			医療現場でのコミュニケーションの重要 瀬について考える (30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
3	・コミュニケーションスキルを知っていてもなぜ使えないのか、その仕組みについて学ぶ ・相手の気持ちを受けとめるための柔軟な考え方にする方法を学ぶ	① ② ③ ④ ⑤			日常生活でどんなつぶやきをしているかをまとめる (30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
4	非言語情報の重要性を学び、初対面の人や環境が違う人とどのようにコミュニケーションを始めればよいかを学ぶ	① ② ⑤			自分は初対面の人とどのようにコミュニケーションをとっているかを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
5	相手の本当に伝えたいことを受けとめるための聴き方について学ぶ	② ④ ⑤			自分は普段どのような聴き方をしているかを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
6	前回の授業で学んだことをケーススタディを通じて実践し、自分の身につける	② ④ ⑤			どんな場面で聴き方の種類を発揮しているかを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
7	コミュニケーションに欠かせない他者への興味・関心力の重要性を知り、興味・関心を示すことができるような質問力について学ぶ	① ② ③ ④ ⑤			初対面の人と会話するときに困っていることを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
8	前回の授業で学んだことをロールプレイングを通じて実践し、自分の身につける	① ② ③ ④ ⑤			前回の授業のスキルを実践して気づいたことをまとめる(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
9	なぜミスコミュニケーションが起こるのか、仕組みを学ぶ。どのように説明することが必要かを学ぶ	③			自分の伝えるスキルで改善したいところを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	前回の授業の続きとして、具体的な伝え方のスキルを体験しながら学ぶ	③			学科の説明を1分間にまとめて発表できるようにする(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
11	前回の授業の続きとして、実際に説明する場面を想定してロールプレイングをする。自分の良い点や今後の課題を見つける	③			プレゼンの練習をしてくる(60分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
12	自分の気持ちを伝える、相手に言いにくいことを伝える時の表現方法を学ぶ	③ ⑤			言いにくいことを相手に伝える場合、自分はどのような伝え方をしているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
13	医療スタッフとして知っておかなければならない、敬語・クッション言葉などの接遇用語を学ぶ	② ③ ④ ⑤			敬語・接遇表現で知りたいことを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
14	今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する	① ② ③ ④ ⑤			今までの授業を振り返って、質問したいことを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
15	今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する	① ② ③ ④ ⑤			今までの授業を振り返って、質問したいことを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
	定期試験 無し					
評価基準・評価方法						
・授業態度(授業への関わり方) 60% ・レポートの内容(複数回レポート提出) 40%						
使用教科書						
コミュニケーション学 ワークブック 2021年版 / 近藤ひろえ。--非売品,						
参考図書						
・授業の進行に伴って、その都度紹介する。 ・適宜、教材として使用するプリントなども配付する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	・コメント、口頭でフィードバック					
備考	・自分のコミュニケーションの問題・悩みなどなんでもいいので課題をもって授業に臨んでください。 ・Eメールアドレスは、初回講義時間内にお知らせします。					

授業科目名		担当教員				
英語Ⅰ（教養英語）		ジ ャリ マル ジ ャン				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この科目は話すおよび書くことの発信力強化を目的とした科目です。今の大学生に求められる、さまざまな情報を収集し、それらを伝える力、そして自分の考えを述べる力を高めるよう構成されています。扱っている話題は、スマートフォンやアルバイト、理想のパートナーやSNS投稿、ボランティア活動、食や睡眠といった、大学生の皆さんにとって身近なものになっています。楽しみながら、積極的にクラスメイトと意見交換をして、英語での発信力を高めていってください。						
学 修 の 到 達 目 標						
①日常の色々な場面でよく使われる決まった言い方に慣れ、一般的な質問の仕方とその答え方を身に付ける。 ②英文雑誌記事や新聞の記事、またメールの英文に触れ、日常の話題とその英語に触れて会話力を高める。 ③英文メールに慣れ、自分でもメール文を書ける自信をつける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	Were You Texting While Walking ? 頻度を表す副詞と数量を表す表現 パラグラフの構造①	① ②				その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
2	Do You Work part-time? 動詞＋ to不定詞 (todo) / 動名詞 (－ing) パラグラフの構造② 支持文	② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
3	He Has a great Smile, and He’s Rich! 見た目や性格を表す形容詞 パラグラフの構造③結論文	② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
4	Did You Enjoy Playing Basketball? be動詞・一般動詞の過去形 2つの語・句・節をつなぐ接続詞 (and/but)	② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
5	Manners: Be a Good Guest! 現在進行形と過去進行形 (be-ing) 文の構成：主語と動詞、形式主語	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
6	Call Me When You Get There 命令形 2つの事柄を並べて説明する (one is ～, the other is ～)	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
7	Dogs Are So Much Better 比較級と最上級 文頭で内容を展開する副詞 (Therefore/ However)	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
8	You Could Have Pool Parties! 存在や所有を表す表現 (There is/are, has/have) ・理由と結果をつなぐ接続詞 (because/so)	② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
9	We Are Going on a Cruise! 未来を表す表現 (be going to / will / be -ing) コンマ (,) の使い方① / 大文字の使い方	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Have You Ever Volunteered Before? 現在完了形の4つの用法 コンマ (,) の使い方②	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
11	Think Before You Post! 提案や義務を表す助動詞 (had better/should, must/have to) 例を挙げて主題を展開する (for example)	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
12	You Lied to Her! Wh 疑問文と間接疑問文 Eメールの構成	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
13	Are You Sleeping Well? 数えられる名詞と数えられない名詞 パラグラフの構造④ 論理の展開	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
14	Why Do You Want to Work Here? Yes/ No 疑問文、Which 疑問文、Wh 疑問文 ・文書の書式設定	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
15	You Should Make Wise Food Choices 時や条件を表す副詞節 キーワードやフレーズを使って要約を書く	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
予習復習、宿題をきちんと行い、私語なく受講し、暗唱英文等の小テストを受ける授業参加度 (50%) と、定期試験の結果 (50%) で評価する。						
使用教科書						
English Beams: Essential Skills for Talking and Writing / 金星堂 , 2018年, ISBN978-4-7647-4018-1						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法						
備考		使える英語力の育成 具体的な英語の使用場面を意識しながら、inputからoutputへと進むバランスの良い活動を通して、自然な流れで英語運用能力を身につけることができる内容・構成になっています。				

授業科目名		担当教員				
英語Ⅱ（日常英会話）A		ジ ャリ マルジ ャン				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この科目は話すおよび書くことの発信力強化を目的とした科目です。今の大学生に求められる、さまざまな情報を収集し、それらを伝える力、そして自分の考えを述べる力を高めるよう構成されています。扱っている話題は、スマートフォンやアルバイト、理想のパートナーやSNS投稿、ボランティア活動、食や睡眠といった、大学生の皆さんにとって身近なものになっています。楽しみながら、積極的にクラスメイトと意見交換をして、英語での発信力を高めていってください。						
学 修 の 到 達 目 標						
①初級の基本的な日常の英語を聞いて、一定程度聞き取りができる。 ②日常の色々な場面でよく使われる決まった言い方に慣れ、一般的な質問の仕方とその答え方について学ぶ。また、Dialogue（対話）を読んだり、聞いたりして、理解できる。 ③テキストの対話文をペアーで練習し、自分で積極的に発話する態度を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	Introduction Unit, Self-check, Useful Expressions	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
2	On the plane,……please, ～をお願いします、～をください。	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
3	At the currency Exchange I'd like to …… . ～したいのですが	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
4	At the Hotel 1 Could you …… ? ～していただけますか？	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
5	At the Hotel 2 Is / Are there ? ～ ありますか ?	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
6	On the Train / Bus Does this …… ? これは～しますか？	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
7	Sightseeing 1 Where is / are …… ? ～はどこですか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
8	Review 1, Units 1-6 の復習	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
9	Shopping 1 May I ……? ～してもいいですか、～できますか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Shopping 2 I'm looking for ～を探しているのですが	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
11	At the post office How much is / are ? ～はいくらですか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
12	Sightseeing 2 Do you have ? ～ はありますか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
13	At the Restaurant Could I have ? ～をもらえますか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
14	At the Hospital / Pharmacy I have ～ (症状) です、～があります	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
15	Review 2, Units 7-12 の復習	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
予習復習、宿題をきちんと行い、私語なく受講し、暗唱英文等の小テストを受ける授業参加度 (50%) と、定期試験の結果 (50%) で評価する。						
使用教科書						
My First Trip, Key Phrases for Traveling Abroad / センゲージラーニング株式会社, ISBN978-4-86312-242-0						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法						
備考		本科目で沢山のフレーズを使いこなし、さまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。各Unitにおいて8つのアクティビティで構成されています。前半では、ひとつの基本フレーズを学習し、そのフレーズを使ってペアワークを中心に会話の練習を行います。後半では、さまざまな話題に関して文章を読めると便利な内容や聞き取りなどの実践的なリーディングとリスニングのアクティビティに取り組みます。				

授業科目名		担当教員				
英語Ⅱ（日常英会話）B		ミルボト セイト モハマト				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授業概要						
本講義では、英語によるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。その際、英語の伝達的な機能のみにとどまらず、文化・社会とのかかわりについても考慮する。毎回さまざまな言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることも目的の一つとする。						
学修の到達目標						
①英語の受信能力（リーディング・ライティング）だけではなく、発信能力（リスニング・スピーキング）を高める。 ②英語の伝達的な機能のみではなく、英語と文化・社会とのかかわりなどへの理解を高め、多様な情報を様々な方向から理解・解釈する力の育成を目指す。授業終了時には英語の受信能力及び発信能力が向上し、実践することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	Week 1: Giving Directions and Helping Target: 道案内で使える英語表現	① ②				学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
2	Week 2: Talking about Yourself Target: 自己紹介で使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
3	Week 3: Host Family Target: 留学生などを迎える時に使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
4	Week 4: Commuting by Train Target: 電車の乗換説明に使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
5	Week 5: Taking Classes Target: 物事の描写に使える英語表現 (1)	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
6	Week 6: Talking with a Teacher Target: 褒める時に使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
7	Week 7: Finding Friends Target: 自分の趣味や好みを伝える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
8	Week 8: Potluck Target: パーティーなどの集まりで使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
9	Week 9: Sumo Target: 物事の描写に使える英語表現 (2)	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Week 10: Four Seasons Target: 好きな季節の説明に使える英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
11	Week 11: Green Tea Target: 物事の描写に使える英語表現 (3)	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
12	Week 12: Japanese Food Target: 料理の説明に使える英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
13	Week 13: Part-time Jobs Target: アルバイト先で使える英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
14	Week 14: Shopping at a Clothing Shop Target: 買い物で使える英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
15	Week 15: Asakusa Target: オススメの場所を紹介する英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (60分)
	試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
授業参加態度・小テスト・・・40%, 理解度判定・・・60%						
使用教科書						
Welcome To Nippon, Buiding International Friendship / 朝日出版社, ISBN978-4-255-15613-2						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		ー使える英語力の育成 具体的な英語の使用場面を意識しながら、inputからoutputへと進むバランスの良い活動を通して、自然な流れで英語運用能力を身につけることができる内容・構成になっています。皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行います。				

授業科目名		担当教員				
英語Ⅲ（専門英語）		ミルボト セイト モハマト				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
本講義では、ホスピタル・イングリッシュによるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。発音や聞き取りの練習により、スピーキングやリスニングの能力を育成する。「読む」「聞く」「話す」という3つの技能を育て、英語の運用能力を総合的に養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
毎回さまざまな医療に関する言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることを目指す。 ①正しい発音と適切なパターンで発話することができる。 ②医療英語によるコミュニケーションに必要なリスニング力を身につけ、状況の聞き取りができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	①				その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
2	Lesson 1: Reception Desk（救急外来受付）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
3	Lesson 2:Examination Room（診察室）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
4	Lesson 3: Giving Injection（注射をする）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
5	Lesson 4: Explanation to a Family Member（患者の家族への説明）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
6	Lesson 5:Self-Introduction and First Meal（自己紹介と初めての食事）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
7	Lesson 6: Orientation to the Ward（入院病棟を案内する）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
8	Lesson 7: Asking Height, Weight, and Temperature（身長、体重、体温を尋ねる）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
9	Lesson 8: Obtaining the Patient's History（患者歴をとる）小テスト	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Lesson 9: Checking the Patient's Condition (患者の状態をチェックする)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
11	Lesson 10: Blood Test Explanation (血液検査の説明)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
12	Lesson 11: Drawing a Blood Sample (採血)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
13	Lesson 12: Explaining about the Operation : Basic Procedures (手術についての説明: 基本的手順)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
14	Lesson 13: Explaining about the Operation: Anesthesia (手術についての説明: 麻酔)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
15	Lesson 14: Taking the Patient into Surgery (手術室への搬送)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
授業参加態度・小テスト・・・40%, 理解度判定・・・60%						
使用教科書						
Essential English For Nurses 5th Edition (学生版) / Paul Zito & Masako Hayano. --日総研, ISBN978-4-7760-1861-2						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法						
備考		皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行う。 学生がテキストの内容をよく理解するために各ユニットをスライドプレゼンテーションで説明する。				

授業科目名		担当教員				
ドイツ語		安藤 彰浩				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。		安藤彰浩（ドイツ語通訳）				
授 業 概 要						
ドイツ語における初級の基礎知識の習得を目指す。インターネット（動画サイトYou Tube 等でニュース放送を見る）を活用して、ドイツ人の話す生のドイツ語に触れる機会を設ける。ドイツ社会における時事的、文化的話題を提供して、ドイツの歴史や文化に対する興味を喚起する。						
学 修 の 到 達 目 標						
ドイツ語の基本的な表現に親しむ。ドイツ語学習を通じて言葉の感覚を磨き、自分をより正確に表現する力を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	発音。数字0～12。挨拶				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
2	自己紹介。 ー 動詞の現在人称変化 ich/Sie				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
3	自己紹介。 ー 動詞の現在人称変化 du				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
4	第三者の紹介。 ー 動詞の現在人称変化 三人称単数 er/sie				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
5	身の回りのもの。 ー 格変化：主格（1格）。複数形				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
6	買い物・家族。直接目的格（4格）。 ー 所有冠詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
7	お土産。間接目的語（3格）。 ー 人称代名詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
8	趣味。時間表現。曜日 ー 不規則動詞の現在人称変化				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
9	道をたずねる。 ー 前置詞の格支配1、命令形				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Eメール。月と季節 — 前置詞の格支配2				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
11	手紙。時間表現2 — イントネーションと文アクセント				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
12	料理・レストラン — 会話表現				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
13	ドイツ鉄道 — 分離動詞・非分離動詞、zu不定詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
14	ベルリンへの旅 — 話法の助動詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
15	ドイツの歴史、文化について。 — 文法のおさらい				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
理解度、積極参加を重視 定期試験（60％）、小試験（20％）、授業への取り組み（20％）						
使用教科書						
シュピッツェ1 コミュニケーションで学ぶドイツ語 / 朝日出版社,						
参考図書						
必要に応じて紹介						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法		課題の習得を総合的に評価してコメントする。				
備考		毎回、動画サイトを使って、ドイツ人の生活や文化を紹介する。				

授業科目名		担当教員				
中国語		橋本 永貢子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
現代中国語の初歩を学ぶ。基礎的な中国語の習得を通じて、中国語が一言語としてどのような特徴を持っているのかを学び、また、中国人とコミュニケーションをとる場合に必要な知識や中国語の背景にある中国の文化や社会についても理解を深め、将来医療従事者になった場合にも役に立つ教養を身に付ける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①発音記号が読めるようになること ②基礎的な文法を習得し、簡単な日常会話ができるようになること						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	中国語の概要、声調	①			テレビやラジオ、インターネット等で、中国語の音を聞いてみる。(30分)	声調練習を行い、マスターする(30分)
2	母音(1)	①			声調の復習をする。(30分)	単母音の発音練習を行い、マスターする。(30分)
3	子音	①			単母音の復習をする。(30分)	子音の発音練習を行い、マスターする。(30分)
4	母音(2)	①			子音の復習をする。(30分)	複母音・鼻母音の発音練習を行い、マスターする。(30分)
5	発音のまとめ	①			複母音・鼻母音の復習をする。(30分)	ピンインの書き方と発音の仕方を覚える。(30分)
6	挨拶のしかた	① ②			ピンインの書き方と発音の仕方の復習をする。(30分)	中国語での挨拶の仕方を練習しマスターする。(30分)
7	動詞述語文(1)	① ②			中国語での挨拶の仕方を復習する(30分)	教科書第2課本文の発音練習を行う。(30分)
8	動詞述語文(2)、連体修飾語と疑問文(1)	① ②			教科書第2課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。(30分)	教科書第3課の本文の発音練習を行う。(30分)
9	連体修飾語と疑問文(2)	① ②			教科書第3課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。(30分)	教科書第1課から第3課の復習をする。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	存在を表す文 (1)	① ②			教科書第1課から第3課の復習をする。 (30分)	教科書第4課の本文の発音練習を行う。 (30分)
11	存在を表す文 (2) 、所在を表す文 (1)	① ②			教科書第4課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。 (30分)	教科書第5課の本文の発音練習を行う。 (30分)
12	所在を表す文 (2)	① ②			教科書第5課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。 (30分)	教科書第4課と第5課の復習をする。 (30分)
13	助動詞を用いた文 (1)	① ②			教科書第6課の本文の発音練習を行う。 (30分)	教科書第6課の本文の発音練習を行う。 (30分)
14	助動詞を用いた文 (2)	① ②			教科書第6課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。 (30分)	会話練習に必要な表現を復習する。 (30分)
15	実践的な中国語会話練習	① ②			会話練習に必要な表現を発音練習する。 (30分)	教科書第1課から第3課の復習をする。 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
発音とリスニングを重視する。毎回の授業における理解度や発音の状況 (20%) と学期中数回行う小テスト (30%) 、および期末テストの結果 (50%) から総合的に評価する。						
使用教科書						
医療系学生のための初級中国語 / 山田眞一. --白帝社, ISBN978-4-89174-979-8						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	課題に対しては、次の授業の際に点検あるいは採点したものを返却しまた解説する。					
備考	連絡先メールアドレス: ran@gifu-u.ac.jp					

看護学科

専門基礎科目

授業科目名		担当教員				
解剖学Ⅰ（解剖学総論・骨格・筋系等）		佐竹 裕孝				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
ヒトの身体は正常時にどのように働いて恒常性が維持されているかを、人体の基本的な構造と関連づけて統合的に学び、解剖学的な構成と機能的な役割を理解し、専門基礎科目および臨床科目の礎となる人体に関する解剖学および生理学的な基礎知識を習得する。						
学 修 の 到 達 目 標						
解剖学Ⅰでは解剖生理学を学ぶための①基礎知識と、人体を構成する基本的な要素である②骨格筋系および③感覚器系をそれぞれ構造と機能から体系的に学習し、正常な仕組みと働きを説明できるようにする。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	総論Ⅰ:細胞の構造, 組織	①			教科書第1章27～33頁を通読（120分）	細胞の構造と機能についてノート整理（120分）
2	総論Ⅱ:細胞膜の構造と機能	①			教科書第1章39～43頁を通読（120分）	細胞膜の構造と機能についてノート整理（120分）
3	総論Ⅲ:人体の構造と機能	①			教科書第1章8～27頁を通読（120分）	人体に関する基礎的な用語と機能の理解, ノート整理（120分）
4	骨筋系Ⅰ:骨筋総論① 骨, 関節	②			教科書第7章309～318頁を通読（120分）	骨総論に関する基本事項の理解, ノート整理（120分）
5	骨筋系Ⅱ:骨筋総論② 筋, 運動機能と下行伝導路	②			教科書第7章319～323頁を通読（120分）	筋総論に関する基本事項の理解, ノート整理（120分）
6	骨筋系Ⅲ:体幹の骨格と筋 脊柱と胸郭, 背部の筋	②			教科書第7章324～334頁を通読（120分）	体幹の骨・体幹背部の筋についてノート整理（120分）
7	骨筋系Ⅳ:体幹の骨格と筋 胸部・腹部の筋	②			教科書第7章324～334頁を通読（120分）	体幹胸腹部の筋についてノート整理（120分）
8	骨筋系Ⅴ:上肢の骨格と筋 骨格と筋群, 運動	②			教科書第7章334～349頁を通読（120分）	上肢の骨・筋, 運動についてノート整理（120分）
9	骨筋系Ⅵ:下肢の骨格と筋 骨格と筋群, 運動	②			教科書第7章349～361頁を通読（120分）	下肢の骨・筋, 運動についてノート整理（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	骨筋系Ⅶ:頭頸部の骨格と筋	②			教科書第7章361～369頁を通読(120分)	頭頸部の骨・筋についてノート整理(120分)
11	骨筋系Ⅷ:筋の収縮機構	②			教科書第7章369～381頁を通読(120分)	筋収縮機序の理解, ノート整理(120分)
12	感覚器系Ⅰ:感覚総論, 視覚器の構造	③			教科書第8章431～442頁を通読(120分)	感覚の性質, 視覚器の構造を理解, ノート整理(120分)
13	感覚器系Ⅱ:視覚器の機能	③			教科書第8章442～447頁を通読(120分)	視覚器の機能について理解, ノート整理(120分)
14	感覚器系Ⅲ:耳の構造と機能	③			教科書第8章447～453頁を通読(120分)	耳の構造と聴覚・平衡覚の機能について理解, ノート整理(120分)
15	感覚器系Ⅳ:化学覚と体性感覚(皮膚)の構造と機能	③			教科書第8章453～456, 第9章463～468頁を通読(120分)	味覚・嗅覚, 体性感覚の構造と機能についてノート整理(120分)
	定期試験(筆記)			試験		
評価基準・評価方法						
定期試験の成績(100%)						
使用教科書						
系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 / 坂井建雄. --第10版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03171-4						
参考図書						
トートラ人体解剖生理学 原書10版(丸善)佐伯 他(編訳)2017 人体の正常構造と機能(改訂2版)(丸善)坂井・河原(編)2012 シンプル生理学(改訂7版)(南江堂)貴邑・根来(著)2016						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出された課題に対してコメントを付して回答・返却する。					
備考	解剖学Ⅰと解剖学Ⅱは看護教育の根底をなす解剖・生理学の講義であり、1年次前期に集中して開講される。 はじめに解剖学Ⅰを集中的に開講し、引き続いて植物性機能を中心とした解剖学Ⅱを講義する。					

授業科目名		担当教員				
解剖学Ⅱ（循環・神経・内分泌・消化器等）		佐竹 裕孝				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	2単位 (60時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
ヒトの身体は正常時にどのように働いて恒常性が維持されているかを、人体の基本的な構造と関連づけて統合的に学び、解剖学的な構成と機能的な役割を理解し、専門基礎科目および臨床科目の礎となる人体に関する解剖学および生理学的な基礎知識を習得する。						
学 修 の 到 達 目 標						
解剖学Ⅱでは①消化器系，②呼吸器系，③血液，④心循環系，⑤腎泌尿器系，⑥内分泌器系，⑦生殖器系，および⑧神経系をそれぞれ構造と機能から体系的に学修し，正常な仕組みと働きを正しく説明できるようにする。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	消化器系Ⅰ:消化器総論。口・咽頭・食道の構造と機能	①			教科書第2章65～76頁を通洞（20分）	消化管の基本事項，および上部消化管の構造と機能についてノート整理（60分）
2	消化器系Ⅱ:腹部消化管（胃・小腸・大腸）の構造	①			教科書第2章76～86，90～95頁を通洞（30分）	腹部消化管の構造についてノート整理（60分）
3	消化器系Ⅲ:腹部消化管（胃・小腸・大腸）の機能	①			教科書第2章76～86，90～95頁を通洞（30分）	腹部消化管の機能についてノート整理（60分）
4	消化器系Ⅳ:栄養の消化と吸収	①			教科書第2章87～90頁を通洞（15分）	栄養の消化・吸収の機序を理解，ノート整理（60分）
5	消化器系Ⅴ:肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能、腹膜	①			教科書第2章96～105頁を通洞（20分）	肝臓，胆嚢，膵臓の構造と機能を理解，ノート整理（60分）
6	呼吸器系Ⅰ:呼吸器の構造	②			教科書第3章109～120頁を通洞（20分）	呼吸器の構造についてノート整理（60分）
7	呼吸器系Ⅱ:呼吸① 呼吸運動の機構、呼吸気量	②			教科書第3章120～130頁を通洞（20分）	呼吸機序，呼吸気量の理解，ノート整理（60分）
8	呼吸器系Ⅲ:呼吸② ガス交換、呼吸運動の調節	②			教科書第3章130～141頁を通洞（20分）	ガス交換の機序を理解，ノート整理（60分）
9	血液Ⅰ:赤血球、白血球、血小板	③			教科書第3章141～156頁を通洞（30分）	血液固体成分についてノート整理（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	血液Ⅱ:血漿タンパク質、凝固線溶系、血液型	③			教科書第3章156～165頁を通洞 (20分)	血液液体成分, 凝固反応についてノート整理 (60分)
11	心循環系Ⅰ:心臓の構造	④			教科書第4章168～175頁を通洞 (20分)	心臓の構造についてノート整理 (60分)
12	心循環系Ⅱ:心臓の機能①	④			教科書第4章175～185頁を通洞 (20分)	心臓の興奮と心電図を理解, ノート整理 (60分)
13	心循環系Ⅲ:心臓の機能②	④			教科書第4章185～193頁を通洞 (20分)	心臓の収縮と心周期を理解, ノート整理 (60分)
14	心循環系Ⅳ:末梢循環系の構造	④			教科書第4章193～206頁を通洞 (30分)	血管の一般的な構造, 主要な動静脈についてノート整理 (60分)
15	心循環系Ⅴ:血液循環の調節①	④			教科書第4章206～215頁を通洞 (20分)	血圧, 血液循環を理解, ノート整理 (60分)
16	心循環系Ⅵ:血液循環の調節②、リンパとリンパ管	④			教科書第4章215～228頁を通洞 (30分)	血圧調節, リンパ系についてノート整理 (60分)
	中間試験 (筆記) (消化器系、呼吸器系、血液、心循環系)	①～④				
17	腎泌尿器系Ⅰ:腎の構造と機能、糸球体の構造と機能	⑤			教科書第5章232～236頁を通洞 (15分)	腎臓の肉眼的・微小構造, 機能の理解, ノート整理 (60分)
18	腎泌尿器系Ⅱ:クリアランス、排尿路の構造と機能	⑤			教科書第5章236～253頁を通洞 (30分)	クリアランスの理解, 排尿路についてノート整理 (60分)
19	腎泌尿器系Ⅲ:体液とその調節、体液とホメオスタシス	⑤			教科書第5章253～260頁を通洞 (20分)	体液の理解, 体液のpHについて理解, ノート作成 (60分)
20	内分泌器系Ⅰ:内分泌総論、調節系、視床下部、下垂体	⑥			教科書第6章277～283頁を通洞 (20分)	内分泌総論, 視床下部・下垂体のホルモンについて理解, ノート整理 (60分)
21	内分泌器系Ⅱ:甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、性腺	⑥			教科書第6章283～299頁を通洞 (30分)	甲状腺, 副甲状腺, 膵臓, 副腎, 性腺のホルモンについて理解, ノート整理 (60分)
22	内分泌器系Ⅲ:ホルモンによる調節	⑥			教科書第6章299～306頁を通洞 (20分)	ホルモンによる調節について理解, ノート整理 (60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
23	生殖器系Ⅰ:男性生殖器	⑦			教科書第10章495～500頁を通洞(15分)	男性生殖器についてノート整理(60分)
24	生殖器系Ⅰ:女性生殖器	⑦			教科書第10章500～510頁を通洞(20分)	女性生殖器についてノート整理(60分)
25	体温とその調節	⑧			教科書第9章484～490頁を通洞(20分)	体温の調節機序を理解、ノート整理(60分)
26	神経系Ⅰ:神経系の構造と機能	⑧			教科書第8章385～394頁を通洞(20分)	神経細胞の構造と機能、神経系の構造についてノート整理(60分)
27	神経系Ⅱ:脊髄と脳	⑧			教科書第8章395～409頁を通洞(30分)	脊髄と脳について構造と機能を理解、ノート整理(60分)
28	神経系Ⅲ:脊髄神経と脳神経	⑧			教科書第8章409～418頁を通洞(20分)	脊髄神経と脳神経について理解、ノート整理(60分)
29	神経系Ⅳ:自律神経の構造と機能	⑧			教科書第6章264～272頁を通洞(20分)	自律神経の構造と機能についてノート整理(60分)
30	神経系Ⅴ:脳の高次機能	⑧			教科書第8章418～430頁を通洞(30分)	脳の高次機能についてノート整理(60分)
	定期試験 筆記(腎泌尿器系、内分泌系、生殖器系、体温と調節、神経系)	⑤～⑧				
評価基準・評価方法						
中間試験の成績(50%)、および定期試験の成績(50%)						
使用教科書						
系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 / 坂井建雄. --第10版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03171-4						
参考図書						
トートラ人体解剖生理学 原書10版(丸善)佐伯 他(編訳)2017 人体の正常構造と機能(改訂2版)(丸善)坂井・河原(編)2012 シンプル生理学(改訂7版)(南江堂)貴邑・根来(著)2016						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出された課題に対してコメントを付して回答・返却する。					
備考	解剖学Ⅰと解剖学Ⅱは看護教育の根底をなす解剖・生理学の講義であり、1年次前期に集中して開講される。 はじめに解剖学Ⅰを集中的に開講し、引き続いて植物性機能を中心とした解剖学Ⅱを講義する。 解剖学Ⅱは30コマの講義であるため、開講期間の前半に中間試験(筆記)を実施する。					

授業科目名		担当教員				
生化学		亀山 泰永				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
人間の生命現象の仕組みを科学的に理解するために、生体内で営まれている物質代謝をはじめとする数々の現象について学習する。具体的には、人体を構成している様々な物質、特に糖質、タンパク質、脂質などの化学的性質や役割と機能について学び、人体の正常な機能とどのように関わっているかを学習する。また、遺伝子の構造や遺伝情報についても学習し、遺伝子の変異が疾病とどのように関連しているかを学習する。病気は正常な営みの欠陥により起こるものであり、正常な仕組みを理解することが病気を理解するためにも重要である。						
学 修 の 到 達 目 標						
生化学を学ぶことにより、 ①人体の正常な営みと仕組みを分子レベルで科学的に理解し、説明できる。 ②関連する病気の原因を生化学的に正しく理解し、説明できる。 さらに、③国家試験合格レベルにスキルアップする。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション（生化学の基礎知識） 代謝総論：1 代謝とは？，異化と同化（教科書 p. 12～14） の解説 生命維持に必要な栄養素の構造と性質：1 細胞（教科書 p. 20～22） の解説	① ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
2	同上：2 糖類，3 脂質（教科書 p. 23～34）の解説	① ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
3	同上：4 アミノ酸とタンパク質（構造，性質，種類）（教科書 p. 35～40） の解説	① ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
4	同上：5 核酸とヌクレオチド（DNAとRNAの構造），6 ビタミン（水溶性，脂溶性）（教科書 p. 40～52） の解説	① ② ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
5	酵素：1 酵素の役割，2 性質，3 分類，4 アイソザイム，5 臨床診断（教科書 p. 54～59） の解説	① ② ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
6	さまざまな代謝：糖質代謝：1 概要，2 解糖のしくみ（嫌氣的，好氣的解糖）（教科書 p. 62～69） の解説	① ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
7	同上：3グリコーゲンの合成と分解，4ペントースリン酸回路，5糖新生，6血糖調節ホルモン（教科書 p. 70～74） の解説	① ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
8	脂質代謝：1 概要，2 消化・吸収と貯蔵，3，5 脂肪酸の分解・合成，4 ケトン体，6 コレステロール代謝，7 エイコサノイド，8 リポタンパク質 など（教科書 p. 76～87） の解説	① ② ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
9	核酸・ヌクレオチドの代謝（教科書 p. 100～104） の解説 中間試験（1～8回までの授業の内容：約30分間）	① ② ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	タンパク質とアミノ酸の代謝：1 概要，2 消化と吸収，3 アミノ酸の代謝，4 アミノ酸のその他の使われ方，5 先天性代謝異常，6 ヘムの合成とビリルビン代謝（教科書 p. 89～98）の解説	① ② ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
11	遺伝情報：1DNAの構造，2DNAの複製（教科書p114-118）の解説	① ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
12	同上：3 DNAからRNAへの転写，4 RNAからタンパク質への翻訳，5 遺伝子の変化，6 遺伝子診断・遺伝子治療と看護学的課題（教科書 p. 118～130）	① ② ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
13	先天性代謝異常：1 概念，2 酵素異常，3 受容体の異常，4 その他のタンパク質の異常（教科書 p. 132～136）の解説	① ② ③			教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
14	生体の恒常性を保つシステム：1 ホルモンとは？ 2 ホルモン各論（教科書 p. 16～17，プリント配布）の解説	① ② ③			教科書の該当ページおよび配布プリントに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
15	同上：水，酸塩基平衡，無機質（プリント配布）の解説 生体の防御システム：血液，血球，免疫と免疫応答細胞，抗体，血液凝固（プリント配布）の解説	① ② ③			教科書の該当ページおよび配布プリントに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分）	講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分）
	定期試験；筆記					
評価基準・評価方法						
定期試験（筆記試験）（60%），授業9回目の中間試験（20%），小テスト（10%），授業態度（10%）						
使用教科書						
ナーシンググラフィカ人体の構造と機能（2） 臨床生化学 / 第5版 --MCメディカ出版，ISBN978-4-8404-6128-3						
参考図書						
リッピンコットシリーズ イラストレイテッド 生化学 石崎泰樹，丸山敬監訳 原著7版 丸善出版 2019年1月 ISBN978-4-621-30351-1 目でみるからだのメカニズム 堺 章著 第2版 医学書院 2016年11月 ISBN978-4-260-02776-2						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	定期試験：解説プリントの掲示，中間試験と小テスト：試験実施後に解説					
備考	講師の連絡先；メールアドレス；ykameyama@ccn.aitai.ne.jp					

授業科目名		担当教員				
栄養学		久保 和弘				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
栄養学の学習では、生化学と連動した学問と位置づけ、特に看護の対象である人間にとっての栄養の意義を理解し、人間の成長発達や生命の維持に必要な栄養素の種類と体内の代謝について学習する。また、健康な一生を送るために生活習慣病の予防や乳児から高齢期を通じて各ライフステージの栄養を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①栄養素の種類、役割、消化、吸収、体内代謝について説明できる。 ②各ライフステージにおける栄養素とエネルギーの必要量、過不足、関連する疾患について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	栄養の概念				資料及び教科書該当ページに目を通す。(60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
2	炭水化物の栄養	①			資料及び教科書該当ページに目を通す。(60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
3	糖質代謝と疾病	②			資料及び教科書該当ページに目を通す。(60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
4	脂質の栄養	①			資料及び教科書該当ページに目を通す。(60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
5	脂質代謝と疾病	②			資料及び教科書該当ページに目を通す。(60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
6	タンパク質の栄養	①			資料及び教科書該当ページに目を通す。(60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
7	アミノ酸代謝、酵素の役割	②			資料及び教科書該当ページに目を通す。(60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
8	エネルギー代謝（生体利用エネルギー、身体活動エネルギー）	① ②			資料及び教科書該当ページに目を通す。(60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
9	水溶性ビタミンの栄養	① ②			資料及び教科書該当ページに目を通す。(60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脂溶性ビタミンの栄養	① ②			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
11	多量ミネラルの栄養	① ②			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
12	微量ミネラルの栄養	① ②			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
13	食事摂取基準の理解	②			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
14	国民健康・栄養調査の理解	②			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
15	栄養と遺伝、食文化	②			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (60分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(60分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験（100％）により評価する。						
使用教科書						
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕 栄養学 / 小野章文ほか、一第12版—医学書院、2015年、ISBN978-4-260-01993-4						
参考図書						
いずれも閲覧・ダウンロード可 ●「日本人の食事摂取基準（2015年版）策定検討会」報告書 http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041824.html ●国民健康・栄養調査 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html ●日本食品標準成分表2015年版（七訂） http://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/1365297.htm						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	提出された課題について、適宜、授業中に補足的な解説を行う。					
備考	教科書、プリントを中心に授業をすすめる。					

授業科目名		担当教員				
疾病論Ⅰ（神経・病理組織）		武内 康雄・山本 容正（代表教員 武内 康雄）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位 (30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		武内康雄（医師）				
授 業 概 要						
疾病論Ⅰの学習では、病気（疾病）の成り立ちを病理学と関連付けて理解し、疾患の病因・病態・肉眼的、顕微鏡的変化について学習する。これらの理解は、疾患を抱えた患者のケアにあたる看護師にとって大変重要である。また、生体に起こっている変化の原因を知り、対象の疾病や障害を維持、回復に向けるための基礎的知識として必要となる。						
学 修 の 到 達 目 標						
①変性と化生、炎症と免疫、循環障害の病態病理の概要を説明できる。 ②代謝障害、遺伝子異常、先天異常の概要を説明できる。 ③腫瘍の病理学的分類を説明でき、腫瘍発生のメカニズムや治療法を説明できる。 ④血液・造血器系疾患・内分泌系疾患の成り立ちを説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	病理学で学ぶこと、病因論、細胞・組織の障害と修復（１）	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（30分）
2	細胞・組織の障害と修復（２）、循環障害（１）	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（30分）
3	循環障害（２）	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（30分）
4	代謝障害（１）	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（30分）
5	炎症と免疫、移植と再生医療（１）	①	山本		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（30分）
6	炎症と免疫、移植と再生医療（２）	①	山本		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（30分）
7	感染症と感染症対策（１）	①	山本		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（30分）
8	感染症と感染症対策（２）	①	山本		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（30分）
9	代謝障害（２）、老化と死	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	先天異常と遺伝子異常	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分)
11	腫瘍(1)	③	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分)
12	腫瘍(2)	③	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分)
13	血液・造血器系疾患	④	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分)
14	血液・造血器系疾患	④	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分)
15	内分泌系疾患	④	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
期末筆記試験(100%)						
使用教科書						
疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 / 大橋健一ほか. --第5版--医学書院, 2015年, 978-4-260-01986-6						
参考図書						
小林正伸著 「なるほど なっとく! 病理学病態形成の基本的なしくみ」 (南山堂)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	試験解答の一部を公開する					
備考						

授業科目名		担当教員				
疾病論Ⅱ（呼吸と循環、代謝と栄養）		近藤 直実・松井 永子 ・山本 容正（代表教員 近藤 直実）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		近藤直実（医師）、松井永子（医師）				
授 業 概 要						
疾病論Ⅱ（呼吸と循環、代謝と栄養）の科目では、人間の生命維持の中心となる呼吸、循環器の疾患の病態、診断、治療について学習する。また、身体の調節機構としての代謝疾患、栄養を司る消化器疾患などの病態、診断、治療についても学び、疾患を持つ対象を理解する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各臓器、器官の生理的役割を理解し、正常と異常の違いと疾患について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	循環器の形態と機能	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
2	循環器疾患①	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
3	循環器疾患②	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
4	循環器疾患③	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
5	循環器疾患④	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
6	呼吸器の形態と機能	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
7	呼吸器疾患	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
8	呼吸器感染症①	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
9	呼吸器感染症②	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	呼吸器感染症③	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
11	消化器疾患①	①	松井		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
12	消化器疾患②	①	松井		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
13	消化器疾患③	①	松井		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
14	消化器疾患④	①	松井		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
15	消化器疾患⑤	①	松井		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
定期試験 (90%)、小テスト (10%)						
使用教科書						
成人看護学 [2] 呼吸器 / 浅野浩一郎ほか. --第15版--医学書院, 2019年01月, 978-4-260-03569-9 成人看護学 [3] 循環器 / 松田直樹ほか. --第15版--医学書院, 2019年01月, 978-4-260-03557-6 成人看護学 [5] 消化器 / 南川雅子ほか. --第15版--医学書院, 2019年01月, 978-4-260-03562-0						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストなどにコメントして返却など					
備考						

授業科目名		担当教員				
疾病論Ⅲ（神経と運動、生殖、排泄と感覚）		西本 裕・坂 義人・平野 聡子・塩谷 滝雄・大江 直行・中山 則之（代表教員 西本 裕）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		西本裕（医師）、坂義人（医師）、平野聡子（医師）、塩谷滝雄（医師）、大江直行（医師）、中山則之（医師）				
授 業 概 要						
疾病論Ⅲ（神経と運動、生殖、排泄と感覚）の科目では、人間の生命維持、生殖、身体各部の機能や活動のよりどころになる脳・神経系、運動器、女性生殖器、眼科疾患の病態、検査、診断、治療について学習する。また、液体の恒常性の維持を司る腎・泌尿器系疾患について学習し、腎不全に対しての透析治療についても学び理解を深める。講義では、双方向システムを活用し学びを深めていく。						
学 修 の 到 達 目 標						
①脳血管障害の主要な疾患について概略を説明できる。 ②脳腫瘍、神経変性疾患等を説明できる。 ③運動器系の主要な疾患を説明できる。 ④女性生殖器の主要な疾患を説明できる。 ⑤腎・泌尿器系の主要な疾患を説明できる。 ⑥感覚器の中の主要な眼科疾患を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	外傷、骨折	③	西本		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
2	関節疾患	③	西本		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
3	脊椎疾患、骨粗鬆症	③	西本		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
4	腎・泌尿器系の形態と機能	⑤	坂		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
5	腎・泌尿器疾患①	⑤	坂		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
6	腎・泌尿器疾患②	⑤	坂		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
7	腎・泌尿器疾患③	⑤	坂		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
8	女性生殖器疾患①	④	平野		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
9	女性生殖器疾患②	④	平野		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	感覚器（眼科疾患）	⑥	塩谷		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
11	感覚器（眼科疾患）	⑥	塩谷		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
12	脳・神経系疾患（主に脳血管障害、水頭症、先天性奇形など）①	①	大江		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
13	脳・神経疾患（主に脳血管障害、水頭症、先天性奇形など）②	① ②	大江		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
14	脳・神経疾患（主に脳腫瘍、パーキンソン病などの変性疾患、てんかんなど）①	②	中山		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
15	脳・神経疾患（主に脳腫瘍、パーキンソン病などの変性疾患、てんかんなど）②	②	中山		指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分）	授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
筆記試験（95％）、小テスト（5％）						
使用教科書						
成人看護学 [7] 脳・神経 / 井手隆文ほか、--第15版--医学書院, 2019年01月, 978-4-260-03561-3 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 / 今井亜矢子ほか、--第15版--医学書院, 2019年01月, 978-4-260-03558-3 成人看護学 [9] 女性生殖器 / 末岡浩ほか、--第15版--医学書院, 2019年01月, 978-4-260-03567-5 成人看護学 [10] 運動器 / 田中栄ほか、--第15版--医学書院, 2019年01月, 978-4-260-03565-1 成人看護学 [13] 眼 / 大鹿哲郎ほか、--第14版--医学書院, 2020年01月, 978-4-260-03859-1						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	筆記試験の解答例を掲示する。（西本）					
備考						

授業科目名		担当教員				
微生物学		林 将大				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
微生物学の基礎知識を学ぶとともに、感染症に関する主要な病原微生物について性質および特徴を学習する。さらに、感染・発症に関わる生体防御機能のメカニズム、化学療法、感染予防対策および関連法規等について理解を深める。						
学 修 の 到 達 目 標						
医療従事者として必要な病原微生物および感染予防対策についての知識を身に付けることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	微生物と微生物学				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
2	細菌の性質				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
3	ウイルスの性質				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
4	感染と感染症				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
5	感染に対する生体防御 1				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
6	感染に対する生体防御 2				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
7	感染源・感染経路からみた感染症				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
8	滅菌と消毒				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
9	感染症の検査と診断				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	感染症の治療				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
11	病原細菌と細菌感染症				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
12	ウイルス感染症				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
13	病原真菌と真菌感染症				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
14	病原原虫と原虫感染症				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
15	プリオン、食中毒および呼吸器感染症				教科書を読み、概要を理解しておくこと。(30分)	授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験で評価する（100％）						
使用教科書						
系統看護学講座専門基礎分野疾病のなりたちと回復の促進〔4〕微生物学 / 南嶋洋一ほか、—第13版—医学書院、2018年、ISBN978-4-260-03183-7						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポート、課題等は実施しない。					
備考	質問は授業中にすることを推奨する。					

授業科目名		担当教員				
公衆衛生学		和田 恵子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		和田恵子(医師)				
授業概要						
公衆衛生学は個人を対象として疾病の治療を目指すより、集団を対象に疾病予防や健康増進に重点をおくものである。そのため疾病の原因を明らかにするための方法論から公衆衛生実践のための地方や国の行政の関わりなどを広く学び、理解を深める。						
学修の到達目標						
①基本的な概念と基礎知識を学んだ後、各論に進み、公衆衛生的見方や知識を身につけることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	公衆衛生概論①	①			教科書の該当ページに目を通す(30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分)
2	公衆衛生概論②	①			教科書の該当ページに目を通す(30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分)
3	環境、国際保健	①			教科書の該当ページに目を通す(30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分)
4	疫学	①			教科書の該当ページに目を通す(30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分)
5	衛生の指標①	①			教科書の該当ページに目を通す(30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分)
6	衛生の指標②	①			教科書の該当ページに目を通す(30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分)
7	健康危機管理、災害保健	①			教科書の該当ページに目を通す(30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分)
8	食品衛生・感染症	①			教科書の該当ページに目を通す(30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分)
9	母子保健	①			教科書の該当ページに目を通す(30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	学校保健	①			教科書の該当ページに目を通す (30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する (30分)
11	成人保健、歯科保健	①			教科書の該当ページに目を通す (30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する (30分)
12	産業保健	①			教科書の該当ページに目を通す (30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する (30分)
13	高齢者保健	①			教科書の該当ページに目を通す (30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する (30分)
14	精神保健	①			教科書の該当ページに目を通す (30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する (30分)
15	障害者保健、難病	①			教科書の該当ページに目を通す (30分)	講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
筆記試験 (100%)						
使用教科書						
系統看護学講座専門基礎分野健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生 / 神馬征峰ほか. --第14版--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03574-3 国民衛生の動向 2021/2022 / 厚生労働統計協会 ,						
参考図書						
その都度指示する。						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	定期試験について全体の総評コメントを掲示にて公開					
備考						

授業科目名		担当教員				
薬理学		足立 哲夫				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		足立哲夫（薬剤師）				
授 業 概 要						
薬が効果を発揮するメカニズム（作用機序）や副作用が起きるメカニズムを理解する。各授業の最初には、前回の授業内容を復習する時間を設ける。各授業の最後には、その日の授業のまとめを行い、重要なポイントを確認する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①薬物の使用目的や薬物療法における看護師の役割について説明できる。 ②薬物の取扱い、薬理作用、副作用について説明できる。 ③各種疾患に使用する薬物について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	薬理学総論1	①			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。（30分）	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。（30分）
2	薬理学総論2	①			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。（30分）	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。（30分）
3	薬理学各論 抗感染症薬 1	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。（30分）	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。（30分）
4	薬理学各論 抗感染症薬2	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。（30分）	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。（30分）
5	薬理学各論 抗がん薬1	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。（30分）	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。（30分）
6	薬理学各論 抗がん薬2	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。（30分）	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。（30分）
7	薬理学各論 免疫治療薬	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。（30分）	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。（30分）
8	薬理学各論 抗アレルギー薬・抗炎症薬 1	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。（30分）	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。（30分）
9	薬理学各論 末梢神経に作用する薬物	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。（30分）	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	中間試験・薬理学各論 中枢神経に作用する薬物1	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。(30分)	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。(30分)
11	薬理学各論 中枢神経に作用する薬物2	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。(30分)	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。(30分)
12	薬理学各論 心臓・血管系に作用する薬物1	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。(30分)	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。(30分)
13	薬理学各論 心臓・血管系に作用する薬物2	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。(30分)	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。(30分)
14	薬理学各論 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。(30分)	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。(30分)
15	薬理学各論 物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物	② ③			予習をする。教科書を読んでおく。解らない所を、事前に把握しておく。(30分)	習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く。(30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
中間試験（50％）、期末試験の成績（50％）及び授業態度等を総合的に判断して評価する。						
使用教科書						
系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 / 吉岡充弘ほか、--第14版--医学書院，2018年，ISBN978-4-260-03184-4						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法						
備考						

授業科目名		担当教員				
病態心理学		深尾 琢・大井 一高・杉山 俊介・藏満 彩結実・武藤 恭昌・野瀬早織・高井 健太郎・藤兼 大輔 (代表教員 深尾 琢)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)	講義 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		深尾琢(医師)、大井一高(医師)、杉山俊介(医師)、藏満彩結実(医師)、武藤恭昌(医師)、野瀬早織(医師)、高井健太郎(医師)、藤兼大輔(医師)				
授 業 概 要						
プライマリ・ケアを含め、一般外来、入院など、どの場面でも遭遇するような精神疾患について、概念、症状、治療について学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①心身に心理的ストレスがどのような影響を及ぼすかについて理解する。 ②それぞれの問題への対処法の概略を理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	総論	① ②	深尾	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
2	心身症	① ②	杉山	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
3	神経症・ストレス関連障害	① ②	深尾	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
4	睡眠障害	① ②	藏満	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
5	摂食障害	① ②	藏満	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
6	気分障害	① ②	大井	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
7	統合失調症	① ②	武藤	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
8	脳の急性障害	① ②	杉山	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
9	脳の慢性障害	① ②	高井	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	アルコール・薬物関連障害	① ②	武藤	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。 (30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。 (30分)
11	情緒と行動の障害	① ②	野瀬	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。 (30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。 (30分)
12	発達障害、精神遅滞	① ②	大井	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。 (30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。 (30分)
13	性格のかたより	① ②	高井	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。 (30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。 (30分)
14	精神保健福祉法	① ②	藤兼	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。 (30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。 (30分)
15	司法精神医学	① ②	藤兼	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。 (30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。 (30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
授業毎のレポート（60％）と筆記試験（40％）にて、＜目標＞①②への理解度を評価する。						
使用教科書						
精神医学ハンドブック ―医学・保健・福祉の基礎知識 / 山内 格.―第7版―日本評論社, 2010年, ISBN978-4-535-98333-5						
参考図書						
対話で学ぶ 精神医学入門―コメディカル・学生のために / 細川 大雅. 医療コミュニケーションセンター, 2017年, ISBN978-4909141002						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	課題に関して、授業の中で教員と学生がディスカッションを行う。					
備考	積極的に考えたことを発言するよう求める。					

授業科目名		担当教員				
リハビリテーション概論		長谷部 武久				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(15時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久(理学療法士)				
授 業 概 要						
リハビリテーション医療の対象となる「障害」に関する理解を深める。看護師におけるリハビリテーションチームの一員としての関わり、地域におけるリハビリテーションの役割やリハビリテーションを受ける対象を取り巻く環境についても学習する。この講義を通じて、リハビリテーションの「知識」ではなく、その「考え方」がICTを活用した双方向授業を通じて身に付くことを期待する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①リハビリテーション医療の対象である「障害」について述べることができる ②リハビリテーション医療の過程とチーム医療の一員としての看護師の位置付けについて述べることができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	リハビリテーションとは、障害論全般	①			シラバスを熟読する(120分)	リハビリテーション医療の理念とその対象についてまとめる(120分)
2	国際障害分類と国際生活機能分類(機能障害について)	①			資料①「リハビリテーション概論」を熟読する(120分)	障害の分類、機能障害についてまとめる(120分)
3	国際障害分類と国際生活機能分類(能力低下について)	①			資料①「リハビリテーション概論」を熟読する(120分)	障害の分類、能力低下とADLについてまとめる(120分)
4	国際障害分類と国際生活機能分類(社会的不利益について)	①			資料①「リハビリテーション概論」を熟読する(120分)	障害の分類、社会的不利益の意味をまとめる(120分)
5	機能障害の原因疾患	①			資料①「リハビリテーション概論」を熟読する(120分)	原因疾患と廃用症候群についてまとめる(120分)
6	リハビリテーション医療の過程(急性期と回復期)	②			資料①「リハビリテーション概論」を熟読する(120分)	急性期及び回復期リハビリテーションの目的と介入手段についてまとめる(120分)
7	リハビリテーション医療の過程(生活期・維持期)、リハビリテーション・チームについて	②			資料①「リハビリテーション概論」を熟読する(120分)	生活期・維持期リハビリテーションの目的と介入手段についてまとめる(120分)
8	リハビリテーションの評価から治療の流れ(症例提示)	① ②			資料①「リハビリテーション概論」資料②「症例提示」を熟読する(120分)	リハビリテーション医療で行われる評価についてまとめる(120分)
	定期試験(筆記)					

評価基準・評価方法	
小テスト10% 定期試験90%	
使用教科書	
資料を配布する 資料①「リハビリテーション概論」 資料②症例提示	
参考図書	
適宜紹介する	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、理解度確認の小テストを実施直後に解答の解説を行う。
備考	講義終了後、もしくはメールにて質問を受け付ける メール：t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp

授業科目名		担当教員				
カウンセリング論		山田 日吉				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		山田日吉（小・中学校教員）				
授業概要						
・心と体の健康を考え、医療におけるカウンセリングについて理解を深める。 ・心理療法の種類や概要を学び、理解を深める。 ・カウンセリングの理論と技法を学ぶ。						
学修の到達目標						
①看護活動に必要とされるカウンセリングの知識を学び、運用できる技法を身に付けることができる。 ②授業での演習活動を通して、カウンセリングの知識と技能を日常の活動に生かせるようにすることができる。 ③自己を適切に把握し、社会スキルの向上を図ることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	カウンセリングとは;「カウンセリング」の概念、心理療法における位置づけを理解する	①				授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分)
2	カウンセリングの態度;傾聴的な態度について演習を通して理解する	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。 。(120分)	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分)
3	カウンセリングの技法2;繰り返し、要約、焦点化などのカウンセリングの基本技法を理解する	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。 。(120分)	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分)
4	カウンセリングの過程;カウンセリングにおける来談者とカウンセラーの関係の変化について理解する	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。 。(120分)	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分)
5	自己理解と他者理解;エゴグラムの演習を通して自己理解をする。	② ③			授業を振り返り、小テストの備えをする。 。(120分)	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分)
6	交流分析;交流分析の基本的な考え方について理解する	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。 。(120分)	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分)
7	解決志向のカウンセリング1;SFAの考え方と技法を理解する	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。 。(120分)	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分)
8	解決志向のカウンセリング2;SFAの基本技法を演習を通じて理解する	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。 。(120分)	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分)
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
評価基準：看護活動において、患者や家族の精神面でのケアを担える知識、理解、思考、判断、実践力 評価方法：毎回の学修録 80% 授業態度 20%	
使用教科書	
特に利用しない。担当教員が資料を用意する	
参考図書	
看護カウンセリング（医学書院：広瀬寛子著）はじめての傾聴術（ナツメ社；小宮昇著）解決志向ブリーフセラピー（ほんの森出版；森俊夫黒沢幸子著）ピア・サポートの社会学（晃洋書房；伊藤智樹著）	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	毎時間ごとに課題レポート（学修録）を課すことで学習内容の定着を目指す
備考	相談がある場合は、事前に連絡して場所と時間を設定。 個人的相談はメールにて対応可能（初回のみとし、2回目後は面談にて対応）

授業科目名		担当教員				
保健行政論		小林 美奈子・田中 耕・鷲崎 典子（代表教員 小林 美奈子）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		小林美奈子（看護師・介護支援専門員）				
授 業 概 要						
保健行政論の学習では、我が国の人々の生活を支える様々な保健医療福祉制度の成り立ちを理解し、保健医療行政と社会保障制度の役割、意義及び展望について学習する。人間のライフサイクルに沿った保健医療福祉サービスの展開を学び、日々の看護活動に活かせるよう学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①保険医療福祉行政のしくみや歴史について説明できる。 ②福祉と社会保障の対象・領域と制度・サービスについて説明できる。 ③人間のライフサイクルに沿った保健医療福祉サービスについて説明できる。 ④社会保障制度と看護活動の関連について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	保健医療福祉行政の変遷	① ②	田中耕	講義	教科書P12～19を読み重要用語を調べる(120分)	講義の学びと感想をレポートする(120分)
2	保健医療福祉行政の制度	① ②	田中耕	講義	教科書P22～56を読み重要用語を調べる(120分)	講義の学びと感想をレポートする(120分)
3	保健医療福祉の実践、社会資源の活用方法	② ③ ④	小林	講義	教科書P58～78を読み重要用語を調べる(120分)	講義の学びと感想をレポートする(120分)
4	ライフサイクルと社会福祉－1 子ども・家庭と福祉及び障害児・者と福祉	② ③ ④	小林	講義	教科書P80～110を読み重要用語を調べる(120分)	講義の学びと感想をレポートする(120分)
5	ライフサイクルと社会福祉－2 難病対策、高齢者と福祉	② ③ ④	小林	講義	教科書P111～130を読み重要用語を調べる(120分)	講義の学びと感想をレポートする(120分)
6	ライフサイクルと社会福祉－3 公的扶助制度及び生活保護	② ③ ④	小林	講義	教科書P136～160を読み、重要用語を調べる(120分)	講義の学びと感想をレポートする(120分)
7	社会保障制度と看護活動の関連	② ③ ④	小林	講義 演習	教科書P164～P209までを読み、重要用語を調べる(120分)	講義の学びと感想をレポートする(120分)
8	まとめ 小テスト	② ③ ④	小林	講義 演習	教科書P212～233を読み、重要用語を調べる(120分)	講義の学びと感想をレポートする(120分)
	試験：定期試験またはレポート					

評価基準・評価方法	
授業態度・課題40%、試験60%の結果から総合的に評価する。	
使用教科書	
健康支援と社会保障(3)：社会福祉と社会保障 第4版 / 平林 勝政 (編集), 小西 知世 (編集), 和泉澤 千恵 (編集) - メディカ出版, ISBN-10: 4840465142	
参考図書	
公衆衛生がみえる 〈2018-2019〉療情報科学研究所	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出された 課題レポートは採点して返却します。レポートが不十分だった場合、コメントを付けて再提出を求めることもあります。学生レポートの模範例を紹介することもあります。課題に準じた重要事項や関連内容を教員がフィードバックとしての解説をします。また、課題が不十分な場合はコメントをして再提出を求めることもあります。
備考	

授業科目名		担当教員				
保健統計学		紀ノ定 保臣				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
医療や看護の現場では、EBM/EBN（科学的根拠に基づく医療／看護の実践）が求められる。また、科学的根拠を示すためには、多くの診療・看護症例を対象にデータに基づいて統計学的に処理、分析、結果をまとめる能力が不可欠となる。本講義では、EBNの実践に必要な統計学の理解と活用について学び、理解を深める。また、診療・看護現場での活用を目標に、EXCELを用いたデータの収集・グラフ化・分析と仮説検定手法を講義する。						
学 修 の 到 達 目 標						
看護に関する統計データの取り扱いとEBNの実践に活用するための統計手法を理解する。 知識：①医療・看護現場で発生する種々のデータを収集・分析・処理・活用を実践できる能力を身につける。 技術：②医療・看護現場で発生するデータの分析結果を判断・検定し、データが示す意味を正しく理解し、報告書にまとめる能力を身につける。 態度：③医療・看護の現場で収集したデータは、医療従事者と患者が共に共有し、効果的な医療・看護の提供に貢献できるものでなければならない。患者が理解しやすい内容で説明できる姿勢に尽力する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	EBM/EBNとはなにか、統計学を学ぶ必要性等について、事例を挙げて解説する。 統計学入門：統計学における基本的なものの考え方と活用手法を理解する。	① ③			教科書の内容を事前に理解しておくこと (120分)	配付資料を十分に理解することを求める (120分)
2	統計データのまとめ方：データの種類の、統計データのまとめ方、表やグラフなどによる図示を理解する。 確率分布と推定：確率的な現象について、その現象を記述あるいは推定する手法について理解する。	② ③			教科書の内容を事前に理解しておくこと (120分)	配付資料を十分に理解することを求める (120分)
3	確率分布と推定：確率的な現象について、その現象を記述あるいは推定する手法の活用を理解する。 統計学的検定：帰無仮説、二種類の過誤、仮説検定を理解し、代表的な検定手法の利用方法を学ぶ。	① ②			教科書の内容を事前に理解しておくこと (120分)	配付資料を十分に理解することを求める (120分)
4	統計学的検定：帰無仮説、二種類の過誤、仮説検定を理解し、代表的な検定手法の活用方法を学ぶ。 回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法について理解する。	① ②			教科書の内容を事前に理解しておくこと (120分)	配付資料を十分に理解することを求める (120分)
5	回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法の活用方法を理解する。 疫学と統計学：科学的な根拠に基づいて実施される医療や看護を支える疫学と統計学の役割を理解する。	① ② ③			教科書の内容を事前に理解しておくこと (120分)	配付資料を十分に理解することを求める (120分)
6	感度・特異度の理解を深め、医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。 有意差検定の理解を深め、医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。	① ②			教科書の内容を事前に理解しておくこと (120分)	配付資料を十分に理解することを求める (120分)
7	因果関係や相関関係にあるデータを用いて、効果的にレポートが作成できる能力を獲得する。 保健統計の実践：官公庁が公表する各種統計や健康指標がどのように使用されているかを理解する。	① ②			教科書の内容を事前に理解しておくこと (120分)	配付資料を十分に理解することを求める (120分)
8	医療・看護現場でのデータの収集、観察項目の整理、分析、評価、レポート作成の一連の行為を実践する。	① ② ③			教科書の内容を事前に理解しておくこと (120分)	配付資料を十分に理解することを求める (120分)
	定期試験					

評価基準・評価方法	
基本的には試験を実施し、評価する（100%）。	
使用教科書	
系統看護学講座 基礎分野「統計学」第7版 / 高木晴良.--医学書院 2016年3月, ISBN978-4-260-02189-0	
参考図書	
特に指定しないが、EXCELの操作解説書に目を通しておくことが望ましい。また、より実践的な知識の習得を目指していることより、当日配布の資料を多用する予定である。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	基本はテストを実施し、その成績で評価する。また、成績が基準点に達しない場合には、追試験または、レポートの提出を求める。
備考	講義時間に比して、授業内容はボリュームがある。したがって、事前の予習が極めて重要となる。また、実践的な授業であるため、データの収集・分析・報告書作成能力やエクセルの活用スキルが求められる。

授業科目名		担当教員				
看護と法律		鷺見 高光				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		鷺見高光（医療法人・社会福祉法人勤務、介護支援専門員）				
授 業 概 要						
法令に関する一般的事項を学んだ後、看護関係法令の基本及び厚生行政のしくみを学び、保健師助産師看護師法をはじめとする看護師業務に関係の深い関係法令を系統だてて学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①看護師として必要な医療関係、福祉関係の法令について学び、理解を深める。 ②患者さんを取り巻く法令を理解し支援する能力を身につけることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	チーム医療と法の構造、理念と医療安全、保健師助産師看護師法	① ②			保健師助産師看護師法を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
2	医療専門職に関する法律、福祉専門職に関する法律	① ②			医療専門職について学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
3	物に関する法律、医療法等	① ②			医療法を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
4	医薬品医療機器総合機構法～高齢者医療確保法	① ②			感染症法等を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
5	介護保険法～特定B型肝炎感染者給付規制法	① ②			介護保険法を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
6	生活保護法～難病医療法	① ②			障害者関係の法を学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
7	医療政策に関する法律～社会的弱者対策	① ②			講義予定を全般的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
8	労働政策に関する法律～医療過誤	① ②			医療過誤を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
	到達目標は終了時に達成する。 試験：定期試験又はレポート					

評価基準・評価方法	
授業態度 20%、試験（定期試験又はレポート） 80%の結果から総合的に評価する。	
使用教科書	
ナースing・グラフィック健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度 / 株式会社メディカ出版, 2021年, 978-4-8404-6514-4	
参考図書	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	直後の講義にて問題点を説明、解説などする。最終試験にて指摘がある場合は、担当教官に依頼する場合もある。
備考	質問は講義時間中や終了後に受け付ける。

授業科目名		担当教員				
障害者と福祉		加藤 清人				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）				
授 業 概 要						
障害者と福祉の学習では、障害のある人が地域において人間的な自立生活が可能な福祉がどのようなものでなければならないかを学ぶ。具体的には、障害のある人の生活実態や法制度を学びながら福祉サービスの不足と障害のある人の潜在能力の不足の両側面の統一的視点に基づいて学習を進めていく。各講義において、それぞれの要点整理をする時間を設定し、学習理解を深める。						
学 修 の 到 達 目 標						
①障害福祉に関する基礎を学び、障害者を取り巻く地域環境について自己の考えも踏まえ説明することができる。 ②これから必要とされる地域支援について自己の考えを述べることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	障害者福祉の歴史	①			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
2	障害者福祉で用いられる思想	①			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
3	障害者福祉の制度体系	①			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
4	障害者の自立生活と自立生活支援	①			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
5	ノーマライゼーションの保障と課題	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
6	リハビリテーションの現状と課題	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
7	福祉領域におけるリハビリテーションの実際	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
8	障害者福祉の課題と展望	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法	
レポート課題（100％）で評価する。文章構成や自己の考えを述べているかなども評価対象とする。	
使用教科書	
参考図書	
講義の際に適宜ビデオと資料を活用する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	最終講義時に全体にむけてフィードバックを行う。
備考	毎回、授業開始時に資料を配布する。 主体的に取り組むこと。質問は随時受け付ける。

授業科目名		担当教員				
医療と経済		塩野 美里				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 後学期	1単位(15時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		医療法人勤務				
授 業 概 要						
経済学・行動経済学・経営学・医療サービスの観点から医療について考えることで、医療をとらえる視点を広げ、医療経営や医療の質向上のための知識・スキルを習得する。また、グループワークやプレゼンテーションを通じて自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを理解することの重要性を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①日本の医療がおかれている現状と今後の展望について理解し、自分の言葉で説明できる。 ②経済学・経営学の観点から、医療の特性について、自分の言葉で説明できる。 ③医療経営の質向上のための具体的な提案ができる。 ④サービス業の観点から、医療の特性について、自分の言葉で説明できる。 ⑤医療の質向上のための具体的な提案ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、講義の進め方と成績評価の説明。日本の医療の現状とこれからについて考える。	①			日本の医療の現状とこれからについて考えてくる(120分)	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分)
2	経済学の観点から医療について考える。	②			事前課題レポートに取り組む(120分)	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分)
3	行動経済学の観点から医療について考える。	②			事前課題レポートに取り組む(120分)	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分)
4	経営学の観点から医療について考える。	②			事前課題レポートに取り組む(120分)	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分)
5	医療組織の経営分析の手法を学び、経営の質向上について考える。	③			事前課題レポートに取り組む(120分)	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分)
6	サービス業とは何か、サービス業として医療をとらえる意義について考える。	④			事前課題レポートに取り組む(120分)	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分)
7	医療サービスにおける患者満足度・職員満足度の重要性や満足度向上のための取組みについて考える。	⑤			事前課題レポートに取り組む(120分)	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分)
8	医療サービスにおけるTQM（総合的質経営）の重要性やTQMの取組みについて考える。	⑤			事前課題レポートに取り組む(120分)	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分)
	定期試験 筆記					

評価基準・評価方法	
事前課題レポート（50％）、授業参加態度（20％）、学期末レポート（30％）を総合的に評価する。	
使用教科書	
なし	
参考図書	
適宜講義にて紹介する。	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	事前課題レポートについて、全体の総評コメントを講義にて行う。
備考	事前課題レポートの内容は、グループワークや講義で取り上げるので、十分に取り組んでくれることで学習効果が高まる。

授業科目名		担当教員				
社会福祉学		竹内 章郎				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(15時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
現在、社会福祉を含む社会保障全体が、大きな転換点にある。それは、社会保障を支える福祉国家体制それ自体の「危機」という大きな問題からくるものであるが、同時に、社会保障の基盤である社会権（法）の基本的理解の問題や資本主義市場と社会保障との関係などにも及ぶ問題から生じていることもある。この講義ではそうした大きな問題を、社会福祉の現場実践と関係づけて捉えることを通じて、社会福祉・社会保障の本質を解明したい。事前学習については、毎回、次回講義のための事前学習の範囲を指定する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①社会福祉を含む社会保障の現実を、その基礎に立ち返って理解する。 ②大きな制度的問題と社会福祉実践の現実とを結び付けて理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス（全体の進行について）、社会福祉と社会保障との関連について（善き生存としての福祉を中心に）	①			既配布の資料全体に目を通しておく（120分）	左記の講義内容とこれに関わる資料の再読（120分）
2	日本の社会保障・社会福祉の基礎：憲法25条（13条との関連）：プログラム規定・義務規定/行政裁量の理解	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
3	福祉国家体制の由来、措置制度と契約制度、福祉職と医療職、福祉の民営化・市場化問題	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
4	権利としての社会保障（1）：市民権と社会権との相違、私的所有と市民権	①			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
5	権利としての社会保障（2）：社会権の基礎、憲法14条との関連、申請主義の問題	①			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
6	福祉六法体制とそれ以降、戦後日本の社会保障制度の流れ	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
7	貧困問題と生活保護、社会手当制度、労災保険制度、雇用保険制度、年金保障制度	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
8	障害者福祉制度、子ども手当制度、高齢者福祉制度（公的介護保険制度）	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）

評価基準・評価方法	
最終のレポートによって評価する。講義内容の正確な理解に加えて、内容を表現する文章力も評価の対象とする。	
使用教科書	
教科書は使用せず、竹内が作成したレジュメ及び資料にそって講義を行う。	
参考図書	
必要に応じて、講義中に紹介する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義中に、適宜、質疑応答を行う。
備考	資料及びレジュメは、すべて、最初の講義時に配布する。

看護学科

専門科目

授業科目名		担当教員				
看護学概論		皮野 さよみ・小林 美奈子（代表教員 皮野 さよみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野 さよみ・小林 美奈子（看護師）				
授 業 概 要						
看護の概念・看護の定義，看護の主要概念（人間・健康・環境・看護）と相互の関連を学び、看護・看護教育の歴史の変遷を通して、看護の法律・施策に基づいた役割と機能の変化を学ぶ。また、看護理論・概念モデルと看護過程の関係を理解すると共に、看護における倫理を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①看護の概念・看護の定義について説明できる。 ②看護の主要概念（人間・健康・環境・看護）と相互の関連を説明できる。 ③看護・看護教育の歴史の変遷を通して、看護の法律・施策に基づいた役割と機能の変化・今後の課題を説明できる。 ④看護理論・概念モデルと看護過程の関係について説明できる。 ⑤看護における倫理について説明できる。 ⑥看護と看護教育における今後の課題を述べることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護学と看護の概念・看護の定義	①	皮野	講義		「看護とは」・「看護学とは」のレポート作成 60分
2	看護の主要概念（人間・健康・環境・看護）	①	皮野	講義		「看護とは」・「看護学とは」のレポート修正・提出 60分
3	看護の主要概念（人間・健康・環境・看護）：人間とは	②	皮野	講義演習	「人間とは」に関するレポート作成 30分	「人間とは」に関するレポート作成 30分
4	看護の対象の理解（人間と健康）	②	皮野	講義演習	「健康とは」に関するレポート作成 30分	「健康とは」に関するレポート作成 30分
5	看護の対象の理解（人間と環境：社会）	②	皮野	講義演習	「社会とは」に関するレポート作成 30分	「社会とは」に関するレポート修正・提出 30分
6	看護の対象の総合的理解と看護（発達・ライフサイクル，人間・社会・健康と看護の関連）	②	皮野	講義演習		「看護の対象の総合的理解」に関するレポート作成 60分
7	看護・看護教育の歴史の変遷	③	皮野	講義		「日本の看護教育機関：短期大学」の目的・設置基準等に関するレポート作成 60分
8	看護の法律・施策	③	皮野	講義演習		「保健師助産師看護師法」の重点内容に関するレポート作成 60分
9	社会における看護の役割と機能の変化看護提供のしくみ（看護管理含む）	③	皮野	講義演習		「看護の法律・施策，看護の役割と機能」に関するレポート作成 60分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	看護理論・看護研究と看護実践（看護過程）のつながり	④	小林	講義	教科書の「看護倫理・看護研究と看護実践」に関する内容について予習する 30分	講義で学んだことを復習し、レポート作成 30分
11	看護理論（家）と看護実践（看護過程）：バージニアヘンダーソン・オレム他	④	小林	講義 演習	該当する「看護理論と看護実践」に関する内容について予習する 30分	講義・演習で学んだことを復習し、レポート作成 30分
12	看護理論（家）と看護実践（看護過程）：オーランド・ロイ・ベナー他	④	小林	講義 演習	該当する「看護理論と看護実践」に関する内容について予習する 30分	講義・演習で学んだことを復習し、レポート作成（プロセスレコード等）作成 30分
13	看護における倫理：倫理の概念，医療・看護における倫理と社会	⑤	小林	講義 演習	教科書の第5章A・Cを読み、内容を確認しイメージ化する 40分	講義内容資料を確認し、意見をまとめる 20分
14	看護における倫理的課題	⑤	小林	講義 演習	教科書の第5章Bを読み、新聞記事等より倫理的問題をみつけ、まとめる 30分	他グループの発表について、興味のある項目を更に調べてまとめる 30分
15	看護と看護教育における今後の課題，自己の看護観	⑥	皮野	講義 演習	「自己の看護観」のレポート下書き作成 30分	「自己の看護観」のレポート修正 30分
	試験（筆記）		皮野 小林			
評価基準・評価方法						
記述試験（50％），レポート（40％），GW・クラスでの意見発表の参加度等（10％）						
使用教科書						
看護学概論 / 茂野香おる他.--第16版--医学書院，2016年，ISBN 978-4-260-02181-4						
参考図書						
①黒田裕子監修：やさしく学ぶ看護理論，第4版，日総研，ISBN9784776014072 ②筒井 真優美（編）：看護理論―看護理論20の理解と実践への応用，改訂第2版，南江堂，ISBN N9784524257287 ③勝又 正直：はじめての看護理論，第2版，医学書院，ISBN 9784260333870						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	事前学習課題は、授業中のグループワーク等で発表し、必要により解説する。事後学習レポートは必要時解説し、評価を行う。					
備考	講義順及び内容・評価基準・担当者がレポート課題の追加等により、変更になる場合がある。					

授業科目名		担当教員				
基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）		皮野 さよみ・長屋 江見・佐々木 智恵・坂本 裕子（代表教員 皮野 さよみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	2単位(45時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野さよみ・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子（看護師）				
授 業 概 要						
看護技術の基盤となる考え方を学び、続いて看護技術の共通要素の知識と技術を学ぶ。また、対象の日常生活を整えるために必要な知識と技術を学ぶ。視覚教材などを用いてイメージ化を図り、効果的な講義・演習を行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①看護技術の基盤となる考え方を説明できる。 ②看護技術の共通要素としてのボディメカニクス，姿勢・体位，体位変換，感染予防の知識を説明し、技術を実施できる。 ③対象の日常生活を整えるための援助に必要な知識と技術を紙上事例を用いて計画し、実施できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護技術の基盤となる考え方	①	皮野	講義		看護技術の基盤となる考え方・留意点のレポート提出 60分
2	感染予防 基本的な清潔行動	②	佐々木	講義	基礎看護技術Ⅱ（標準予防策）P.427－435に目を通す。60分	講義資料を見直す。基礎看護技術ⅡP.429－433の動画を視聴する。60分
3	手指衛生・エプロン・手袋着脱	②	佐々木 長屋 坂本	演習	教科書、動画を用いてイメージトレーニングをしておく。60分	演習後課題を実施する。 60分
4	手指衛生・エプロン・手袋着脱 技術試験	③	佐々木 皮野 長屋 坂本	演習	教科書、動画を用いてイメージトレーニングをしておく。60分	技術試験でうまくできなかった部分を振り返る。60分
5	療養環境と環境整備	③	佐々木	講義	基礎看護技術ⅡP.10～24に目を通しておく。60分	課題プリントの作成 60分
6	環境 手指・ベッド周囲環境の実際	③	佐々木 長屋 坂本	演習	教科書・参考書・講義資料の見直し 60分	課題プリントの作成 60分
7	環境 手指・ベッド周囲環境の実際	③	佐々木 長屋 坂本	演習	教科書・参考書・講義資料の見直し 60分	課題プリントの作成 60分
8	ボディメカニクス・リネン交換	① ②	長屋	講義	教科書P94-115を読み疑問点を明確にする。 60分	動画視聴をして、知識を深める 60分
9	リネン交換	② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	リネン交換の目的・方法・留意点をまとめる 60分	ボディメカニクスを活用したリネン交換の援助計画を立案する 60分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	リネン交換	② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	リネン交換の目的・方法・留意点をまとめる 60分	ボディメカニクスを活用したリネン交換の援助計画を立案する 60分
11	ボディメカニクス 技術試験	② ③	長屋 皮野 佐々木 坂本	演習	教科書、動画を用いてイメージトレーニングをしておく。(60分)	技術試験でうまくできなかった部分を振り返る。 60分
12	安楽な体位と体位変換	① ②	長屋	講義	安楽な体位の意義・体位変換の目的・留意点をレポート・提出 60分	体位別褥瘡好発部位・体位変換以外を含む予防対策レポート・提出 60分
13	衣生活の意義	② ③	佐々木	講義	教科書P202-210を読み疑問点を明確にする。 60分。	教科書P505の動画Mおよび指定の動画教材を視聴し、イメージトレーニングする。 60分
14	衣服に関するリサーチ学習	② ③	佐々木 長屋 坂本	演習	リサーチ学習のための準備計画を作成する 30分	リサーチ学習結果のまとめレポートを作成する 90分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
15	衣服に関するリサーチ結果発表	② ③	佐々木 長屋 坂本	演習	発表の準備をする 30分	事例レポートを実施する。90分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
16	清潔の意義・全身の清拭	② ③	長屋 佐々木 坂本	講義	教科書P153-170を読み疑問点を明確にする。 60分。	教科書P503 の動画Hおよび指定の動画教材を視聴し、イメージトレーニングする。 60分
17	全身清拭・寝衣交換 事例（発熱・呼吸苦の訴えの患者など）	① ② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	動画教材を再度視聴し、事例患者の寝衣交換を伴う全身清拭の手順書（根拠、留意点、声掛け）を作成する。 60分	技術試験に向けて、寝衣交換を伴う全身清拭を安全・安楽に実施できるよう自己練習する。120分
18	全身清拭・寝衣交換	① ② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	動画教材を再度視聴し、事例患者の寝衣交換を伴う全身清拭の手順書（根拠、留意点、声掛け）を作成する。 60分	技術試験に向けて、寝衣交換を伴う全身清拭を安全・安楽に実施できるよう自己練習する。120分
19	全身清拭・寝衣交換	① ② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	1回目の演習を踏まえて、手順書を修正する。 30分	技術試験に向けて、寝衣交換を伴う全身清拭を安全・安楽に実施できるよう自己練習する。120分
20	全身清拭・寝衣交換	① ② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	前回の演習を踏まえて、手順書を修正する。 30分	技術試験に向けて、寝衣交換を伴う全身清拭を安全・安楽に実施できるよう自己練習する。60分
21	清拭・寝衣交換	① ② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	技術試験の課題の援助をイメージトレーニングする。 30分	演習後レポートを実施する。30分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
22	全身清拭・寝衣交換	① ② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	技術試験の課題の援助をイメージトレーニングする。 30分	演習後レポートを実施する。30分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
23	清拭・寝衣交換 技術試験	① ② ③	皮野 長屋 佐々木 坂本	演習	教科書、動画を用いてイメージトレーニングする。 60分	技術試験でうまくできなかった部分を振り返る。 60分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	筆記試験	① ② ③	皮野 長屋 佐々 木			
評価基準・評価方法						
認知領域（知識）：筆記試験50％ 精神運動・情意領域（技術・態度）：演習に取り組む態度・演習レポート10％，技術確認試験40％						
使用教科書						
系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ / 茂野香おる他. --第17版--医学書院，2019年，ISBN978-4-260-03564-4 系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ / 有田清子ほか. --第17版--医学書院，2017年，ISBN978-4-260-02760-1						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	・演習レポートはコメントし、また講義・演習時に説明することによりフィードバックする。 ・質問には次の授業で回答し、フィードバックする。					
備考	・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出る。 ・演習前の課題等やっていない、確認ができない場合は見学とする。 ・身だしなみが整っていない場合（髪型・爪・服装等）は見学とする。 ・技術試験が不合格の者は再試験を行う。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある					

授業科目名		担当教員				
基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄）		長屋 江見・皮野 さよみ・佐々木 智恵・坂本 裕子（代表教員 長屋 江見）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	2単位 (45時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長屋江見・皮野さよみ・佐々木智恵・坂本裕子（看護師）				
授 業 概 要						
①共通要素である安全を守るための技術（看護事故防止対策・感染予防の技術）を説明できる。 ②「食事」・「排泄」・「睡眠」・「運動・活動」の各看護技術の意義・目的・方法などの必要な知識と技術を説明できる ③演習時の患者・看護師体験を生かして根拠に基づいて判断し、安全・安楽・自立に必要な看護技術が実施できる。						
学 修 の 到 達 目 標						
①共通要素である安全を守るための技術（看護事故防止対策・感染予防の技術）を説明できる。 ②「食事」・「排泄」・「睡眠」・「運動・活動」の各看護技術の意義・目的・方法などの必要な知識と技術を説明できる ③演習時の患者・看護師体験を生かして根拠に基づいて判断し、安全・安楽・自立に必要な看護技術が実施できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	頭髮の清潔	② ③		講義	基礎看護技術ⅡP170-179を読み疑問点を明確にする。60分	基礎看護技術ⅡP503の動画Iおよび指定の動画教材を視聴し、イメージトレーニングする。60分
2	洗髪	① ② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	動画教材を再度視聴し、事例患者の洗髪を指定の方法で実施するための手順書（根拠、留意点、声掛け）を作成する。120分	
3	洗髪	① ② ③	長屋 佐々木 坂本	演習		演習後レポートを実施し提出する。演習での学びを基に技術の不足を自己練習する。120分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
4	手足の清潔	② ③	佐々木	講義	基礎看護技術Ⅱ（手浴・足浴）P.179-184に目を通す。60分	基礎看護技術ⅡP.184の動画を視聴する。60分
5	手浴・足浴	① ② ③	佐々木 長屋 坂本	演習	事例に沿った手順書を作成する。60分	演習内容を踏まえて手順書の追記を青字で行う。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
6	手浴・足浴	① ② ③	佐々木 長屋 坂本	演習	演習内容を踏まえて手順書の追記を青字で行う。60分	演習後課題を実施する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
7	食生活の意義	②		講義	解剖生理学の教科書（口腔、上～下咽頭）、基礎看護技術ⅡP.26～47を読み疑問点を明確にする。60分	食生活に関する課題を実施し提出する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
8	口腔の清潔	③		講義	基礎看護技術ⅡP188-202を読み疑問点を明確にする。60分	口腔ケア用品について調査する。調査結果は演習で使用する。60分
9	整容 口腔ケア技術演習	② ③		講義 演習	指定の動画教材を視聴し、イメージトレーニングする。60分	演習後レポートを実施し提出する。演習での学びを基に技術の不足を自己練習する。120分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	口腔ケア技術演習後 発表	② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	発表の準備をする 30分	事例レポートを実施し提出する。90分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
11	非経口的栄養法（経管栄養法）	② ③		講義	基礎看護技術ⅡP47-55を読み、疑問点を明確にしておく。60分	指定の動画教材を視聴し、イメージトレーニングする。60分
12	経管栄養 技術演習	② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	動画教材を再度視聴し、手順書（根拠、留意点、声掛け）を作成する。120分	
13	経管栄養 技術演習	② ③	長屋 佐々木 坂本	演習		事例レポートを実施し提出する。120分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
14	排泄の援助に必要な基礎知識	② ③	佐々木	講義	基礎看護技術Ⅱ（排尿排泄）P.59-69に目を通す。60分	講義後課題を実施する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
15	運動・活動の意義	② ③		講義	基礎看護技術ⅡP94-97、112-126を読み、疑問点を明確にしておく。60分	基礎看護技術ⅡP503の動画Iおよび指定の動画教材を視聴する。60分
16	運動・活動の援助 技術演習	② ③	長屋 佐々木 坂本	演習	動画教材を再度視聴し、右片麻痺患者の車椅子移乗の手順書（根拠、留意点、声掛け）を作成する。120分	
17	運動・活動の援助 技術演習	② ③	長屋 佐々木 坂本	演習		演習後レポートを実施し提出する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
18	睡眠・休息の援助 電法	② ③	坂本 長屋	講義	基礎看護技術ⅡP127-136、142-145を読み、疑問点を明確にしておく。60分	課題を実施し、不正解問題について調べ学習をする。60分
19	感染予防策の実際	①	長屋	講義	基礎看護技術ⅡP422-439を復習しておく。教科書P439D～460を読み、疑問点を明確にしておく。60分	講義時の国試過去問題を復習する。留意点、根拠を踏まえた手順書を作成する。60分
20	感染予防策の実際	①	長屋	講義	基礎看護技術ⅡP422-439を復習しておく。教科書P439D～460を読み、疑問点を明確にしておく。60分	講義時の国試過去問題を復習する。留意点、根拠を踏まえた手順書を作成する。60分
21	ガウンテクニック・手袋着脱 技術演習	① ③	長屋 佐々木 坂本	演習	自己で作成した手順書に従い清潔操作等の援助が安全・安楽に実施できるようP.508～509-W動画を視聴しイメージトレーニングする。60分	手順書に青字で演習で学んだことを追記する。学びのレポートを作成する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
22	移乗・車椅子 技術試験		皮野 長屋 佐々木 坂本	演習	教科書、動画を用いてイメージトレーニングをしておく。60分	技術試験でうまくできなかった部分を振り返る。60分
23	滅菌手袋 技術試験		長屋 皮野 佐々木 坂本	演習	教科書、動画を用いてイメージトレーニングをしておく。60分	技術試験でうまくできなかった部分を振り返る。60分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	試験（筆記）		長屋皮野佐々木			
評価基準・評価方法						
認知領域（知識）：筆記試験 50% 精神運動・情意領域（技術・態度）：演習レポート 演習の取り組む態度 20% 技術試験 30%						
使用教科書						
系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ / 有田清子ほか、--第17版--医学書院，2017年，ISBN978-4-260-02760-1						
参考図書						
・香春知永、斎藤やよい編集：基礎看護技術、南江堂 ・村中陽子他：看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版株式会社						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポートに関して、講義・演習時にその都度コメントとともに説明をしていく。					
備考	・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出る。 ・演習前の課題等やっていない、確認ができない場合は見学とする。 ・身だしなみが整っていない場合（髪型・爪・服装等）は見学とする。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・技術試験が不合格の者は再試験を行う。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。					

授業科目名		担当教員				
基礎看護技術Ⅲ（診察・処置）		長屋 江見・皮野 さよみ・佐々木 智恵・坂本 裕子（代表教員 長屋 江見）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位 (90時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野さよみ・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子（看護師）				
授 業 概 要						
療養環境にある看護の対象に健康を回復するために必要な診療に伴う看護技術の意義・目的・方法を演習を通して学ぶ。一つひとつの実施方法と看護技術の基礎となる要素と根拠を理解する。 技術演習を通じて、対象への侵襲の負担や羞恥心に配慮した技術の実施方法と態度を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 看護者が実践する診療に伴う看護技術の目的・方法・留意点を説明できる。 ② 看護技術の実施にあたり、解剖生理を理解し、看護技術の根拠となる知識を説明できる。 ③ 対象者への侵襲に伴う負担や羞恥心の配慮を考えた上で看護技術を実施できる。 ④ 経管栄養法・浣腸・導尿・吸引・静脈血採血・薬物療法についての技術を実施できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	診察・治療・処置に伴う看護の意義・目的 検査の目的・方法・看護	① ②	皮野	講義		診察・治療・処置に伴う看護の意義・目的・方法・看護についてレポートにまとめ提出する 120分
2	検体の採取と取り扱い	① ②	皮野	講義	基礎看護技術ⅡP375-387を読み、疑問点を明確にしておく。尿検査に関する課題を実施する。60分 課題は、授業中のワークで使用する。	
3	検体検査（静脈血採血以外）	① ②	皮野	講義	基礎看護技術ⅡP413-420を読み、疑問点を明確にしておく。30分	指定の動画教材を視聴し、イメージする。30分
4	生体検査	① ②	皮野	講義	基礎看護技術ⅡP387-413を読み、疑問点を明確にしておく。30分	身体計測に関する課題を実施し提出する。30分 課題は、教員が、添削、評価し返却する。
5	非経口栄養法（中心静脈栄養法）	① ②	長屋	講義	基礎看護技術ⅡP55、334-336、454-455を読み、疑問点を明確にしておく。30分	指定の動画教材を視聴し、イメージする。30分
6	浣腸・摘便	① ②	長屋	講義	基礎看護技術ⅡP59-71を振り返り、自然排泄の復習をしておく。30分	尿道～解剖生理、留意点、看護の視点をまとめる。30分 動画教材視聴
7	浣腸の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習	基礎看護技術Ⅱで履修した床上排泄の援助方法を復習する。自己の作成した手順書からイメージトレーニングをする。60分	
8	浣腸の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	講義		演習で学んだこと、今後の課題についてレポートを作成する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
9	導尿	① ②	長屋	講義	基礎看護技術ⅡP59-71を振り返り、自然排泄の復習をしておく。30分	尿道～解剖生理、留意点、看護の視点をまとめる。30分 動画教材視聴

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	導尿の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習	基礎看護技術Ⅱ P500-Dの動画や動画教材を視聴し演習のイメージをしておく。60分	
11	導尿の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習		学生は演習を行って学んだこと、今後の課題についてレポートを作成する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
12	吸引・酸素療法	① ②	佐々木	講義	基礎看護技術Ⅱ（酸素療法、排痰ケア）P.214-233に目を通す。30分	基礎看護技術Ⅱ（酸素療法、排痰ケア）P.214-233の動画を視聴する。30分
13	吸引の実際	① ② ③ ④	佐々木 長屋 坂本	演習	演習手順書を作成する。60分	
14	吸引の実際	① ② ③ ④	佐々木 長屋 坂本	演習		手順書に演習時に学んだことを追記する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
15	薬物療法における基礎知識	① ②	長屋	講義	薬理学の教科書を復習する。基礎看護技術Ⅱ P286～300をよく読み疑問点を明確にしておく。30分	薬理学の教科書を使って薬剤名を調べ記述する。30分 動画教材視聴
16	看護における安全対策	① ②	長屋	講義	看護学概論P257～268、基礎看護技術Ⅱ P301～319、462～471を読み、疑問点を明確にしておく。60分	
17	看護における安全対策（実習中におけるインシデント）	① ②	長屋	講義		基礎看護学実習Ⅱに向けての安全対策を明らかにする。レポート課題 60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
18	注射器の取り扱い、針刺し事故防止	① ②	長屋	講義	基礎看護技術Ⅱ P301～319、462～472を読み、疑問点を明確にしておく。30分	動画教材を視聴し、知識を深める。30分
19	静脈採血の実施方法（血液検体取り扱い）	① ②	長屋	講義	基礎看護技術Ⅱ P375～379を読み、疑問点を明確にしておく。30分	解剖生理、留意点、根拠、看護の視点をまとめる。30分 動画教材視聴
20	静脈血採血の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習	静脈血採血の援助が安全・安楽に実施できるよう基礎看護技術Ⅱ P506-Q①、508-V、W①②の動画や動画教材を視聴しイメージトレーニングする。60分	
21	静脈血採血の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習		学生は演習を行って学んだこと、今後の課題についてレポートを作成する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
22	注射適用の援助（筋肉注射・皮下注射・皮内注射）	① ②	長屋	講義	基礎看護技術Ⅱ P301～319、462～472を読み、疑問点を明確にしておく。60分	
23	注射適用の援助（筋肉注射・皮下注射・皮内注射）	① ②	長屋	講義		解剖生理、留意点、根拠、看護の視点をまとめる。60分 動画教材視聴

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	筋肉内注射・皮下注射・皮内注射の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習	自己で作成した手順書に従い注射の援助が安全・安楽に実施できるようP506-Q～507-T, 508-W①②の動画や動画教材を視聴しイメージトレーニングする。60分	
25	筋肉内注射・皮下注射・皮内注射の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習		学生は演習を行って学んだこと、今後の課題についてレポートを作成し提出する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
26	静脈内注射・点滴静脈内注射	① ②	長屋	講義	基礎看護技術Ⅱ P320～334を読み、疑問点を明確にしておく。60分	
27	静脈内注射・点滴静脈内注射	① ②	長屋	講義		解剖生理、留意点、根拠、看護の視点をまとめる。点滴滴下速度の計算問題 60分 動画教材視聴
28	点滴静脈内注射の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習	自己で作成した手順書に従い点滴静脈内注射の援助が安全・安楽に実施できるよう基礎看護技術Ⅱ P507～508-U, W①②の動画や動画教材を視聴しイメージトレーニングする。60分	
29	点滴静脈内注射の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習		学生は演習を行って学んだこと、今後の課題についてレポートを作成する。60分 レポートは、教員が、添削、評価し返却する。
30	観察技術の試験	① ② ③ ④	皮野 長屋 佐々木 坂本		点滴中（静脈留置針留置）バルンカテーテル留置、酸素療法中の患者に対し、観察と点滴滴下の確認事項を明確にしておく。30分	技術試験でうまくできなかった部分を振り返る。30分
	試験（筆記）		長屋 皮野 佐々木			
評価基準・評価方法						
認知領域（知識）：筆記試験50％ 精神運動・情意領域（技術・態度）：演習に取り組む態度・演習レポート 20％ 技術試験 30％						
使用教科書						
系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ / 任 和子他.―第17版―医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-02760-1						
参考図書						
・岡庭豊：看護技術がみえるvol12臨床看護技術, メディックメディア ・竹内修二・松永保子編：解剖生理の視点でわかる看護技術の根拠 Q & A, 照林社						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	各講義時にレポートに対する内容説明や、小テストの解答・説明を行っていく					
備考	・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・演習前の課題等がやっていない、確認ができない場合は見学とする。 ・身だしなみが整っていない場合（髪型・爪・服装等）は見学とする。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・技術試験が不合格の者は再試験を行う。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。					

授業科目名		担当教員				
基礎看護技術Ⅳ（基礎看護実習Ⅱ事前演習）		長屋 江見・皮野 さよみ・佐々木 智恵・坂本 裕子（代表教員 長屋 江見）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長屋江見・皮野さよみ・佐々木智恵・坂本裕子（看護師）				
授 業 概 要						
看護の対象に応じた看護の展開方法（アセスメント・問題抽出・計画立案・実施・評価等）を学ぶ。事例を用いて対象を具体的にイメージしながら看護過程を展開し、対象に応じた看護の必要性を抽出し、必要な日常生活援助を実践する。また、提示された事例において、演習を通して複数の看護技術を組み合わせ、対象のニーズに見合った看護過程の展開を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
① クリティカルシンキング・看護過程の意義・目的・方法を説明できる。 ② 事例をもとに、科学的根拠に基づいて分析し、看護問題を抽出することができる。 ③ 対象に応じた看護計画・日常生活の援助計画を立案できる。 ④ 日常生活援助技術を対象に応じて安全・安楽に実施できる。 ⑤ 実施した援助を振り返り評価・修正できる。 ⑥ メンバーの一員としての役割を理解し、協調性や責任ある行動がとれる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護過程の意義・目的・方法、クリティカルシンキング、事例紹介	① ② ③ ⑥	長屋	講義	事例患者の疾患について解剖生理、病態をまとめる。 60分	事例の対象疾患や治療等の自己学習をする。 60分
2	看護過程 情報収集の方法、フェイスシート、病態について分析	① ② ③ ⑥	長屋 佐々木 坂本	講義 演習		フェイスシートを作成する。 30分
3	看護過程 事例展開 情報収集の方法、フェイスシート、病態生理について分析	① ② ③ ⑥	長屋 佐々木 坂本	演習		フェイスシートを修正、完成させる。 30分
4	看護過程 事例展開 情報分析と解釈	① ② ③ ⑥	佐々木 長屋 坂本	講義 演習	ヘンダーソンテキストP.41-45をよく読んでおく。 30分	記録3（基本的欲求の状態）に情報を記入する。 30分
5	看護過程 事例展開 情報分析と解釈	① ② ③ ⑥	佐々木 長屋 坂本	演習	記録3（基本的欲求の状態）に情報を記入する。 30分	記録3（基本的欲求の状態）にアセスメントを修正する。 30分
6	看護過程 事例展開 情報分析と解釈	① ② ③ ⑥	佐々木 長屋 坂本	演習	記録3（基本的欲求の状態）のアセスメントを記載する。 30分	記録3（基本的欲求の状態）のアセスメントを修正する。 30分
7	看護過程 事例展開 関連図の作成	① ② ③ ⑥	長屋 佐々木 坂本	講義 演習		関連図を作成する。 60分
8	看護過程 事例展開 関連図の作成	① ② ③ ⑥	長屋 佐々木 坂本	演習		関連図を修正する。 60分
9	看護過程 事例展開 看護問題・看護計画立案	① ② ③ ⑥	長屋 佐々木 坂本	講義 演習		分析した結果から看護問題を抽出し、看護計画を立案する。 60分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	看護過程 事例展開 看護問題・看護計画立案	① ② ③ ⑥	長屋 佐々木 坂本	演習		看護計画を修正する。 60分
11	看護過程 事例展開 援助計画作成（1項目）	① ② ③ ⑥	長屋 佐々木 坂本	講義 演習		援助計画を作成する。 60分
12	看護過程 事例展開 援助計画作成（1項目）	① ② ③ ⑥	長屋 佐々木 坂本	演習		援助計画を作成する。 60分
13	看護計画に沿った援助の実施	① ④ ⑤ ⑥	長屋 佐々木 坂本	演習	課題の援助をイメージトレーニングする。 30分	援助計画を修正する。 30分
14	看護計画に沿った援助の実施	① ④ ⑤ ⑥	長屋 佐々木 坂本	演習	課題の援助をイメージトレーニングする。 30分	援助計画を修正する。 30分
15	看護過程 看護計画の評価と修正	① ④ ⑤ ⑥	長屋 佐々木 坂本	講義 演習		看護計画を評価（SOAP）し修正する。 60分
評価基準・評価方法						
認知領域（知識）： 精神運動・情意領域（技術・態度）： アセスメント・看護計画等のレポート100%						
使用教科書						
看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 / 秋葉公子他. --第4版--ヌーヴェルヒロカワ, 2013年, ISBN978-4-86174-056-5						
参考図書						
・香春知永・齋藤やよい編：基礎看護技術、南江堂 ・村中陽子他編：看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版株式会社 ・任 和子他：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ、医学書院						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポート・演習に関して、講義・演習時に説明を行う。					
備考	・演習前の課題等を行っていない又は確認ができない場合は見学とすることがある。 ・身だしなみが整っていない場合（髪型・爪・服装等）は見学とすることがある。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・自己練習を自主的に行うこと。・技術試験が不合格の者は再試験を行う。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。					

授業科目名		担当教員				
フィジカルアセスメント		眞田 正世・河合 克尚・長屋 江見・佐々木 智恵・坂本 裕子 (代表教員 眞田 正世)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	2単位 (90時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		眞田正世(看護師)・河合克尚(理学療法士)・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子(看護師)				
授 業 概 要						
対象の症状や徴候から情報を収集し、必要に応じて触診や聴診を行い、患者の状態を判断するフィジカルアセスメントの基礎的知識、技術、態度を身につける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①看護師が行うフィジカルアセスメントの意義と必要性を理解でき、正しいフィジカルイグザミネーションが習得できる。 ②フィジカルイグザミネーションで得た情報から、正しいフィジカルアセスメントができ、対象の健康状態を知ることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	フィジカルアセスメントとは フィジカルアセスメントに共通する技術	①	眞田	講義	解剖生理学の基礎知識 (90分)	フィジカルアセスメントとは (90分)
2	バイタルサインの観察 体温・呼吸・酸素飽和度	①	長屋 ほか	講義	呼吸器の解剖生理学 (90分)	体温呼吸酸素飽和度の観察 (180分)
3	バイタルサインの観察 脈拍・血圧・意識状態	①	長屋 ほか	講義	循環器系・脳神経系の解剖生理学 (90分)	血圧・意識状態の観察 (180分)
4	バイタルサイン観察方法 デモンストレーション	①	長屋 ほか	演習	体温脈拍呼吸血圧意識状態の観察方法 (30分)	体温脈拍呼吸血圧意識状態の観察方法 (60分)
5	バイタルサイン観察の実際	①	長屋 ほか	演習	体温脈拍呼吸血圧意識状態の観察方法 (30分)	体温脈拍呼吸血圧意識状態の観察方法 (60分)
6	バイタルサイン観察の実際	①	長屋 ほか	演習	体温脈拍呼吸血圧意識状態の観察方法 (30分)	体温脈拍呼吸血圧意識状態の観察方法 (60分)
7	身体機能別のフィジカルアセスメント、呼吸器系と循環器系の共通するフィジカルアセスメント 呼吸器系のフィジカルアセスメント	①	眞田	講義	循環器呼吸器の解剖生理学、閉そく性肺疾患拘束性肺疾患 (90分)	呼吸器系のフィジカルアセスメント (90分)
8	身体機能別のフィジカルイグザミネーションの実際 呼吸器系と循環器系の共通・呼吸器系	①	眞田	演習	呼吸器循環器のフィジカルイグザミネーション (30分)	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際 (30分)
9	身体機能別のフィジカルイグザミネーションの実際 呼吸器系と循環器系の共通・呼吸器系	①	眞田	演習	呼吸器循環器のフィジカルイグザミネーション (30分)	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	身体機能別のフィジカルアセスメント 循環器系・消化器系のフィジカルアセスメント	①	眞田	講義	心臓の解剖生理と心不全・弁の異常 (90分)	循環器系のフィジカルアセスメント (90分)
11	身体機能別のフィジカルイグザミネーション 循環器系・消化器系	①	眞田	演習	循環器・消化器系のフィジカルイグザミネーション (30分)	循環器系・消化器系のフィジカルイグザミネーションの実際 (30分)
12	身体機能別のフィジカルイグザミネーション 循環器系・消化器系	①	眞田	演習	循環器・消化器系のフィジカルイグザミネーション (30分)	循環器系・消化器系のフィジカルイグザミネーションの実際 (30分)
13	身体機能別のフィジカルアセスメント 感覚器・中枢神経系のフィジカルアセスメント	①	眞田	講義	脳神経系・感覚器系の解剖生理学、呼吸器のフィジカルアセスメント (90分)	脳神経系・感覚器系のフィジカルアセスメント (90分)
14	身体機能別のフィジカルイグザミネーション 感覚器・中枢神経系	①	眞田	演習	脳神経系・感覚器系のフィジカルイグザミネーション (30分)	脳神経系・感覚器系のフィジカルイグザミネーションの実際 (30分)
15	身体機能別のフィジカルイグザミネーション 感覚器・中枢神経系	①	眞田	演習	脳神経系・感覚器系のフィジカルイグザミネーション (30分)	脳神経系・感覚器系のフィジカルイグザミネーションの実際 (30分)
16	身体機能別のフィジカルアセスメント 運動器系のフィジカルアセスメント	①	河合	講義	運動器系の解剖生理学 (90分)	運動器系のフィジカルアセスメント (90分)
17	身体機能別のフィジカルアセスメント 運動器系のフィジカルアセスメント	①	河合	演習	運動器系のフィジカルイグザミネーション (30分)	運動器系のフィジカルイグザミネーションの実際 (30分)
18	症状兆候のアセスメント	②	眞田ほか	演習		症状兆候のアセスメント (30分)
19	事例に沿った総合アセスメント	②	眞田ほか	講義	事例に沿ったアセスメント (60分)	事例に沿ったアセスメント (180分)
20	総合技術演習	①	眞田ほか	演習	身体機能別フィジカルイグザミネーション (90分)	
21	総合技術演習	①	眞田ほか	演習	身体機能別フィジカルイグザミネーション (90分)	
22	技術確認	①	眞田ほか	演習	身体機能別フィジカルイグザミネーション (90分)	
23	技術確認	①	眞田ほか	演習	身体機能別フィジカルイグザミネーション (90分)	

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
提出物（10％）、技術テスト（40％）及び筆記試験（50％）によって総合的に評価する。						
使用教科書						
フィジカルアセスメントガイドブック目と手でここまでわかる / 山内豊明. --第2版--医学書院, 2011年, ISBN978-4-260-01384-0 系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ / 有田清子ほか. --第16版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-01999-6						
参考図書						
・日野原重明：フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術 第4版 医学書院 2006年 ・藤崎 都：フィジカルアセスメント完全ガイド 第2版 Gakken 2012年						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	・質問等については、次の講義時に説明し、フィードバックする。					
備考	・演習への参加は指定のジャージが必要である。・演習はクラスを2つに分け、少人数で実施する。 ・講義を受けるに必要な解剖生理学・生化学・病理学の小テストを行い、理解が不十分な個所は補足後、本講義を行う。 ・身だしなみが整っていない場合（髪型・色・爪・服装等）は演習への参加は認めない。					

授業科目名		担当教員				
基礎看護学実習Ⅰ（基礎）		皮野 さよみ・長屋 江見・佐々木 智恵・坂本 裕子・他（代表教員 皮野 さよみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(45時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野さよみ・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子・他（看護師）				
授 業 概 要						
実際の医療現場の見学を通し、病院・施設の役割・機能・設備などを学ぶ。また、看護活動の実際および病院・施設で療養生活を送っている患者の生活環境の理解を通して基本的な看護実践につながる能力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 人々が療養生活を送る病院・施設の概要を知ることができる。 ② 看護の対象にとっての療養環境を知ることができる。 ③ 看護師が行う援助場面の見学を通して、看護師の役割を知ることができる。 ④ 看護を学ぶ者として自覚がもち、ふさわしい身だしなみや言動を身につけることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	平野総合病院・岐阜リハビリテーションホーム					
	II. 実習方法					
	学生を1グループ6～10名に編成し、病院の外来・病棟および高齢者施設で実習する					
	1グループを1～2名の教員が担当する					
	実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習等）を十分に行う					
	各実習場所で、施設の概要、組織、ケア体制、対象者の生活等について、施設の指導者より説明を受ける					
	実習場所で、実際に看護師およびケアスタッフの援助を見学する					
	実習場所で、対象の1日の生活、療養環境についての観察を行う					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	実習場所・学内でカンファレンスを行い実習の学びの共有と振り返りを行う					
	医療現場や施設で求められる学生の身だしなみ、言動を理解する					
	実習目標に対する達成状況や学びを発表し、実習記録にまとめ提出する					
評価基準・評価方法						
目標達成度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。						
使用教科書						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	事前学習レポート、実習記録はコメントを記入、口頭にて説明する。					
備考	履修前提条件：看護学概論、基礎看護技術Ⅰを履修中であること。					

授業科目名		担当教員				
基礎看護学実習Ⅰ（基礎）		皮野 さよみ・長屋 江見・佐々木 智恵・坂本 裕子・他（代表教員 皮野 さよみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(45時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野さよみ・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子・他（看護師）				
授 業 概 要						
実際の医療現場の見学を通し、病院・施設の役割・機能・設備などを学ぶ。また、看護活動の実際および病院・施設で療養生活を送っている患者の生活環境の理解を通して基本的な看護実践につながる能力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 人々が療養生活を送る病院・施設の概要を知ることができる。 ② 看護の対象にとっての療養環境を知ることができる。 ③ 看護師が行う援助場面の見学を通して、看護師の役割を知ることができる。 ④ 看護を学ぶ者として自覚がもち、ふさわしい身だしなみや言動を身につけることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	平野総合病院・岐阜清流病院・関中央病院・岩砂病院 岩砂マタニティ・各務原リハビリテーション病院・山内ホスピタル・岐阜リハビリテーションホーム					
	II. 実習方法					
	学生を1グループ2～10名に編成し、病院・高齢者施設で実習する					
	1グループを1～2名の教員が担当する					
	実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習等）を十分に行う					
	各実習場所で、施設の概要、組織、ケア体制、対象者の生活等について、施設の指導者より説明を受ける					
	実習場所で、実際に看護師およびケアスタッフの援助を見学する					
	実習場所で、対象の1日の生活、療養環境についての観察を行う					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	実習場所・学内で、カンファレンスを行い実習の学びの共有と振り返りを行う					
	医療現場や施設で求められる学生の身だしなみ・言動を身につける					
	実習目標に対する達成状況や学びを発表し、実習記録にまとめ提出する					
評価基準・評価方法						
目標達成度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。						
使用教科書						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	事前学習レポート、実習記録はコメントを記入、口頭にて説明する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
基礎看護学実習Ⅱ（発展）		皮野 さよみ・長屋 江見・佐々木 智恵・坂本 裕子・他（代表教員 皮野 さよみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位 (90時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野さよみ・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子・他（看護師）				
授 業 概 要						
看護の対象の情報収集およびアセスメントから看護過程の展開を用いて、対象に応じた看護を実践する。また、看護学生としての実習に対する学習態度を学び、今後の領域別実習に応用できる能力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 受け持ち対象の全体像を把握するための情報を収集することができる。 ② 科学的根拠に基づいた情報の分析・解釈から看護問題を抽出することができる。 ③ 対象の個別性を考慮した計画を立案することができる。 ④ 対象に必要な援助を実施することができる。 ⑤ 自分の行った援助を実施し振り返り評価することができる。 ⑥ 看護学生として必要な責任ある行動ができ周囲との関係を築くことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	平野総合病院・岐阜清流病院・関中央病院・岩砂病院 岩砂マタニティ・各務原リハビリテーション病院・山内ホスピタル					
	II. 実習方法					
	1. 学生を1グループ2～6名に編成し、2週間臨地実習を行う					
	2. 1グループ1～2名の教員が担当する					
	3. 実習についてのオリエンテーション（施設等の概要、諸注意、事前学習等）を十分に行う					
	4. 学生1名で対象者1名を受け持ちとし看護過程を展開する					
	5. 実習前に対象者の健康段階や治療状況、機能障害の状況等の情報を受け、事前学習に活用する					
	6. 実習中は教員、実習指導者のアドバイスを受けながら看護問題を抽出し、計画立案、実践する					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	7. 毎日カンファレンスを計画・実施し、1日の振り返りおよび翌日の計画について検討する					
	8. 学生は、実習目標に対する達成状況や学びを実習記録にまとめ提出する					
	9. 学生は、看護学生であることを自覚した言動と態度、謙虚な姿勢を学ぶ					
評価基準・評価方法						
目標達成度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。						
使用教科書						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	実習記録の添削と指導および技術の指導に含める。					
備考	履修前提条件：1年次の専門基礎科目全て、看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰを単位修得済みであること。基礎看護技術Ⅲ・Ⅳ、フィジカルアセスメントを履修中であること。					

授業科目名		担当教員				
成人看護学概論		古田 弥生				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(15時間)		講義・演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマ・ポリシー(2)(3)看護ディプロマ・ポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		古田 弥生(看護師)				
授 業 概 要						
成人看護学概論では、成人とは何かを捉え身体的・心理的・社会的な特徴を学習し、成人期を取り巻く環境や役割などを含め全人的・総合的な存在としての理解を深める。成人の健康について多様な要因により発生する健康問題の特徴を生活習慣・職業・ストレスと関連づけて学習する。成人に対する看護ケアの基盤となる主要な概念や理論を用い健康状態にあわせた看護を学習する。また、グループワークを活用し主体的な学びを深めていく。						
学 修 の 到 達 目 標						
①成人各期における身体的・心理的・社会的特徴を踏まえた生活者としての特徴を説明できる。 ②成人期にある人の健康問題について説明できる。 ③成人期にある人を看護する上で基盤となる概念や理論について説明できる。 ④健康状態(急性期・回復期・慢性期・終末期)に応じた看護の概要について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	成人とは 定義 特徴	①	古田	講義	教科書P.1～30を精読する(120分)	成人期の特徴について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分)
2	成人を取り巻く状況 家族/仕事/生活	①	古田	講義	教科書P.32～45を精読し、自己・家族の状況を調査しまとめる(120分)	成人を取り巻く環境について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分)
3	成人期にある人の健康 健康とは/健康の動向・課題	① ②	古田	講義	教科書P.62～90を精読し、健康動向・課題について調べまとめる(120分)	成人保健の動向について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分)
4	生活習慣病 職業疾患 生活ストレス	① ②	古田	講義	教科書P.91～112を精読し、生活習慣病・職業疾患について調べまとめる 自己のストレスをあげる(120分)	生活習慣病・職業疾患について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分)
5	成人期にある人を看護するための基本的な考え方 関係(エンパワメント)・適応(ストレスコーピング・危機理論)	③	古田	講義	教科書P.124～174を精読し、ケアリング・ストレスコーピング・危機理論について調べまとめる(120分)	関係の構築・適応を促す・発達を支援するについて教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分)
6	成人期にある人を看護するための基本的な考え方 発達(セルフケア/学習)	③	古田	講義	教科書P.124～174を精読し、セルフケア理論・学習について調べまとめる(120分)	関係の構築・適応を促す・発達を支援するについて教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分)
7	急性・回復状態にある人の看護	④	古田	講義	教科書P.219～237を精読し、急性状態・回復状態の意味を調べまとめる(120分)	急性・回復期看護の概要について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分)
8	慢性・終末状態にある人の看護	④	古田	講義	教科書P.238～258を精読し、慢性状態・終末状態の意味を調べまとめる(120分)	慢性・終末期看護の概要について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分)
	定期試験(筆記)					

評価基準・評価方法	
定期試験（60％）、小テスト（16％）、課題提出（16％）、授業態度（8％）	
使用教科書	
成人看護学 成人看護学概論 / 林直子、鈴木久美、酒井郁子、梅田恵. --改定第3版--南江堂, 2019, 978-4-524-24176-7	
参考図書	
必要に応じて紹介します。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義時小テストを行うことや、質問に対してもその都度フィードバックします。
備考	学生の質問にその都度応じながら指導をします。

授業科目名		担当教員				
成人看護活動論Ⅰ（基礎）		古田 弥生・吉崎 純夫・林 宗典・森岡 菜穂子・眞田 正世・飯沼 温美・粥川 誠至（代表教員 古田 弥生）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	3単位(135時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		古田弥生（看護師）吉崎純夫（看護師）林宗典（看護師）森岡菜穂子（看護師）眞田正世（看護師）飯沼温美（看護師）粥川誠至（看護師）				
授 業 概 要						
慢性的経過をたどり、生涯に渡って生活のコントロールを必要とする対象者とその家族への看護を学習する。慢性疾患の特徴や、セルフケア能力を高める看護援助について学習する。成人期における健康障害の特徴を踏まえ、終末期を迎える対象者やその家族への看護援助について学習する。ライフスタイルにおける主な慢性疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し分かりやすく学習を行う。また、グループワークを活用し学びを深めていく。患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習がしやすいように進める。						
学 修 の 到 達 目 標						
①慢性的経過をたどる対象および家族の特徴を知り看護について説明できる。 ②日常生活を送りながらセルフマネジメント獲得に向けた看護の教育的役割を説明できる。 ③終末期における対象及び家族への看護についてを説明できる。 ④慢性期患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	慢性期看護とは	① ② ④	古田	講義	教科書「慢性期」P.2～38を精読し、慢性期看護についてまとめる（45分）	慢性疾患の特徴について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
2	慢性期患者の特徴	① ② ④	古田	講義	教科書「慢性期」P.42～68を精読し、慢性期患者の特徴をまとめる（45分）	慢性期患者の特徴について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
3	慢性疾患患者の看護的支援	① ② ④	古田	講義	教科書「慢性期」P.25～29・175～180・367～373を精読し、慢性期における看護支援をまとめる（45分）	理論やセルフマネジメントについて教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
4	肺炎のある人の看護	① ② ④	吉崎	講義	教科書「呼吸器」P.20～39・141～152・305～307を精読し、肺の解剖生理・肺炎について復習する（45分）	肺炎の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
5	慢性閉塞性肺疾患のある人の看護	① ② ④	吉崎	講義	教科書「呼吸器」P.183～187・226～230・323～337を精読し、慢性閉塞性肺疾患について復習する	慢性閉塞性肺疾患の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
6	肺がんのある人の看護	① ② ④	吉崎	講義	教科書「呼吸器」P.199～212・231～234・345～354を精読し、肺がんについて復習	肺がんの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
7	肺がんに対する化学療法の看護	① ② ④	吉崎	講義	教科書「呼吸器」P.199～212・231～234・345～355を精読し、化学療法についてま	肺がんの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
8	高血圧患者の看護/疾患の理解/高血圧の基準・分類・種類とその身体に及ぼす影響	① ② ④	林	講義	教科書「循環器」P.165～175、P.336～338を精読し、高血圧の病態生理を学習する（45分）	高血圧患者の看護について、高血圧の病態生理を理解し、教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
9	虚血性心疾患患者の看護/疾患の理解と疾患に応じた治療・看護	① ② ④	林	講義	教科書「循環器」P.122～151・P.312～323を精読し、循環器の解剖生理・虚血性心疾患の病態生理を学習する（45分）	虚血性心疾患の病態生理を教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	虚血性心疾患患者の看護/疾患の理解と疾患に応じた治療・看護	① ② ④	林	講義	教科書「循環器」 P.122～151・ P.312～322を精読し、 虚血性心疾患患者の看護を学習する（45分）	虚血性心疾患患者の看護を教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
11	心不全患者の看護/疾患の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ④	林	講義	教科書「循環器」 P.152～164・ 323～335を精読し、 心不全の病態生理を学習する（45分）	心不全の病態生理を教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
12	心不全患者の看護/疾患の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ④	林	講義	教科書「循環器」 P.152～164・ 323～335を精読し、 心不全患者の看護を学習する（45分）	心不全患者の看護を教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
13	HIV感染/AIDSのある人の看護	① ② ④	古田	講義	教科書「感染症」 P.333～337・ 375～380を精読し、 免疫機能・ HIV/AIDSについて復	HIV/AIDSの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
14	脳梗塞のある人の看護	① ② ④	森岡	講義	教科書「脳神経」 P.23～50・ 133～143を精読し、 脳の解剖生理・脳梗塞について復習する	脳梗塞の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
15	脳出血のある人の看護	① ② ④	森岡	講義	教科書「脳神経」 P.122～132を精読し、 脳の解剖生理・脳出血・ クモ膜下出血について復習する（45分）	脳出血の看護について教科書・資料を基に復習する（45分）
16	前立腺がんのある人の看護	① ② ④	吉崎	講義	教科書「腎・泌尿器」 P.163～165・181～183・ 278～282を精読し、泌尿器系の解剖生理について復習する（45分）	前立腺がんの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
17	甲状腺機能亢進症/低下症のある人の看護	① ② ④	古田	講義	教科書「内分泌」 P.25～28・97～108・ 210～218を精読し、内分泌機能・甲状腺機能亢進/低下症について復習する	甲状腺機能亢進/低下症の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
18	白血病のある人の看護	① ② ④	眞田	講義	教科書「血液・造血器」 P.18～24・72～74・ 97～119を精読し、血液・ 免疫系の解剖生理について復習する（45分）	白血病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
19	白血病のある人の看護	① ② ④	眞田	講義	教科書「血液・造血器」 P.18～24・72～74・ 97～119を精読し、血液・ 免疫系の解剖生理について復習する（45分）	白血病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
20	慢性肝炎/肝硬変のある人の看護	① ② ④	森岡	講義	教科書「消化器」 P.31～36・210～242を精読し、 肝臓の解剖生理・慢性肝炎・肝硬変について復習する（45分）	慢性肝炎/肝硬変の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
21	肝臓のある人の看護	① ② ④	森岡	講義	教科書「消化器」 P.243～247を精読し、 肝臓の解剖生理・ 肝臓について復習する（45分）	肝臓の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
22	胃/十二指腸潰瘍のある人の看護	① ② ④	古田	講義	教科書「消化器」 P.19～24・156～164・ 354～358を精読し、胃・ 十二指腸の解剖生理・消化管潰瘍について復習する	消化管潰瘍の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
23	潰瘍性大腸炎/クローン病のある人の看護	① ② ④	眞田	講義	教科書「消化器」 P.315～327を精読し、消化管の解剖生理・潰瘍性大腸炎/クローン病について復習する（45分）	潰瘍性大腸炎/クローン病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	関節リウマチのある人の看護	① ② ④	森岡	講義	教科書「膠原病」P.130～134・150～156を精読し、関節リウマチについて復習する（45分）	関節リウマチの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
25	全身性エリテマトーデスのある人の看護	① ② ④	森岡	講義	教科書「膠原病」P.156～161を精読し、免疫異常・全身性エリテマトーデスについて復習する（45分）	全身性エリテマトーデスの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
26	糖尿病のある人の看護	① ② ④	眞田	講義	教科書「内分泌」P.132～164を精読し、代謝障害・糖尿病について復習する（45分）	糖尿病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
27	糖尿病のある人の看護	① ② ④	眞田	講義	教科書「内分泌」P.243～286を精読し、代謝疾患糖尿病患者の看護について学習する（45分）	糖尿病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
28	慢性腎不全（慢性腎臓病）患者の看護/疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ④	林	講義	教科書「腎・泌尿器」P.18～32・40～45・55～60・115～123を精読し、腎臓の構造と機能・疾患について学習する（45分）	慢性腎不全（慢性腎臓病）の病態生理を、教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
29	慢性腎不全（慢性腎臓病）患者の看護/疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ④	林	講義	教科書「腎・泌尿器」P.247～252を精読し、腎疾患・看護について学習する（45分）	慢性腎不全（慢性腎臓病）患者の看護を、教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
30	人工透析を受ける人の看護	① ② ④	粥川	講義	教科書「慢性期」P.140～150を精読し、血液浄化療法についてまとめる（45分）	血液浄化療法時の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
31	緩和ケア 死生観 身体の苦痛の緩和	③	飯沼	講義	死生観とは何かを調べまとめる（45分）	死生観・苦痛の緩和について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
32	緩和ケア 緩和ケアの考え方	③	飯沼	講義	緩和ケアとは何かを調べまとめる（45分）	緩和ケアについて教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
33	緩和ケア 緩和ケアにおける薬物療法	③	飯沼	講義	緩和ケアにおける薬物療法について調べまとめる（45分）	緩和ケアにおける薬物療法について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）
34	糖尿病のある人の看護（事例・演習）	① ② ④	古田 吉崎 森岡 林	演習	その都度提示した演習事前課題を実施する（50分）	演習課題を実施する（50分）
35	糖尿病のある人の看護（事例・演習）	① ② ④	古田 吉崎 森岡 林	演習	その都度提示した演習事前課題を実施する（50分）	演習課題を実施する（50分）
36	糖尿病のある人の看護（事例・演習）	① ② ④	古田 吉崎 森岡 林	演習	その都度提示した演習事前課題を実施する（50分）	演習課題を実施する（50分）
37	糖尿病のある人の看護（事例・演習）	① ② ④	古田 吉崎 森岡 林	演習	その都度提示した演習事前課題を実施する（50分）	演習課題を実施する（50分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
38	糖尿病のある人の看護（事例・演習）	① ② ④	古田 吉崎 森岡 林	演習	その都度提示した演習事前課題を実施する（50分）	演習課題を実施する（50分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験（80％）、小テスト（10％）、事例課題（10％）を参考に総合評価する。						
使用教科書						
成人看護学 慢性期看護 / 鈴木久美他、一改訂第3版—南江堂、2019年、978-4-524-24198-9 成人看護学 急性期看護<1> 概論・周手術期看護 / 林直子他、一改訂第3版—南江堂、2019年、978-4-524-24163-7 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (2) 呼吸器 / 川村雅文他、一第15版—医学書院、2020年、978-4-260-03569-9 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (3) 循環器 / 吉田俊子他、一第15版—医学書院、2020年、978-4-260-03557-6 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (4) 血液・造血器 / 飯野京子他、一第15版—医学書院、2020年、978-4-260-03571-2 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (5) 消化器 / 南川雅子他、一第15版—医学書院、2020年、978-4-260-03571-2 他 計17冊 /						
参考図書						
必要に応じて紹介する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	オムニバス形式のため各担当教員の最後の講義時、課題の振り返りを行う。					
備考	教員が解剖生理、疾病、看護について学生の質問にその都度応じながら指導をしていく。					

授業科目名		担当教員				
成人看護活動論Ⅱ（発展）		古田 弥生・吉崎 純夫・林 宗典・森岡 菜穂子・中嶋 武広（代表教員 古田 弥生）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 後学期	2単位(90時間)		講義・演習 オムニバス		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		古田 弥生（看護師）吉崎 純夫（看護師）林 宗典（看護師）森岡 菜穂子（看護師）中嶋 武広（看護師）				
授業概要						
周手術期および生命危機状態にある患者とその家族への看護の知識と技術を学習する。急性期の特徴や、手術侵襲によって引き起こされる身体メカニズムの中から必要な看護について学び理解を深める。主な手術を必要とする疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し取り組みやすい学習とする。また、グループワークを活用し学びを深めていく。演習では患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習がしやすいように進める。						
学修の到達目標						
①手術を受ける患者・家族の反応とそれに対する看護について説明できる。 ②手術の侵襲によって引き起こされる生命反応を説明できる。 ③術後合併症の発生リスクを理解し、予防的な看護を説明できる。 ④術後の患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	急性期看護の考え方	① ②	吉崎	講義	教科書「急性期」P.2～31を精読し、急性期の定義について学習する（75分）	急性期看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（75分）
2	周手術期看護	① ②	古田	講義	教科書「急性期」P.36～45を精読し、手術侵襲について学習する（75分）	周手術期看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（75分）
3	術後看護	① ② ③ ④	古田	講義	教科書「急性期」P.94～134を精読し、各表題の正常な機能を学習する（75分）	術後看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（75分）
4	術後の合併症と観察	① ② ③ ④	古田	講義	教科書「急性期」P.94～135を精読し、各表題の正常な機能を学習する（75分）	術後看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（75分）
5	術前看護	① ② ③ ④	古田	講義	教科書「急性期」P.48～66を精読し、術前看護に必要なことをレポートにまとめる（75分）	術前看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（75分）
6	術中看護	① ② ③ ④	古田	講義	教科書「急性期」P.68～91を精読し、術中看護に必要なことをレポートにまとめる（75分）	術中看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（75分）
7	直腸切除術を受ける人の看護	① ② ③ ④	吉崎	講義	教科書「消化器」P.201～207・389～396を精読し、大腸の解剖生理について復習する（75分）	大腸・直腸除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（75分）
8	胃切除術を受ける人の看護	① ② ③ ④	古田	講義	教科書「消化器」P.19～24・165～172・358～367を精読し、事前課題の資料を基に胃の解剖生理・胃癌について復習する（75分）	胃癌・胃切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（75分）
9	急性心筋梗塞を発症した人の看護	① ② ③ ④	中嶋	講義	教科書「循環器」P.92～115を精読し、循環器疾患における治療について学習する（75分）	循環器における外科的手術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（75分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	心臓カテーテル治療を受ける人の看護	① ② ③ ④	中嶋	講義	教科書「循環器」P.68～78を精読し、心臓カテーテル法について学習する(75分)	心臓カテーテル治療の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)
11	乳房切除術を受ける人の看護	① ② ③ ④	森岡	講義	教科書「女性生殖器」P.21～22・147～166を精読し、事前課題の資料を基に乳房の解剖生理・乳癌について復習する(75分)	乳癌・乳房切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)
12	子宮摘出術を受ける人の看護	① ② ③ ④	森岡	講義	教科書「女性生殖器」P.22～25・116～127を精読し、事前課題の資料を基に子宮の解剖生理・子宮癌について復習する(75分)	子宮癌・子宮摘出術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)
13	胆・肝・膵切除術を受ける人の看護	① ② ③ ④	吉崎	講義	教科書「消化器」P.244～264・410～433を精読し、胆嚢・肝臓・膵臓の解剖生理について復習する	胆・肝・膵切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)
14	開頭術を受ける患者の看護(脳腫瘍)	① ② ③ ④	林	講義	教科書「脳神経」P.147～153・303～311を精読し、脳腫瘍の疾患理解と開頭術を受ける患者の看護を学習する(75分)	開頭術(脳腫瘍)を受ける患者の看護を、教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)
15	術直後の観察	① ② ③ ④	古田	演習	演習課題を実施する(75分)	演習の振り返りレポートを作成する 配信動画を視聴する(75分)
16	術直後の観察	① ② ③ ④	古田	演習	演習課題を実施する(75分)	演習の振り返りレポートを作成する 配信動画を視聴する(75分)
17	直腸切除術を受ける人の看護(事例・演習)	① ② ③ ④	古田 吉崎 森岡 林	演習	演習事前課題を実施する(75分)	演習課題を実施する(75分)
18	直腸切除術を受ける人の看護(事例・演習)	① ② ③ ④	古田 吉崎 森岡 林	演習	演習事前課題を実施する(75分)	演習課題を実施する(75分)
19	直腸切除術を受ける人の看護(事例・演習)	① ② ③ ④	古田 吉崎 森岡 林	演習	演習事前課題を実施する(75分)	演習課題を実施する(75分)
20	直腸切除術を受ける人の看護(事例・演習)	① ② ③ ④	古田 吉崎 森岡 林	演習	演習事前課題を実施する(75分)	演習課題を実施する(75分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験(80%)、小テスト(10%)、事例課題(10%)を参考に総合評価する。						
使用教科書						
成人看護学急性期看護<1>概論・周手術期看護 / 林直子、佐藤まゆみ編集。--改訂第3版 --南江堂, 2019年, 978-4-524-24163-7 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (3) 循環器 / 松田直樹他。--第15版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03557-6 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (5) 消化器 / 南川 雅子他。--第15版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03562-0 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (7) 脳・神経 / 井手 隆文他。--第15版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03561-3 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (9) 女性生殖器 / 末岡 浩他。--第15版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03567-5						
参考図書						

必要に応じて紹介する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	オムニバス形式のため各担当教員の最後の講義時、課題の振り返りを行う。
備考	教員が解剖生理、疾病、看護について学生の質問にその都度応じながら指導をしていく。

授業科目名		担当教員				
成人看護学実習Ⅰ（慢性、回復期）		古田 弥生・吉崎 純夫・林 宗典・森岡 菜穂子（代表教員 古田 弥生）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 後学期	3単位(135時間)		実習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		古田 弥生（看護師）吉崎 純夫（看護師）林 宗典（看護師）森岡 菜穂子（看護師）				
授 業 概 要						
慢性に経過する疾患と共に、成人期における対象及び健康障害の特性と、健康レベルに応じた患者とその家族の持つ健康問題を総合的に理解し、科学的でかつ論理的な看護を実践するための基礎的能力を身に付ける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①疾患から生じる健康問題を抱え慢性に経過する患者および家族の特徴を多面的に説明できる。 ②慢性疾患患者が日常生活の規制の中で自己管理と社会生活の適応ができるよう、科学的根拠に基づき看護の問題解決のプロセスを理解し、問題解決を図り実施できる。 ③患者の生活を中心とした医療チームの役割と社会資源について説明できる。 ④看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	平野総合病院					
	II. 実習方法					
	・学生80名を1グループ5～6名の20グループに編成し、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習と共にローテーションで行う。				慢性期とはどのようなことか、特徴をもとに看護師の役割や、チーム医療について学習する。	・看護過程の展開をする中で慢性期の特徴を活用する。
	・実習前オリエンテーションを行う。 ・平野総合病院の病棟一箇所で行う。 ・一人の患者を受け持ち看護の実践を行う。				慢性期を支える看護として、セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、症状マネジメント、学習支援等について学習する。	・看護過程の展開をする中で慢性期の特徴を活用する。
	・事前学習は病棟の概要に記入してある疾患をもとに、解剖生理、病態、検査、治療、看護の学習を行う。				・実習病院の概要に記載してある、疾患および検査・治療とその看護について事前学習を行う。	・受け持ち患者の疾患について学習が不足している点など追加学習を行う。
	・実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。				・看護過程の展開とはどのようなことか、情報収集、アセスメント、問題の抽出、看護計画、評価について学習し、サイクルになっていることを再確認する。	・看護過程の展開を行いながら看護を実践する。また、その振り返りを毎日行う。
	・一日は血液浄化センターの見学を行う。				・血液浄化療法について学習する	・血液浄化センターでの学びを考察し、レポートにする。
	・学内実習は、病態の理解を深めたり記録の整理を行う。 ・病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深めあう。				・根拠を理解した上で援助が行えるよう看護援助（技術）を身に付ける。	・日々の記録の振り返りを行い、援助（技術）での今後の課題点について把握し、練習を行う。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。				・自己の学びをまとめ、振り返りを行うことで、次への課題を明確にする。	・グループ内の意見交換より、自己の学び、課題を再度考察する。
評価基準・評価方法						
目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。						
使用教科書						
成人看護学 慢性期看護 / 鈴木久美、簀持知恵子、佐藤直美編集. --改訂第3版--南江堂, 2019年, ISBN978-4-524-24198-9 ナース・グラフィカ 成人看護学 (6) 緩和ケア / 宮下光令編集. --第2版--MCメディカ出版, 2016年, ISBN978-4-8404-5378-3						
参考図書						
系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (2) ～ (15)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	実習初日に口頭試問を行い学習状況の確認を行い必要な課題を示します。実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるよう指導します。					
備考	実習中、疾患や看護について知識を確認しながら学習をしていきます。慢性期の特徴や看護、各疾患について必要な知識を持ち、実習に向かう準備を行って実習に臨んでください。専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。成人看護活動論Ⅱについては履修済みであること。					

授業科目名		担当教員				
成人看護学実習Ⅱ（手術、急性、終末期）		古田 弥生・吉崎 純夫・林 宗典・森岡 菜穂子（代表教員 古田 弥生）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 後学期	3単位(135時間)		実習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		古田 弥生（看護師）吉崎 純夫（看護師）林 宗典（看護師）森岡 菜穂子（看護師）				
授 業 概 要						
周手術期及び急性期にある成人期の患者および家族を総合的に理解し、生命の危機的状態をとらえ、回復促進および社会生活への適応ができるよう、科学的でかつ論理的に実践するための基礎的能力を身に付ける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①周手術期または急性期における生命の危機的状況にある患者および家族の特徴を多面的に説明できる。 ②急性状態による侵襲からリスクを予測し生命維持・回復促進ができるよう、科学的根拠に基づき看護の問題解決のプロセスを理解し、問題解決を図り実施できる。 ③患者の生活を中心とした医療チームの役割と社会資源について説明できる。 ④看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付けられる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	岐阜県総合医療センター、岐阜ハートセンター、羽島市民病院、揖斐厚生病院、岐阜赤十字病院、松波総合病院、岐阜清流病院					
	II. 実習方法					
	・学生80名を1グループ5～6名の20グループに編成し、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習と共にローテーションで行う。				・周手術期（急性期）とはどのようなことか、特徴をもとに看護師の役割や、チーム医療について学習する。	・看護過程の展開をする中で周手術期（急性期）の特徴を活用する。
	・実習前オリエンテーションを行う ・岐阜県総合医療センター、岐阜ハートセンター、羽島市民病院、揖斐厚生病院、岐阜赤十字病院、松波総合病院、岐阜清流病院の病棟のいずれか一箇所で行う。 ・一人の患者を受け持ち看護の実践を行う。				周手術期を支える看護として、術前・術中・術後の看護について学習する。特に、術後合併症については根拠をもとに理解できるように学習する。	・看護過程の展開をする中で周手術期（急性期）の特徴を活用する。
	・事前学習は、病棟の概要に記入してある疾患をもとに、解剖生理、病態、検査、看護の学習を行う。				・実習病院の概要に記載してある、疾患および検査・治療とその看護について事前学習を行う。	・受け持ち患者の疾患について学習が不足している点など追加学習を行う。
	・実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。				・看護過程の展開とはどのようなことか、情報収集、アセスメント、問題の抽出、看護計画、評価について学習し、サイクルになっていることを再確認する。	・日々の援助記録の振り返りを行い、技術での今後の課題点について把握し、練習を行う。
	・受け持ち患者の手術日には手術室の入室から退室までの一連の看護について見学する。 実習期間中に手術室見学を一度は行い、手術室における清潔操作、手術室での患者の管理方法、手術室看護の概要を見学する。（施設により多少異なる）				・手術室入室から退室までの看護について学習する。また、手術室環境や他職種の連携について学習する。	・手術室見学での学びを考察し、レポートにまとめる。
	・学内実習は、病態の理解を深めたり記録の整理を行う。 ・病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し看護の方向性の検討や学びを深める。				・根拠を理解した上で援助が行えるよう看護援助（技術）を身に付ける。	・日々の記録の振り返りを行い、援助（技術）での今後の課題点について把握し、練習を行う。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。				・自己の学びをまとめ、振り返りを行うことで、次への課題を明確にする。	・グループ内の意見交換より、自己の学び、課題を再度考察する。
評価基準・評価方法						
目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。						
使用教科書						
成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 / 林直子、佐藤まゆみ編集。--改訂第3版--南江堂，2019年，ISBN978-4-524-24163-7						
参考図書						
系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学（2）～（15）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	実習初日に口頭試問を行い学習状況の確認を行い必要な課題を示します。実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるよう指導します。					
備考	実習中、疾患や看護について知識を確認しながら学習をしていきます。急性期の特徴や術後観察の視点・看護、各疾患について必要な知識を持ち、実習に向かう準備を行って実習に臨んでください。 専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰの単位を修得済であること。成人看護活動論Ⅱについては履修済であること。					

授業科目名		担当教員				
高齢者看護学概論		熊田　ますみ				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年　後学期	1単位(15時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）				
授　業　概　要						
高齢者を社会的存在の生活者として理解するために、身体的老化のみならず、その人の人生や影響を受けた社会変動、環境などの多様性と高齢社会の動向を知り、高齢者の健康と生活を支える基本的な考えを学ぶ。講義では、グループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。						
学　修　の　到　達　目　標						
①老化とは何か、高齢者の身体的、心理精神的、社会的側面の特徴について説明できる。 ②個々の生きてきた生活史、社会状況の変化から高齢者を理解し、説明できる。 ③加齢や社会的役割による変化が生活にどのような影響をもたらすかを説明できる。 ④我が国の超高齢社会について、高齢者を取り巻く社会の様相や課題を説明できる。 ⑤高齢者看護の理念と基本的な視点を説明できる。 ⑥身体拘束や虐待などの今日的課題について、対応を考えることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	老年期の理解（老いるということ、加齢と老化）	① ⑤	熊田	講義	「高齢者とは」事前レポート作成・提出120分	ライフサイクルについてまとめる120分
2	老年期の理解（老年期とは・発達課題） 事前学習の発表	②	熊田	講義	「高齢者の生きてきた時代背景について」まとめる120分	高齢者の発達課題についてまとめる120分
3	高齢社会の統計的輪郭（平均寿命・高齢化率・高齢者と家族・高齢者の健康状態・高齢者の死亡・高齢者の暮らし）	④	熊田	講義	高齢者の平均寿命・高齢化率の変遷についてまとめる120分	小テストの準備：平均寿命・高齢化率・高齢者と家族120分
4	高齢者の理解（加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化）	①	熊田	講義	指定のDVDを視聴し、課題に取り組む120分	高齢者の身体的・心理的・社会的変化の国家試験問題120分
5	第1回小テスト：平均寿命・高齢化率・高齢者と家族 高齢者と社会保障（保健医療・福祉の動向、保健医療福祉システムの構築と・法律）	② ④	熊田	講義	高齢者に関する法律についてまとめる120分	小テストの準備：保健医療福祉の動向・法律について120分
6	高齢社会と社会保障（保健医療・福祉の動向、保健医療福祉システムの構築・法律）	② ④	熊田	講義	介護保険制度についてまとめる120分	小テストの準備：保健医療・福祉の動向・法律について120分
7	第2回小テスト：保健医療福祉の動向・法律 高齢社会と社会保障（高齢者虐待等権利擁護のための制度）	③ ⑥	熊田	講義	高齢者の虐待についてまとめる120分	小テストの準備：権利擁護の法律について120分
8	第3回小テスト：権利擁護の法律 老年看護の役割・老年看護に携わる者の責務	⑤	熊田	講義	老年看護の役割についてまとめる120分	「高齢者観」を課題とし提出120分
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
定期試験（70％）、小テスト（20％）、課題レポート（10％）	
使用教科書	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 / 北川公子ほか. --第9版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03186-8	
参考図書	
・国民衛生の動向（厚生統計協会） ・国民福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	事前学習及び課題は講義内容に反映する。
備考	オフィスアワー、授業中に随時質問を受け付けます。指定のオフィスアワーの時間以外にも、お気軽に声をかけてください。 小テストを実施しフィードバックします。 高齢者を取り巻く社会制度や国の施策等に興味をもって、社会の変化に目を向けて知識を深めましょう。

授業科目名		担当教員				
高齢者看護活動論Ⅰ（基礎）		熊田 ますみ・二村 美津子・加藤 清人・山本 容正・住若 智子・中川 幸代（代表教員 熊田 ますみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位(90時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師） 二村美津子（看護師） 加藤清人（作業療法士） 住若智子（認定看護師） 中川幸代（認定看護師）				
授 業 概 要						
加齢変化や老年期特有の健康障害に対して、解決もしくは生活への影響を最小にするための基礎的な知識と看護方法を学ぶ。 高齢者の特徴を踏まえ、健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。双方向システムを活用し学びを深めていく。						
学 修 の 到 達 目 標						
①老年看護の基盤となる考え方や課題が説明できる。 ②高齢者への日常生活援助について、意義や方法などを説明できる。 ③高齢者に多い健康障害の原因とその程度、生活への影響について説明できる。 ④残存機能を活用し、自立支援という視点から援助の方向性が説明できる。 ⑤認知症を有する高齢者への看護について理解し、コミュニケーションスキルを身につける。 ⑥代表的な疾患を有する高齢者に対し、具体的な看護方法を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	高齢者看護の基本的な考え方（基本動作と環境のアセスメント）	① ③	熊田	講義	基本動作・姿勢を支える環境をまとめる30分	日常生活における基本的な評価指標をまとめる30分
2	転倒・廃用症候群の予防	② ③	熊田	講義	高齢者の転倒の要因・廃用症候群についてまとめる30分	転倒予防・廃用症候群の看護をまとめる30分
3	高齢者の生活機能を整える看護 食事（摂食嚥下障害）	② ④	中川	講義	食事に関する加齢変化をまとめる30分	摂食嚥下障害の5期モデルのそれぞれの状態、観察ポイントをまとめる30分
4	高齢者の生活機能を整える看護 食事（栄養状態の変調・食生活のアセスメント）	② ④	二村	講義	摂食嚥下能力のアセスメント、サルコペニア、肥満とサルコペニアについてまとめる30分	課題プリント：高齢者の事例を活用して、栄養状態をアセスメントし提出する30分
5	高齢者の生活機能を整える看護 食事（食生活の支援）	② ④	二村 熊田	演習	演習課題を行う30分	課題レポートをまとめ提出する30分
6	高齢者の生活機能を整える看護 清潔	② ④	二村	講義	皮膚の加齢変化についてまとめる30分	清潔に関する健康課題と清潔のアセスメント、清潔の援助についてまとめる30分
7	高齢者の生活機能を整える看護 排泄	② ④	二村	講義	排泄に関する加齢変化をまとめる30分	課題プリント：高齢者の事例を活用して排泄のアセスメントする30分
8	高齢者の生活機能を整える看護 排泄（おむつ交換・陰部洗浄）	② ④	二村 熊田	演習	おむつ交換・陰部洗浄の手順書に、事例に対する留意点をまとめる30分	手順書に追加・修正する30分
9	高齢者の生活機能を整える看護 排泄（おむつ交換・陰部洗浄）	② ④	二村 熊田	演習	おむつ交換・陰部洗浄の手順書に、事例に対する留意点をまとめる30分	演習の振り返りをまとめ提出する30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	高齢者の生活機能を整える看護 生活リズム・セクシュアリティ	② ④	熊田	講義	睡眠における加齢変化をまとめる30分	生活リズムを整える援助をまとめる30分
11	高齢者の生活機能を整える看護 コミュニケーション	② ④	二村	講義	コミュニケーションに作用する加齢変化をまとめる30分	事例におけるコミュニケーション方法をまとめる30分
12	高齢者の生活機能を整える看護 コミュニケーション	② ④	熊田	演習	事例におけるコミュニケーション方法をまとめる30分	事例におけるコミュニケーション方法をまとめる30分
13	認知機能の障害に対する看護（うつ・せん妄）	⑥	熊田	講義	うつ・せん妄の違いについてまとめる30分	うつ・せん妄の看護をまとめる30分
14	認知機能の障害に対する看護（認知症）	⑤	熊田	講義	加齢による「もの忘れ」と「認知症の」記憶障害についてまとめる30分	四大認知症の病態と評価方法についてまとめる30分
15	認知機能の障害に対する看護（認知症）	⑤	熊田	講義	認知症高齢者に対するコミュニケーション方法の要点をまとめる30分	国家試験問題：認知症高齢者看護に対する問題
16	認知機能の障害に対する看護（認知症看護の実際）	⑤	住若	講義	認知症高齢者の個人の尊厳を守ることについて、自己の考えをまとめる30分	認知症高齢者の看護をまとめる30分
17	認知機能の障害に対する看護（非薬物療法・レクリエーションの実際）	⑤	加藤	講義	認知症の非薬物療法についてまとめる30分	臨床で展開されている認知症高齢者への非薬物療法についてまとめる30分
18	高齢者にみられる身体症状のアセスメント（発熱・痛み・脱水）	③	熊田	講義	高齢者に多い発熱の原因とリスクについてまとめる30分	発熱・痛み・脱水時の看護についてまとめる30分
19	高齢者にみられる身体症状のアセスメント（嘔吐・浮腫・倦怠感等）	③	熊田	講義	高齢者に多い嘔吐の原因、浮腫の分類、倦怠感がおこる原因についてまとめる30分	嘔吐・浮腫・倦怠感等に対する看護についてまとめる30分
20	疾患を持つ高齢者への看護（心不全①）	⑥	二村	講義	心不全の病態関連図を書く40分	病態関連図の追加・修正をする20分
21	疾患を持つ高齢者への看護（心不全②事例）	⑥	二村 熊田	演習	事例の状態をアセスメントする30分	心不全の関連図・アセスメント・看護の要点をまとめ提出する30分
22	疾患を持つ高齢者への看護（骨粗鬆症・大腿骨近位部骨折）	⑥	熊田	講義	運動系の加齢変化についてまとめる30分	大腿骨頸部骨折の事例における患者のアセスメントをする30分
23	疾患を持つ高齢者への看護（大腿骨頸部骨折の事例展開）	⑥	熊田 二村	演習	大腿骨頸部骨折の事例における看護問題を抽出する30分	事例の看護計画を追加・修正し提出する30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	疾患を持つ高齢者への看護（感染と感染症対策）	⑥	山本	講義	加齢に伴う免疫力の低下についてまとめる30分	高齢者の感染症の予防方法をまとめる30分
25	疾患を持つ高齢者への看護（褥瘡・スキンケア）	③	二村	講義	皮膚の加齢変化についてまとめる20分	褥瘡発症のリスク要因及び看護についてまとめる40分
26	疾患を持つ高齢者への看護（褥瘡・スキンケア）	③	二村 熊田	演習	演習課題を行う20分	課題レポートをまとめ提出する40分
27	疾患をもつ高齢者への看護の実際（事例を用いて）（認知症看護の視聴覚教材学習）	⑤ ⑥	熊田 二村	演習	患者設定から必要な情報・観察方法をまとめる30分	課題の振り返りをして提出する30分
28	疾患をもつ高齢者への看護の実際（事例を用いて）（認知症看護の視聴覚教材学習）	⑤ ⑥	熊田 二村	演習	患者設定から必要な情報・観察方法をまとめる30分	課題の振り返りをして提出する30分
29	疾患をもつ高齢者への看護の実際（事例を用いて）（認知症看護の視聴覚教材学習）	⑤ ⑥	熊田 二村	演習	認知症の症状についてまとめる30分	事例の認知症高齢者看護の学びをまとめ提出する30分
30	疾患をもつ高齢者への看護の実際（事例を用いて）（認知症看護の視聴覚教材学習）	⑤ ⑥	熊田 二村	演習	認知症の症状についてまとめる30分	事例の認知症高齢者看護の学びをまとめ提出する30分
	定期試験					
評価基準・評価方法						
定期試験（70％）、課題レポート（30％）						
使用教科書						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 / 北川公子ほか. --第9版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03186-8						
参考図書						
・根拠と事故防止からみた老年看護技術（医学書院）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	事前学習や課題は講義に反映させる。課題は、講義終了後返却し各自で振り返る。					
備考	質問等については、講義終了時または次回の講義時にフィードバックします。					

授業科目名		担当教員				
高齢者看護活動論Ⅱ（発展）		熊田 ますみ・二村 美津子（代表教員 熊田 ますみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(45時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師） 二村美津子（看護師）				
授 業 概 要						
高齢者の特徴を踏まえ、健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。事例を通して対象を理解するためのアセスメント方法、看護問題の抽出、それに応じた看護計画の立案方法を学ぶ。講義では、グループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。						
学 修 の 到 達 目 標						
①検査に伴うインフォームドコンセントと検査時の看護について説明できる。 ②高齢者の薬物療法時の注意点と服薬管理に向けた支援方法が説明できる。 ③手術を受ける高齢者の特徴がわかり術前・術後の支援方法が説明できる。 ④生活・療養の場における看護の方法が説明できる。 ⑤エンドオブライフケアの基本的な考え方を説明できる。 ⑥老年期に特有な疾患をもつ患者の事例を用い看護の展開が説明できる。 ⑦高齢者に特有なリスクが分かり対処方法が説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護過程の考え方（ICFモデル・生活機能アセスメントとは）	⑥	熊田	講義	ICFモデルと高齢者の看護過程の考え方についてまとめる20分	アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折の病態生理・看護についてまとめる40分
2	検査・治療を受ける高齢者への看護	①	熊田	講義	高齢者の疾患の特徴をまとめる20分	検査・入院が高齢者に及ぼす要因と看護についてまとめる30分
3	薬物療法と看護	②	熊田	講義	薬物療法についてまとめる20分	加齢に伴う薬物動態の変化と薬物療法についてまとめる40分
4	手術療法と看護	③	熊田	講義	手術療法を受ける高齢者の特徴についてまとめる20分	術後合併症の予防ケアの看護についてまとめる40分
5	生活・療養の場における看護	④	二村	講義	介護保険施設の機能についてまとめる20分	介護保険施設の看護師の役割をまとめる40分
6	終末期における看護①	⑤	二村	講義	高齢者のスピリチュアリティについてまとめる20分	エンドオブライフケアの基本的な考え方をまとめる40分
7	終末期における看護②（事例をもとに「患者・家族の意思決定支援としての看護」についてグループワーク）	⑤	二村 熊田	演習	事例の課題をまとめる20分	課題レポートを作成し提出す40分
8	終末期における看護③（事例をもとに「患者・家族の意思決定支援としての看護」についてグループワーク・発表）	⑥	二村 熊田	演習	事例の課題をまとめる20分	課題レポートを作成し提出す40分
9	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	二村 熊田	演習	事例の常在条件・病理的状态をアセスメントする40分	グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから（常在条件・病理的状态）のアセスメントを追加する20分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	二村熊田	演習	事例の生活機能の状態（活動・休息）をアセスメントする40分	グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから（活動・休息）のアセスメントを追加する20分
11	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	二村熊田	演習	事例の生活機能の状態（食事・排泄）をアセスメントする40分	グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから（食事・排泄）のアセスメントを追加する20分
12	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	二村熊田	演習	事例の生活機能の状態（身じたく・コミュニケーション）をアセスメントする40分	グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから（身じたく・コミュニケーション）のアセスメントを追加する20分
13	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	二村熊田	演習	関連図の作成40分	グループワーク・教員による補足講義の学びから関連図を見直す20分
14	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑦	二村熊田	講義	看護問題の抽出看護計画の作成40分	事例展開の追加・修正をする。看護過程を全て提出する20分
15	高齢者のリスクマネジメント（高齢者と医療安全、高齢者と救命救急・災害）	⑦	熊田	講義	事故・災害等における高齢者の脆弱性をまとめる20分	緊急時・災害時の看護師の対応をまとめる40分
	定期試験					
評価基準・評価方法						
定期試験（50％）、課題レポート（50％）						
使用教科書						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 / 北川公子ほか. --第9版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03186-8						
参考図書						
・生活機能からみた老年看護過程（医学書院） ・症状別看護ケア関連図（中央法規） ・疾患別看護ケア関連図（中央法規）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	事例展開の課題は、講義時の初めに学習内容を確認します。その後グループワークを進めていきます。講義終了時、重要ポイントをフィードバックします。					
備考	・指定された課題は提出日を守って必ず学習する。 ・グループワークには、積極的に参加すること。講義進行によって、担当者・講義内容を変更することがあります。					

授業科目名		担当教員				
高齢者看護学実習Ⅰ（基礎）		熊田 ますみ・二村 美津子・他（代表教員 熊田 ますみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位(90時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師） 二村美津子（看護師） 他				
授 業 概 要						
老人施設等で生活している高齢者を理解し、QOL向上の看護について、科学的かつ論理的な看護を実践するための基礎的能力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①施設で療養する高齢者の生活環境を説明できる。 ②対象の加齢による変化とADL能力を説明できる。 ③対象のQOL向上に必要な日常生活の援助方法を説明できる。 ④介護保険施設における看護のあり方と多職種連携および支援体制を説明できる。 ⑤高齢者を一人の個人として捉え、尊重した態度で接することができる。 ⑥看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	介護老人保健施設 岐阜リハビリテーションホーム、 介護老人保健施設 寺田ガーデン、					
	特別養護老人ホーム やすらぎの里川部苑、特別養護老人ホーム 黒野あそか苑、					
	特別養護老人ホーム ナーシングケア寺田					
	II. 実習方法					
	1. 学生80名を1グループ4～6名で編成し、成人看護学実習、小児看護学実習、母性					
	看護学実習とともにローテーションで行う。いずれかの実習施設で2週間実習を行う。					
	2. 実習についてのオリエンテーション（施設等の概要、諸注意、事前学習等）を十分に行う。					
	3. 学生は対象者1名を受け持ち、学生は利用者ととともに毎日の日課に参加しながら、					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	利用者への関わりを学び実践する。					
	4.施設で生活する高齢者の特徴や日常生活上の問題、あるいは高齢者の生き甲斐や					
	活動の場について理解を深める。老年期にある対象のこれまで生きてきた生活史・					
	価値観を理解し、対象を尊重した態度での接し方を身につける。施設における保健					
	医療福祉チームの一員としての役割と連携、社会資源活用方法について学習する。					
	5.学生は、適時カンファレンスを実施する。教員、実習指導者とともに対象の理解、関わり方について検討する。					
	6.実習終了時、学生は教員、実習指導者とともに実習状況の反省会を、実習場所で行う。					
評価基準・評価方法						
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価をする。						
使用教科書						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 / 北川公子ほか. --第9版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03186-8						
参考図書						
・根拠と事故防止からみた老年看護技術 (医学書院) ・生活機能からみた老年看護過程 (医学書院)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	実習記録は添削し指導する。					
備考	履修前提条件：高齢者看護活動論Ⅱを履修中であること。 【看護の原理と基礎】全科目、高齢者看護学概論、高齢者看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。					

授業科目名		担当教員				
高齢者看護学実習Ⅱ（発展）		熊田 ますみ・二村 美津子・他（代表教員 熊田 ますみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	2単位(90時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師） 二村美津子（看護師）				
授 業 概 要						
健康障害をもつ高齢者の個別性を理解し、QOL向上に向けた看護について、科学的かつ論理的な看護を実践するための基礎的能力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①対象の生活史を把握し入院生活や機能障害が身体的・精神的・社会的機能に影響を及ぼしていることを説明できる。 ②老年期の健康上の問題を把握し、QOL向上を目指した看護の必要性を説明できる。 ③対象個々の老年期の特徴、健康上の問題に応じQOL向上を目指した援助を実施する。 ④対象の退院を支える多職種連携を説明できる。 ⑤看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	平野総合病院、揖斐厚生病院、 岐阜清流病院					
	II. 実習方法					
	1. 学生80名を1グループ4～6名で編成し、成人看護学実習、精神看護学実習、在宅看護					
	論実習とともにローテーションで行う。					
	2. 実習前オリエンテーション行う。					
	3. 事前学習は、基本的看護技術の練習と、実習病棟に即した 事前課題を行う。					
	4. 平野総合病院、揖斐厚生病院、岐阜清流病院の病棟のいずれか一箇所で2週間実習を行う。					
	5. 原則として一人の患者を受け持ち、看護の実践を行う。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	6. 実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。					
	7. 病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。					
	8. 第2週の木曜日は、実習施設で教員・臨床指導者とともに反省会を行う。					
	9. 学生は、第2週の金曜日に学内でグループ討議、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や学びを共有する。					
評価基準・評価方法						
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。						
使用教科書						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 / 北川公子他. --第9版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03186-8						
参考図書						
・根拠と事故防止からみた老年看護技術 (医学書院) ・生活機能からみた老年看護過程 (医学書院) ・症状別看護ケア関連図 (中央法規) ・疾患別看護ケア関連図 (中央法規)						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	実習記録は添削し指導する。					
備考	履修前提条件：高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅰの単位を修得済みであること。					

授業科目名		担当教員				
小児看護学概論		松野 ゆかり				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		松野ゆかり（看護師）				
授 業 概 要						
現在の子どもと家族の状況や倫理的視点から、小児看護の役割と課題について学び、小児期にある対象をとらえるための小児各期の身体的特徴、機能的発達、情緒社会性の発達を学ぶ。子どもが生活する家庭を中心に、学校、地域、社会等、小児が成長発達していくために重要な役割を担う環境との関りを学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①子どもと家族の状況や倫理的視点から小児看護の役割について説明できる。 ②看護の対象となる小児各期の特徴と小児看護における家族の位置づけについて説明できる。 ③子どもを取り巻く社会環境と法律・政策について自ら追及しその内容について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	小児看護の特徴と理念 小児看護における倫理	子どもの権利 ①			*「小児看護の特徴と理念」p4～p28 読んでおく。分からない言葉や興味のある言葉について調べる（講義内で確認）。（120分）	*子どもに関する話題 最近の子どもに関するニュース等の記事から自分の考えを書く。使われている用語についてわからない言葉は調べる（最低ひとつ）A4レポート1枚以上 *事後課題問題に取り組む（120分）
2	小児の成長発達 乳児の特徴と看護（1） 発達 社会性 認知	身体発育 運動能力 ②			発達段階ごと観察課題「乳児の観察」 ・実際と考察を記録し提出確認	*映像教材「乳児」視聴 *事後課題問題に取り組む *成長発達表記入 乳児期（120分）
3	乳児の特徴と看護（2）	栄養と離乳 ② ③			映像教材視聴（乳児）（120分）	*事後課題問題に取り組む *成長発達表記入 乳児期の栄養について（120分）
4	幼児の特徴と看護（1） 立	基本的生活習慣の確立 ② ③			発達段階ごと観察課題「幼児の観察」 ・実際と考察を記録し提出確認（120分）	*映像教材「幼児」「日常生活動作の習得と自立」視聴 *事後課題問題に取り組む *成長発達表記入 幼児期（120分）
5	学童の特徴、養育および看護 健康問題	運動、社会性、 ② ③			・学童期の健康問題についてどのようなものがあるか。 最近の話題や自分自身の振り返りから出してみよう。（120分）	*映像教材「学童期」前期後期視聴 *事後課題問題に取り組む（120分）
6	思春期・青年期の特徴、養育および看護 健康問題	第二次性徴、アイデンティティ、親からの自立、 ② ③			・思春期の健康問題についてどのようなものがあるか。 最近の話題や自分自身の振り返りから出してみよう。（120分）	*事後課題問題に取り組む（120分）
7	家族の特徴とアセスメント					*事後課題問題に取り組む（120分）
8	小児と家族を取り巻く社会(1) 児童福祉 母子保健 予防接種 学校保健 ・特別支援学校	⑤			自分の住んでいる市町村の児童福祉・母子保健について調べる。（120分）	*事後課題問題に取り組む *課題「私の子ども観」（120分）
9	試験					

評価基準・評価方法	
課題レポート（20％）、最終筆記試験（80％）	
使用教科書	
系統看護学講座 小児看護学（1）小児看護学概論／小児臨床看護総論 / 奈良間美保. --第14版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03860-7	
参考図書	
・国民衛生の動向 ・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護、メディカ出版	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	事前学習及び課題は講義内容に反映させる。小テストを実施することで知識の定着を図る。小テストは時間内に解説する。
備考	授業は遅刻欠席のないように努力する。開始時の双方向システムによる出席と振り返りカードによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。質問は振り返りカードまたは直接声をかけてください。カードに対する回答は次回の講義時にします。

授業科目名		担当教員				
小児看護活動論Ⅰ（基礎）		松野 ゆかり・岩瀬 桃子・近藤 富雄・遠渡 絹代・岡本 知美・白木 大輔・中川 みのり（代表教員 松野 ゆかり）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位 (90時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		松野ゆかり（看護師） 岩瀬桃子（看護師） 近藤富雄（医師） 遠渡絹代（専門看護師） 岡本知美（認定看護師） 白木大輔（認定看護師） 中川みのり（看護師）				
授 業 概 要						
小児特有疾患の病態・治療について基礎的知識を学習したうえで、小児各期の発達段階や状況・疾病経過に応じた具体的援助方法を学習する。健康を障害された小児及び家族が持つ健康問題について学習する。さらに疾病予防といった小児保健の諸問題にも触れながら、小児看護の役割を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①病気・障害による子どもと家族への影響を理解し必要な支援について説明できる。 ②様々な状況における子どもと家族を理解し、必要な援助について説明できる。 ③小児に発症しうる疾患の発生機序、症状など疾患概念について説明できる。 ④疾患について学び、アセスメントの視点がわかり、根拠をもった看護について説明できる。 ⑤障害のある子どもと家族について学習し、必要な支援について説明できる。 ⑥虐待について知り、事故との見極めの判断ができる。虐待を受けている、又は可能性のある子どもと家族の支援について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	病気・障害を持つ小児と家族の看護 病気や障害が子どもと家族に与える影響	①	松野	講義		*小テストで確認 各発達段階の子どもに現れやすい反応と必要な看護について (120分)
2	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護 外来における子どもと家族への看護	②	松野	講義	認知発達段階について復習 講義内で確認 (60分)	*小テストで確認 (60分)
3	小児の在宅療養者への看護	②	中川	講義	教科書 1. p 229～p 239を読み内容を講義内で確認 (60分)	*小テストで確認 (60分)
4	小児における疾病の経過と看護（1）慢性期	②	岩瀬	講義	小児慢性特定疾患の子どもに関する新聞記事、手記またはブログを読んで、内容と自分の感想をレポート用紙1枚にまとめる。 (60分)	講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる (60分)
5	染色体異常・先天異常と看護、新生児の看護	③ ④	岡本	講義	教科書2. 該当する内容を読み講義内で確認 (60分)	*小テストで確認 各疾患のまとめ (60分)
6	免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ疾患 (気管支喘息、食物アレルギー)	③ ④	近藤	講義	教科書2. 該当する内容を読み講義内で確認 (60分)	*小テストで確認 各疾患のまとめ (60分)
7	代謝性疾患と看護、内分泌疾患と看護 (1型糖尿病)	③ ④	岩瀬	講義	正常な代謝機能と内分泌の機能について、解剖生理の面から学習する。講義内で確認 (60分)	講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる (60分)
8	感染症（ウイルス感染症 細菌感染症）	③ ④	近藤	講義	教科書2. 該当する内容を読み講義内で確認 (60分)	*小テストで確認 各疾患のまとめ (60分)
9	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 (ネフローゼ症候群)	③ ④	近藤	講義	正常な腎・泌尿器の解剖生理について学習する。講義内で確認 (60分)	講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる (60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習 慢性疾患患児の指導（学童）	① ② ④	松野 岩瀬	講義	事例について指導計画提出 発表準備 (60分)	演習後レポート (30分)
11	血液・造血器疾患と看護、悪性新生物と看護 (血小板減少性・血管性紫斑病)	③ ④	岩瀬	講義	正常な血液、造血器の解剖生理について学習する。講義内で確認 (60分)	講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる (60分)
12	小児における疾病の経過と看護（2）終末期	②	岩瀬	講義	こどもの終末期に関する新聞記事、手記、またはブログを読んで、内容と感想をレポート用紙1枚にまとめる。 (60分)	講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる (60分)
13	急性期にある子どもと家族への看護 子どもの手術の特徴、計画・緊急手術、術前術後の看護	③ ④	松野	講義	慢性期と急性期の看護の違いについて学習 講義内で確認 (60分)	*小テストで確認 *周手術期の看護について、発達段階別の観察ポイントについてまとめる (60分)
14	循環器疾患と看護（先天性心疾患、川崎病）	③ ④	松野	講義	正常な循環器の解剖生理について学習。講義内で発問 (60分)	*小テストで確認 各疾患のまとめ (60分)
15	消化器疾患と看護（口唇口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸重積症、臍・臍帯・外鼠径ヘルニア、胆道閉鎖症、ロタウィルス）	③ ④	松野	講義	正常な消化器の解剖生理について学習。講義内で発問 (60分)	*小テストで確認 各疾患のまとめ (60分)
16	呼吸器疾患（肺炎、気管支炎）	③ ④	近藤	講義	教科書2. 該当する内容を読み講義内で確認（60分）	*小テストで確認 各疾患のまとめ (60分)
17	運動器疾患と看護（先天性股関節脱臼、骨折、先天性内反足、先天性筋性斜頸）	③ ④	松野	講義	正常な運動器の解剖生理について学習。講義内で確認 (60分)	*小テストで確認 各疾患のまとめ (60分)
18	病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習 手術オリエンテーション（幼児）	① ② ④	松野 岩瀬	講義	事例についてオリエンテーション計画 発表準備 (60分)	演習後レポート (30分)
19	障害のある子どもと家族の看護（障害受容、重症心身障害児）	⑤	遠渡	講義	教科書 p 480～492を読み疑問を一つ調べる（60分）	*小テストで確認 重症心身障害児とは (60分)
20	子どもの虐待と看護	⑥	遠渡	講義	教科書 p 494～510を読み疑問を一つ調べる（60分）	*小テストで確認 虐待の定義、種類、統計、看護 (60分)
21	神経疾患と看護（てんかん、熱性けいれん、二分脊椎、脳性麻痺）	③ ④	松野 岩瀬	講義	原始反射、正常な神経系の解剖生理について学習。講義内で確認（60分）	*小テストで確認 各疾患のまとめ (60分)
22	事故・外傷と看護	① ② ③	白木	講義	該当内容の統計について調べる 講義内で確認（60分）	*小テストで確認 各疾患のまとめ (60分)
23	病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習 家族が示す反応に対する看護	① ② ④	松野 岩瀬	講義 演習	事例の看護について考え、発表準備 (60分)	演習後レポート (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
課題・レポート（30％）、最終筆記試験（70％）						
使用教科書						
系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2020年, ISBN978-4-260-03860-7 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2020年, ISBN978-4-260-03866-9						
参考図書						
・中野 綾美：小児看護学 小児看護技術、メディカ出版 ・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護、メディカ出版						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	事前学習及び課題は講義内容に反映させる。小テストを実施することで知識の定着を図る。小テストは時間内に解説する。					
備考	開始時の双方向システムによる出席と振り返りカードによる出席確認を行う。 欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。 質問は振り返りカードに記入、または直接声をかけてください。カードに対する回答は次回の講義時にします。					

授業科目名		担当教員				
小児看護活動論Ⅱ（発展）		松野 ゆかり・岩瀬 桃子（代表教員 松野 ゆかり）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(45時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		松野ゆかり（看護師） 岩瀬桃子（看護師）				
授 業 概 要						
事例に沿って、小児特有の代表的な症状のメカニズム、経過、症状緩和技術を学ぶ。また、子どもが検査や処置を受ける際の子どもと家族の影響を最小限にするための知識、小児看護技術を学び、具体的な援助方法を理解する。事例を通して対象を理解するためのアセスメント方法、看護問題の抽出を行い、小児とその家族の全体像を観る視点を修得する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①事例を通して、子どもの状態を適確にアセスメントする視点と必要な看護を結びつけることができる。 ②事例を通して、検査・処置に関する基礎的知識を理解し、小児看護技術を身につけ、得られた結果についてアセスメントすることができる。 ③事例を用いて看護展開を行い、グループワークにより不足している視点を取り入れることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	症状を示す小児の看護（１） 発熱 脱水 呼吸困難	① ②	松野 岩瀬	講義 演習	事例について調べる 症状出現のアセスメント 講義内で確認 (60分)	
2	症状を示す小児の看護（１） 嘔吐 下痢 発熱 脱水	① ②	松野 岩瀬	講義 演習		演習後レポート 提出 (60分)
3	症状を示す小児の看護（１） 検査・処置 身体測定 バイタルサイン 臀部浴 持続点滴 採血	① ②	松野 岩瀬	講義 演習	援助計画 講義内で確認 (60分)	
4	症状を示す小児の看護（１） 検査、処置	① ②	松野 岩瀬	講義 演習		演習後レポート提出 (60分)
5	症状を示す小児の看護（２） 発熱 呼吸困難 痙攣	① ②	松野 岩瀬	講義 演習	事例について調べる 症状出現のアセスメント 講義内で確認（60分）	
6	症状を示す小児の看護（２） 発熱 呼吸困難 痙攣	① ②	松野 岩瀬	講義 演習		演習後レポート 提出 (60分)
7	症状を示す小児の看護（２） 検査・処置 与薬、検体採取、吸入吸引、清潔 救命処置	① ②	松野 岩瀬	講義 演習	援助計画 講義内で確認 (60分)	
8	症状を示す小児の看護（２） 検査・処置	① ②	松野 岩瀬	講義 演習		演習後レポート 提出 (60分)
9	症状を示す小児の看護（３） アセスメント技術 (演習)	① ②	松野 岩瀬	講義 演習	援助計画提出 バイタルサイン、身体計測について (30分)	演習後レポート 提出 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	症状を示す小児の看護 (演習) アセスメント技術	① ②	松野 岩瀬	講義 演習		演習後レポート 提出 (60分)
11	看護過程	③	松野 岩瀬	演習	対象事例の疾患について学習 講義内で確認 (30分)	情報整理提出 (30分)
12	看護過程	③	松野 岩瀬	演習	情報整理、アセスメント提出 (30分)	情報、アセスメント見直し、関連図提出 (30分)
13	看護過程	③	松野 岩瀬	演習	情報整理、アセスメント提出 (30分)	関連図見直し、提出 (30分)
14	看護過程	③	松野 岩瀬	演習	事例について再学習 グループワーク活用 (30分)	看護過程見直し (30分)
15	看護過程	③	松野 岩瀬	演習	他の関連図について 疑問や意見をグループ ワーク活用 (30分)	看護過程見直し (最終提出) (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
認知領域 (知識) : 筆記試験 (60%) 精神運動・情意領域 (技術・態度) : レポート課題 (20%) 看護過程の演習内容 (20%)						
使用教科書						
系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 / 奈良間美保. --第14版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03860-9 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 / 奈良間美保. --第14版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03860-7						
参考図書						
・中野 綾美：小児看護学 小児看護技術、メディカ出版 ・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護、メディカ出版						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	事前学習及び課題は講義内容に反映させる。					
備考	開始時の双方向システムによる出席と振り返りカードによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。 質問は振り返りカードに記入または直接声をかけてください。カードに対する回答は次回の講義時にします。 予定は変更する場合がありますが前もってお知らせします。					

授業科目名		担当教員				
小児看護学実習		松野 ゆかり・岩瀬 桃子・他 (代表教員 松野 ゆかり)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位 (90時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		松野ゆかり(看護師) 岩瀬桃子(看護師) 他				
授 業 概 要						
子どもの成長発達段階および子どもを取り巻く環境を理解し、子どもに応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
保育施設：①子どもの成長発達の特徴について記述できる。 ③基本的な生活習慣の獲得と自立への援助について説明できる。 ⑤子どもに起こりやすい事故を説明できる。 ⑦子どもの健康状態の観察の必要性について説明できる。 ⑨時間や決まりを守り、看護学生として責任ある行動をとることができる。 ②発達段階に応じたコミュニケーションができる。 ④子どもにとっての遊びの重要性について記述できる。 ⑥事故防止及び感染予防の援助ができる。 ⑧子どもに関わる看護職の役割について記述できる。 ⑩時、場、人を考慮した言葉使いと態度をとることができる。 病院・施設：①児の成長発達段階について情報分析できる。 ③健康を障害された子どもの病状が説明できる。 ⑤今後の成り行きについて説明できる。 ⑦子どもと家族に応じた看護の視点を挙げることができる。 ⑨子どもに発症しやすい感染症について説明できる。 ⑪子どもと家族を支援する専門職とその役割について説明できる。 ⑬病、傷、人を考慮した言葉使いと態度をとることができる。 ⑮カンファレンスに積極的に参加し、メンバーの意見を聞き入れたり自分の意見を述べたりすることができる。 ②症状、入院や治療が児や家族にどのように影響しているか考えることができる。 ④健康を障害された原因について説明できる。 ⑥子どもと家族に必要な援助が説明できる。 ⑧子どもの安全対策について説明できる。 ⑩健康を障害された子どもと家族に対してどのようなサービスがあるか説明できる。 ⑫時間や決まりを守り、看護学生として責任ある行動をとることができる。(提出物の扱いを含む) ⑬探求心を持って必要な学習ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	①保育施設、児童養護施設	① ～ ⑩			<保育施設共通課題> *乳幼児の成長発達 ・乳幼児 形態的特徴・運動機能・知的機能・コミュニケーション機能・情緒社会的機能・栄養 養育および看護(日常生活、遊び、事故防止、育児支援) ・成長発達評価	実習記録に準じて毎日記録する。
	②羽島市民病院、希望が丘子ども医療福祉センター、岐阜市民病院、福富医院、長良医療センター	① ～ ⑮			<病院施設(共通)> ・学童期・思春期の特徴と看護 ・病児・障害を持つ子どもと家族の看護 ・小児の入院および外来における看護 <その他> ・上記以外、小児看護学実習に必要な考える内容、または興味のある内容についての学習をノート1ページ以上追加する。	実習記録に準じて毎日記録する。
	II. 実習方法					
	1.実習期間2週間のうち、1週間は保育施設実習、1週間は病院及び施設実習とする。					
	2.小児実習の特徴的内容の事前学習を行う。					
	3.保育施設では、子どもとの関りを通して、成長発達と養護について学び、看護への視点を学ぶ。実習施設ごとの学びを学内で共有する。					
	病院および施設では、原則患児一人受け持ち、対象にあった看護を理解する。					
	4.実習病院または施設にてオリエンテーションを受け、療養中の小児の特徴や環境を理解する。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	5.カンファレンスで、対象児の全体像を把握する為に自分の疑問や意見を述べる。また、最終日には、小児看護学実習の学びと課題を明らかにする。					
評価基準・評価方法						
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。						
使用教科書						
系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03860-7 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03866-9						
参考図書						
・石黒彩子：発達段階からみた小児看護過程と病態関連図、医学書院 ・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院 ・中野 綾美：小児看護学 小児看護技術 / メディカ出版 ・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護 / メディカ出版						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	実習記録は添削し指導する。					
備考	履修前提条件：小児看護概論、小児看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。 感染症(水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎)の抗体価が陽性でない場合は予防接種を受けていること。 インフルエンザについても該当期に予防接種を受けていること。 保育施設実習前に検便を実施し、細菌検査結果陰性である事。					

授業科目名		担当教員				
母性看護学概論		皮野 さよみ				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(15時間)		講義・演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマ・ポリシー(2)(3)看護ディプロマ・ポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野 さよみ(助産師・看護師)				
授 業 概 要						
母性看護の基盤となる概念・法律と制度・母性看護の対象を取り巻く社会の変遷を踏まえ、女性のライフサイクル各期における特徴と看護・今後の課題を学び母性各期の対象に応じた看護を展開するための基礎を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①母性看護の基盤となる概念・理論を説明できる。 ②母子保健に関する法律・母子保健行政と母子保健の動向を説明できる。 ③生殖に関する生理とセクシュアリティについて説明できる。 ④女性のライフサイクル各期における心身及び社会的特徴と健康問題及び看護を説明できる。 ⑤母子保健における課題とヘルスケアを説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	・母性の概念：母性とは、父性とは、母性の身体的・心理的・社会的特徴 ・母性看護に関する理論：母子相互作用，愛着理論，母子関係と家族の発達，ウェルネス看護論（事前学習発表）	①	皮野	講義	「母性とは」・「母子相互作用」について、まとめておく 120分	母性の身体的・心理的・社会的特徴に関する国家試験問題の解説学習 120分
2	・ジェンダー，セクシュアリティ，リプロダクティブヘルス／ライツ，ヘルスプロモーション（セックス，ジェンダー，セクシュアリティに関するGW・発表） ・母性看護の役割，母性看護における倫理，母性看護における安全・事故防止	① ② ③	皮野	講義 演習	「セックス・ジェンダー・セクシュアリティ」に関する自己の考えをレポートして授業に参加する 120分	「セックス・ジェンダー・セクシュアリティとは」のレポート作成・提出 120分
3	母子保健の歴史的変遷・母子保健の動向	②	皮野	講義 演習	主な母子保健統計についてまとめる 120分	「母子保健の動向」に関する国家試験問題解説学習 120分
4	母子保健に関する法律	②	皮野	講義 演習	「母子保健法」・「労働基準法（母子関係）」のまとめ作成 120分	「母子保健に関する法律」に関する国家試験問題解説学習 120分
5	母子保健に関する組織と施策，周産期医療ネットワーク，母性看護におけるチーム医療，今後の課題	②	皮野	講義	周産期医療ネットワークについてまとめる 120分	母子保健に関する組織と施策，周産期医療ネットワーク，母性看護におけるチーム医療に関する国家試験解説学習 120分
6	・女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ・女性のライフサイクル各期における心身及び社会的特徴・健康問題と看護	④	皮野	講義	「性ホルモンの働き」についてまとめ 120分	女性のライフサイクル各期における心身及び社会的特徴・健康問題に関する国家試験問題解説学習 120分
7	・リプロダクティブヘルスケア：家族計画，人工妊娠中絶と看護，喫煙女性の健康と看護，性暴力を受けた女性に対する看護，児童虐待と看護	⑤	皮野	講義 演習	「人工妊娠中絶・性暴力」に関する自己の意見をまとめる 120分	「家族計画・人工妊娠中絶・DV・児童虐待」に関する国家試験解説学習 120分
8	・リプロダクティブヘルスケア：性感染症と看護，国際化社会と看護，災害時の看護，遺伝相談と看護，不妊治療と看護	⑤	皮野	講義 演習	性感染症と看護，国際化社会と看護，災害時の看護のまとめ作成 120分	遺伝相談と看護，不妊治療と看護のまとめ作成 120分
9	筆記試験		皮野			

評価基準・評価方法	
レポート（40％），筆記試験（60％）	
使用教科書	
母性看護学概論（母性看護学Ⅰ） / 森 恵美ほか. --第13版, , --医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-02188-3	
参考図書	
厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2018/2019年 その他講義の中で提示します。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	事前学習課題は、授業中のグループワーク等で発表する。事後学習レポートは必要時授業中等に解説し、評価を行う。
備考	講義順及び内容・評価基準がレポート課題の追加等により、変更になる場合があります。

授業科目名		担当教員				
母性看護活動論Ⅰ（基礎）		皮野 さよみ・清水 ゆかり・平野 聡子・山内 久美子（代表教員 皮野 さよみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位(90時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野さよみ（助産師・看護師）、清水ゆかり（助産師・看護師）、平野 聡子（医師）、山内 久美子（助産師・看護師）				
授 業 概 要						
女性のライフサイクルにおける妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある人と家族の健康を支えるために必要な看護を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①妊娠期の看護について説明できる。 ②分娩期の看護について説明できる。 ③産褥期の看護について説明できる。 ④新生児期の看護について説明できる。 ⑤母子関係・親子関係・家族関係をはぐくむための支援を説明できる。 ⑥正常から逸脱した対象の看護を説明できる。 ⑦正常経過をたどる母子の看護過程展開を通して科学的な思考ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	妊娠期の看護：妊娠の定義，妊娠の成立，妊娠の生理	①	皮野	講義		妊娠のプロセスの課題作成・提出 60分
2	妊娠期の看護：妊娠各期の特徴と変化・妊婦の心理・社会的変化，妊娠各期の看護	①	皮野	講義		妊娠カレンダー・胎児の生理の課題作成・提出 60分
3	妊娠期の看護：出産準備教育，妊娠期のマイナートラブル	①	皮野	講義		妊娠期のマイナートラブルと看護の課題作成・提出 60分
4	分娩期の看護：分娩期の定義，分娩の経過，産婦の特徴	②	清水	講義		妊娠期・分娩期の国家試験問題解答・解説提出60分
5	分娩期の看護：分娩各期の母児のアセスメント	②	清水	講義		分娩期の国家試験問題解答・解説，提出 60分
6	分娩期の看護：分娩各期の母児のアセスメントに基づいた看護計画	②	清水	講義		分娩期の国家試験問題解答・解説，提出 60分
7	分娩期の看護	②	山内	講義		分娩期の看護に関する前年度国家試験問題の解説修正・提出 60分
8	産褥期の看護：産褥期の定義，褥婦と家族の特徴	③ ⑤	清水	講義	褥婦と家族の特徴のまとめ 30分	褥婦と家族の特徴のまとめ修正・提出 30分
9	産褥期の看護：褥婦と家族のアセスメント	③ ⑤	清水	講義	褥婦と家族のアセスメントの要点作成 30分	褥婦と家族のアセスメントの要点修正・提出 30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	産褥期の看護：褥婦の看護：入院中・退院後の育児を伴う生活にむけての看護	③ ⑤	清水	講義	褥婦の看護の要点の作成 30分	褥婦の看護の要点の作成 30分
11	産褥期の看護：褥婦の看護	③ ⑤	清水	講義		産褥期の国家試験問題解説学習・提出 60分
12	新生児の看護：新生児の定義，新生児の特徴	④ ⑤	皮野	講義	新生児の特徴のまとめ作成 30分	新生児の特徴のまとめ作成 30分
13	新生児の看護：新生児の観察と計測	④ ⑤	皮野	講義		新生児のバイタルサインの観察の要点作成・提出 60分
14	新生児の看護：新生児のアセスメント	④ ⑤	皮野	講義		新生児のアセスメント要点のまとめ提出 60分
15	新生児の看護：新生児の看護の評価	④ ⑤	皮野	講義		新生児の国家試験問題解説学習・提出 60分
16	妊娠期・分娩期の正常から逸脱した対象の特徴・検査・治療	⑥	平野	講義		妊娠期・分娩期の異常：国家試験問題解答・解説の作成・提出 60分
17	産褥期・新生児期の正常から逸脱した対象の特徴・検査・治療	⑥	平野	講義		産褥期・新生児期の異常：国家試験問題解答・解説の作成・提出 60分
18	妊娠期・分娩期の正常から逸脱した対象の看護	⑥	皮野	講義		妊娠期・分娩期の正常から逸脱した妊婦の看護：国家試験問題解説作成・提出 60分
19	産褥期・新生児期の正常から逸脱した対象の看護	⑥	清水	講義		産褥期・新生児期の正常から逸脱した対象の看護：国家試験問題解説作成・提出
20	ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程の概要	⑦	皮野	講義		ウェルネス看護診断と他の看護診断の違いに関する自己の意見のまとめ 60分
21	根拠に基づいた母性看護過程の展開の考え方・方法，事例紹介	⑦	皮野	講義		事例の重点内容の読み込み・内容確認 60分
22	褥婦と新生児の看護過程の展開 (妊娠期のアセスメント)	⑦	皮野 清水	演習	妊娠期の母児のアセスメント作成 30分	妊娠期の母児のアセスメント修正 30分
23	褥婦と新生児の看護過程の展開 (分娩期のアセスメント)	⑦	皮野 清水	演習	分娩期の母児のアセスメント作成 30分	分娩期の母児のアセスメント修正 30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥1日目）	⑦	皮野 清水	演習	産褥1日目の母児の アセスメント作成 30分	産褥1日目の母児の アセスメント修正・ 看護計画作成 30分
25	褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥2日目）	⑦	皮野 清水	演習	産褥2日目の母児の アセスメント作成 30分	産褥2日目の母児の アセスメント修正・ 看護計画作成 30分
26	褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥3日目）	⑦	皮野 清水	演習	産褥3日目の母児の アセスメント作成 30分	産褥3日目の母児の アセスメント修正・ 看護計画作成 30分
27	褥婦と新生児の看護過程の展開 （産褥1～3日目のまとめ）	⑦	皮野 清水	演習		産褥1～3日目の母児の アセスメント・看護 計画修正 60分
28	褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥4日目）	⑦	皮野 清水	演習	産褥4日目の母児の アセスメント作成 30分	産褥4日目の母児の アセスメント・看護 計画修正 30分
29	褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥5日目）	⑦	皮野 清水	演習	産褥5日目の母児の アセスメント作成 30分	産褥5日目の母児の アセスメント・看護 計画修正 30分
30	褥婦と新生児の看護過程の展開 （産褥4～5日目のまとめ）	⑦	皮野 清水	演習		産褥期の母児のアセ スメント・看護計画 等の看護過程全体記 録修正・提出 60分
	試験（筆記）		皮野 清水			
評価基準・評価方法						
レポート・国家試験解説課題（25%），看護過程記録（25%），筆記試験（50%）						
使用教科書						
母性看護学各論（母性看護学2） / 森恵美ほか. --第13版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-02179-1 根拠がわかる母性看護過程 / 中村幸代ほか. --第1版--南江堂, 2018年, ISBN978-4-524-25513-9						
参考図書						
・太田操編：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程，第3番，医歯薬出版，2017年，ISBN978-4-263-23687-1 ・医療情報科学研究所編：病気が見える（産科），第4版，メディックメディア，ISBN978-4-89632-713-7 ・平澤美恵子他：写真でわかる母性看護技術，インターメディカ，2008年，ISBN978-4-89996-187-1						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	事前課題の援助計画については、授業中の説明等を参照してください。事後学習のレポート・看護過程記録については評価し、必要により解説します。					
備考	質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。 講義順及び講義担当者が変更になる場合があります。さらに評価基準が変更になる場合があります。					

授業科目名		担当教員				
母性看護活動論Ⅱ（発展）		皮野 さよみ・清水 ゆかり・船戸 智子・鷺見 陽恵（代表教員 皮野 さよみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(45時間)	演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野さよみ（助産師・看護師）、清水ゆかり（助産師・看護師）、船戸智子（助産師・看護師）、鷺見陽恵（助産師・看護師）				
授 業 概 要						
母性看護の対象に応じた看護を実践するための観察・援助技術の習得について学習する。また、母性看護の対象の看護実践を行うための「科学的な思考」について異常経過をたどる褥婦と新生児の事例の展開を通して学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①母性看護の実践に必要な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術を習得する。 ②帝王切開を受けた褥婦と新生児の看護過程の展開をとらえて科学的な思考ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	妊婦の観察とアセスメント：レオポルド触診法，子宮底・腹囲測定	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	レオポルド触診法の援助計画作成 30分	レオポルド触診法の援助計画修正・提出 30分
2	妊婦・産婦の観察とアセスメント：胎児心音聴取，分娩監視装置（NST）の装着と観察	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	NSTの装着と観察（胎児心音聴含む）の援助計画作成 30分	NSTの装着と観察（胎児心音聴含む）の援助計画修正・提出 30分
3	産婦の観察とアセスメント：産痛緩和（呼吸法・圧迫法・マッサージ法・リラクセス法），児頭の回旋	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	産婦の観察とアセスメント：産痛緩和（呼吸法・圧迫法・マッサージ法・リラクセス法），児頭の回旋	
4	産婦の観察とアセスメント：胎盤計測	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	胎盤計測の援助計画作成 30分	胎盤計測の援助計画作成 30分
5	褥婦の観察とアセスメント：子宮復古・悪露の観察	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	褥婦の退行性変化の観察の援助計画作成 30分	褥婦の退行性変化の観察の援助計画修正・提出 30分
6	褥婦の観察とアセスメント：乳房・乳汁の性質・分泌量等の観察	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	褥婦の看護の動画視聴 60分	
7	褥婦の観察と看護：授乳時のポジショニング・ラッチオン	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	ポジショニング・ラッチオンの観察・援助計画作成 30分	ポジショニング・ラッチオンの観察・援助計画修正・提出 30分
8	新生児の観察とアセスメント：バイタルサイン観察，計測（身長・体重・児頭・胸部他）	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	新生児のバイタルサイン観察の援助計画作成 30分	新生児のバイタルサイン観察の援助計画修正・提出 30分
9	新生児の観察とアセスメント：生理的体重減少・生理的黄疸・便他の観察	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	新生児の観察の動画視聴 30分	メモノート修正 30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	新生児の観察とアセスメント：フィジカルアセスメント	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	新生児のフィジカルアセスメントの動画視聴 30分	メモノート修正 30分
11	新生児の育児技術：先天性代謝異常検査，聴覚検査，ビタミンK 2投与，光線療法時の看護	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	新生児の育児技術の動画視聴 30分	メモノート修正 30分
12	新生児の育児技術：①抱き方・寝かせ方，②おむつ交換・寝衣交換	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	①抱き方・寝かせ方，②おむつ交換・寝衣交換の援助計画作成 30分	①抱き方・寝かせ方，②おむつ交換・寝衣交換の援助計画作成 30分
13	新生児の育児技術：沐浴・ドライテクニック	①	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	沐浴の援助計画作成 30分	沐浴の援助計画修正 30分
14	母児の看護過程の展開（帝王切開を受けた褥婦と新生児のアセスメント）	②	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	帝王切開を受けた褥婦の（当日・1日目）のアセスメント作成・提出 30分	帝王切開を受けた褥婦の（当日・1日目）の援助計画作成・提出 30分
15	母児の看護過程の展開（帝王切開を受けた褥婦と新生児の看護計画）	②	皮野 清水 船戸 鷺見	演習	帝王切開を受けた新生児の（3～5日目）のアセスメント作成・提出 30分	帝王切開を受けた新生児の（3～5日目）の援助計画修正・提出 30分
評価基準・評価方法						
母性看護技術援助計画書（40%），メモノート（30 %），異常のある母児の看護過程レポート（20%），母性看護技術（沐浴）試験（10%）						
使用教科書						
母性看護学各論（母性看護学2） / 森 恵美ほか. --第13版--医学書院，2018年，ISBN978-4-260-02179-1						
参考図書						
・中村幸代ほか：根拠がわかる母性看護過程，第1版，南江堂，2018年，ISBN978-4-524-25513-9 ・平澤美恵子他：写真でわかる助産技術，インターメディア，2012年，ISBN978-4-89996-294-6 ・平澤美恵子他：写真でわかる母性看護技術，インターメディア，2008年，ISBN978-4-89996-187-1 ・島田信宏：胎児心拍モニタリング，改定第4版，東京医学社，2006年，ISBN978-4-88563-162-7						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	事前・事後課題については、授業（演習）開始時に説明等を行い、提出されたレポート・援助計画の評価を行い、必要時解説する。					
備考	質問等については、次の講義等に説明し、フィードバックします。講義順及び講義担当者が変更になる場合があります。さらに評価基準が変更になる場合があります。					

授業科目名		担当教員				
母性看護学実習		皮野 さよみ・清水 ゆかり・船戸 智子・鷺見 陽恵 (代表教員 皮野 さよみ)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位 (90時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		皮野さよみ(助産師・看護師)、清水ゆかり(助産師・看護師)、船戸智子(助産師・看護師)、鷺見陽恵(助産師・看護師)				
授 業 概 要						
母子及びその家族の健康を支えるために必要な看護を実践する基礎的能力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①妊婦・産婦・褥婦・新生児と家族の健康を支えるために必要な看護を説明し、一部実施できる。 ②生命の尊厳・母子と家族の人権・プライバシーに配慮した行動をとることができる。 ③母子と家族を支える多職種の連携・協働を理解し、看護チームの一員として必要な行動ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	1. 褥婦と新生児を受け持ち、退行性変化・進行性変化促進・母親役割適応過程及び児の胎外生活適応のアセスメント・看護計画の立案・看護計画に基づいて受け持ち褥婦の退行性変化・進行性変化を促進する看護を指導者と共に実施・評価すると共に・新生児の観察・環境調整・沐浴等の看護計画を立案し、指導者と共に実施・評価する。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥				
	2. 妊娠期から育児期の保健指導(母親学級・退院指導・沐浴指導、各種相談)の見学と見学記録における考察を行う。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥				
	3. NICUでは、長期・短期に医療依存度の高い子どもと家族に対する看護・治療に伴うストレスを軽減し、子どもの成長・発達を促進する環境づくりのための看護を見学し考察する。	④ ⑤ ⑥				
	4. 母子と家族に関わる医師・助産師・外来看護職員・地域の保健師・小児科など多職種の連携・協働の見学・説明を受ける看護の役割を考察する。	⑤				
	5. 実習全体をとおして生命の尊厳への認識を深めカンファレンスの発言・レポートに表現する。	⑥				
評価基準・評価方法						
「母性看護学実習評価表」に基づき評価する						
使用教科書						
母性看護学各論(母性看護学2) / 森恵美ほか.―第13版―医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-02179-1 根拠がわかる母性看護過程 / 中村幸代ほか.―第1版―南江堂, 2018年, ISBN978-4-524-25513-9						
参考図書						
・医療情報科学研究所編:病気が見える(産科), 第4版, メディックメディア, ISBN978-4-89632-713-7 ・平澤美恵子他:写真でわかる母性看護技術, インターメディカ, 2008年, ISBN978-4-89996-187-1 ・平澤美恵子他:写真でわかる助産技術, インターメディカ, 2012年, ISBN978-4-89996-294-6 ・島田信宏:胎児心拍モニタリング, 改定第4版, 東京医学社, 2006年, ISBN978-4-88563-162-7						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法		実習中及び学内日に説明・実施等の指導を行う。				

備考	履修前提条件 ・2年次前期までの専門基礎科目全て及び【看護の原理と基礎】全科目、母性看護学概論・母性看護活動論Ⅰの単位が修得済みであること。また、母性看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。 ・感染症の抗体検査済みで、抗体陰性の場合は予防接種を受けていること。
----	---

授業科目名		担当教員				
精神看護学概論		三品 弘司				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		三品弘司（看護師）				
授 業 概 要						
精神看護学概論では、対象の個別性を捉えられるように、各ライフステージにおける成長・発達課題の理解を深め、自我の防衛機能とストレスコーピングの考え方、また患者の自己対処能力について学習する。そして、より健康な社会生活を営むため、或いは精神の不健康状態からの回復を支えるための看護について、その意義、目的、方法等について学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①対象の個別性を捉えられるように、パーソナリティの発達過程と各ライフステージにおける成長・発達課題を理解し、自我の防衛機能とストレス・コーピングの考え方、患者の自己対処能力について説明できる。 ②対象を取り巻く環境として、精神保健の動向や現代のストレス社会の理解と現行の精神保健福祉法の目指す目的が説明できる。 ③精神障害を持つ対象への看護のアプローチに基本的な考え方を身に付けることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	精神的健康の定義 脳の構造と認知機能	① ②				精神的健康の定義を理解すること (120分)
2	精神力動と防衛機制	① ③			意識・前意識・無意識の違いを調べること 防衛機制について調べること (120分)	講義で扱った防衛機制について理解すること (120分) フロイトの心の構造論を理解すること
3	精神医療の変遷	① ②			教科書を参考に課題プリントの()を埋めてくること (120分)	精神医療の変遷について理解すること (120分)
4	精神保健と法律 精神保健法について	① ②			入院形態の違いを調べること (120分)	精神保健福祉法について理解すること (180分)
5	ライフサイクルにおける心の発達（フロイトの理論、マラーの理論、エリクソンの理論）	① ②			フロイトとエリクソンの発達理論を調べること (120分)	各理論を理解すること (120分)
6	危機的状況にある人の理解（ストレスと危機）	① ②			各発達段階の危機を調べること (120分)	発達危機について理解すること (120分)
7	精神障害の理解 治療的環境の理解	② ③			閉鎖病棟・解放病棟の特徴について調べること (60分)	治療的環境について理解すること (120分)
8	精神医療の現状と課題	② ③			教科書記載の統計等の資料を見ること (120分)	日本の精神医療について理解すること (120分)
	筆記試験					

評価基準・評価方法	
小テスト（20％）、筆記試験（80％）	
使用教科書	
新体系看護学全書 精神看護学 1 精神看護学概論・精神保健 / 岩崎弥生ほか. --第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4-8392-3363-1 新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生ほか. --第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4-8392-3364-8	
参考図書	
・武井麻子：精神看護学ノート 第2版, 医学書院, 2005年. ・舟島なをみ他：看護のための人間発達学 第5版, 医学書院, 2017年. ・末安民生他：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版, 医学書院, 2016年.	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらう。質問の内容は次回の授業で説明する。 ・提出したレポートや小テストは、授業時間内に講評のうえ、必要に応じて解説をする。 ・小テストを計2回実施する。（第1回：入院形態と精神保健福祉法第2回：防衛機制と発達理論（フロイト／エリクソン）） ・小テストの内容の詳細や期日、各講の予習・復習する教科書の該当ページは、第1講で詳細を説明する。
備考	出席確認は、「出席カード」にて行う。出席カードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。その他、授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。

授業科目名		担当教員				
精神看護活動論Ⅰ（基礎）		三品 弘司・白田 成之・森 敏幸（代表教員 三品 弘司）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位 (90時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		三品弘司（看護師） 白田成之（看護師）				
授 業 概 要						
精神看護活動論Ⅰでは、講義や演習を通し、精神疾患の理解と精神看護の基礎的技術を習得する。講義では、まず精神疾患あるいは状態ごとの症状の表れ方を理解し、問題解決に向けた具体的な援助方法について学習する。次いで、精神障害者と家族をとりまく環境を理解し、社会への適応、自立に向けた支援の方法について学習する。演習では、コミュニケーションの演習や精神科におけるリハビリテーション療法の演習を通し精神看護に必要な技術を学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①主な精神疾患とその治療および看護について説明できる。 ②精神看護における観察の意義および視点を説明できる。 ③精神障害をもちながらもその人らしく生きることについてリカバリーの視点から考えることができる。 ④看護師－患者関係の意義について説明できる。 ⑤精神障害者の退院支援および地域生活を支える精神保健医療福祉の実践について説明できる。 ⑥精神医療に携わる専門職の役割と多職種連携における看護師の役割について説明できる。 ⑦関わる場面の再構成を通して、そこで何が生じているのかを表現できる。（自己洞察の重要性が理解できる）						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	統合失調症の理解と看護（１）	① ②	白田	講義	教科書②p71-76を読み、統合失調症の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。（90分）	教科書②p270-289を読み、統合失調症患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（90分）
2	統合失調症の理解と看護（２）	① ②	白田	講義	なし	第1回の事前・事後学習や授業で教授した内容を国試過去問題を利用しながら復習すること。（90分）
3	気分障害の理解と看護	① ②	三品	講義	教科書②p76-87を読み、気分障害の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。（60分）	教科書②p289-300を読み、気分障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること（90分）
4	不安障害・強迫性障害・心的外傷の理解と看護	① ②	三品	講義	教科書②p87-103までを読み、不安障害、強迫性障害、心的外傷の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。（60分）	教科書②p324-329を読み、強迫性障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（90分）
5	解離性障害・身体症状症の理解と看護	① ②	三品	講義	教科書②p103-110を読み、解離性障害、身体症状症の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。（60分）	教科書②p318-329を読み、注意欠如・多動性障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（90分）
6	摂食障害・睡眠覚醒障害の理解と看護	① ②	三品	講義	教科書②p110-120を読み、摂食障害、睡眠覚醒障害の病因、症状、治療等を理解すること。（60分）	教科書②p329-333を読み、摂食障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（90分）
7	物質関連障害（薬物・アルコール）の理解と看護	① ②	三品	講義	教科書②p121-127を読み、物質関連障害の病因、症状、治療等を理解すること。（60分）	教科書②p300-306を読み、アルコール依存症患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（90分）
8	パーソナリティ障害・神経発達障害の理解と看護	① ②	三品	講義	教科書②p134-144を読み、パーソナリティ障害とてんかんの病因、症状、治療等を理解すること。（60分）	教科書②p312-317を読み、自閉症スペクトラム障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（90分）
9	精神障害をもつ人への治療（１）～薬物療法、電気けいれん療法～	① ②	白田	講義	教科書②p148-166を読み、薬物療法と電気けいれん療法について理解すること。（90分）	講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	精神障害をもつ人への治療（２）～リハビリテーション療法、精神療法～	① ②	白田	講義	教科書②p167-185を読み、リハビリテーション療法と精神療法について理解すること。（90分）	講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。（120分）
11	精神障害をもつ人のリカバリー（１）	③	白田	講義	教科書①p15-17、同②p10-12, 19-20, 167, 192を読み、リカバリーの理念や支援のあり方を整理する。（60分）	予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（90分）
12	精神障害をもつ人のリカバリー（２）	③	白田	講義	なし	予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（90分）
13	精神看護における患者－看護師関係	④	白田	講義	教科書②p190-202を読み、精神看護における患者－看護師の関係性を築くうえで必要なことを考える。（60分）	予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（90分）
14	精神障害をもつ人とのコミュニケーション	④	白田	講義	教科書②p202-211を読み、精神障害をもつ人とのコミュニケーションで大切なことについて考えてくる。（60分）	授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（90分）
15	精神医療における長期入院患者の退院支援	④ ⑤	白田	講義	教科書p381-391を読み、精神医療における長期入院の現状とその患者への支援のあり方を考える。（60分）	授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（90分）
16	精神障害をもつ人の地域における生活への支援	⑤	白田	講義	教科書②p352-381を読み、精神障害をもつ人の地域における生活への支援を理解する。（120分）	予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（120分）
17	リエゾン精神看護	⑥	白田	講義	教科書②p424-438を読み、リエゾン精神看護専門看護師の具体的な活動内容について理解する。（60分）	予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（90分）
18	プロセスレコードの書き方（１）	⑦	三品 白田	演習	教科書②p211-219を読み、プロセスレコードについて目を通す。（30分）	プロセスレコードの加筆修正する。（60分）
19	プロセスレコードの書き方（２）	⑦	三品 白田	演習	なし	プロセスレコードの加筆修正する。（60分）
20	当事者との交流会	③	白田 森	演習	教科書②p367-369「D.当事者の力量を活かす相互作用」を読み、ピアについて理解する。（30分）	ピア活動の目的と意義、地域でのピア活動の実際等、指定課題をレポートにまとめて提出する。（150分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
認知領域（知識）： 最終試験で評価する。（70%） 精神運動・情意領域（技術・態度）：「演習参加状況」「レポート」で評価（20%）、小テスト（10%）						
使用教科書						
新体系看護学全書 精神看護学 1 精神看護学概論・精神保健 / 岩崎弥生ほか. --第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4-8392-3363-1 新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生ほか. --第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4-8392-3364-8 精神医学ハンドブックー医学・保健・福祉の基礎知識 / 山下格. --第7版--日本評論社, 2010年, 978-4-5359-8333-5						
参考図書						

・上島国利：最新図解 やさしくわかる最新医学, ナツメ社, 2017年, 978-4816362682. ・末安民生他：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版, 医学書院, 2016年, 978-4260021852. ※他の図書は授業内で紹介する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらおう。質問の内容は次回の授業で説明する。 ・提出したレポートや小テストは、授業時間内に講評のうえ、必要に応じて解説をする。
備考	・出席確認は、パトグラと「レスポンスカード」にて行う。出席カードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。 ・授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。 ・小テストを計2回実施する。(第1回：統合失調症に関する内容、第2回：精神障害をもつ人の地域における生活への支援) ・小テストの内容の詳細や期日、各講の予習・復習する教科書の該当ページは、第1講で詳細を説明する。

授業科目名		担当教員				
精神看護活動論Ⅱ（発展）		三品 弘司・白田 成之（代表教員 三品 弘司）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(45時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		三品 弘司（看護師） 白田 成之（看護師）				
授 業 概 要						
精神看護活動論Ⅱでは、精神科看護における看護過程の展開方法についてオレム・アンダーウッド理論とストレングスモデルを用いながら事例を実際に展開し、対象を理解するためのアセスメント、患者の夢や希望、そしてストレングスを用いた看護援助計画の立案を行う能力を習得する。 また、精神の健康障害をもつ人との治療的関係を築くための必要な援助を修得し、その人らしく地域で生活するためのリカバリーを大切にしたい支援の在り方について理解する。						
学 修 の 到 達 目 標						
1. 発達段階を踏まえた対象者のアセスメントができる。 2. 精神症状が日常生活に与える影響についてアセスメントができる。 3. オレム・アンダーウッド理論に基づいた看護展開が説明できる。 4. 精神科におけるリカバリーのあり方について説明できる 5. 精神疾患およびその疾患を有する患者への看護について説明できる。 6. プロセスレコードを通して自分の言動を考察し、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オレム・アンダーウッド理論 / 普遍的セルフケア要素の視点とアセスメントの考え方	③	三品 白田	講義	教科書②p234-243を読み、オレム・アンダーウッドモデルと普遍的セルフケア要素を理解すること。（60分）	オレム・アンダーウッド理論とセルフケア要素について復習すること。（教科書②p234-243、授業資料）（120分）
2	リカバリーのためのストレングスモデル	④	白田	講義	精神看護活動論Ⅰのリカバリーに関連する資料および教科書を読み復習すること。（60分）	講義で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。（120分）
3	気分障害 シミュレーション演習	⑤	白田	講義 演習	気分障害に関連する内容（教科書②p76-87、p296-300）を読み、復習すること。（60分）	講義で教授した気分障害およびその患者への看護について復習すること。（60分）
4	プロセスレコードを用いた自己分析（1）	⑥	三品 白田	演習	教科書②p212-219、精神看護活動論Ⅰ授業資料を用いてプロセスレコードの書き方を理解しておくこと。（60分）	授業で作成したプロセスレコードを完成させること。（30分）
5	プロセスレコードを用いた自己分析（2）	⑥	三品 白田	演習	なし	授業で作成したプロセスレコードを完成させて提出する。（30分）
6	統合失調症患者の看護過程展開（1） 発達の特性についての解説	① ② ③ ④	三品 白田	講義 演習	発達の特性についての分析をしていくこと。（120分）	レポートの加筆修正（60分）
7	統合失調症患者の看護過程展開（2） 疾病の特性についての解説	① ② ③ ④	三品 白田	講義 演習	疾患の特性についての分析をしていくこと。（120分）	レポートの加筆修正（60分）
8	統合失調症患者の看護過程展開（3） セルフケア要素 各項目の解説①	① ② ③ ④	三品 白田	講義 演習	オレム・アンダーウッド理論を用いて情報整理・分析をしていくこと。（120分）	レポートの加筆修正（60分）
9	統合失調症患者の看護過程展開（4） セルフケア要素 各項目の解説②	① ② ③ ④	三品 白田	講義 演習	オレム・アンダーウッド理論を用いて情報整理・分析をしていくこと。（120分）	レポートの加筆修正（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	統合失調症患者の看護過程展開（5） ストレングモデルを用いた看護展開の解説	① ② ③ ④	三品 臼田	講義 演習	ストレングモデルを用いて普遍的セルフケア要素の査定と情報の統合、看護計画を立案してくること。 (120分)	レポートの加筆修正 (60分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
認知領域（知識）： 最終試験で評価する。（60％） 精神運動・情意領域（技術・態度）： レポート・態度で評価する。（40％）						
使用教科書						
新体系 看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論・精神保健 / 岩崎弥生ほか. --第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233631 新体系 看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生ほか. --第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233648 精神医学ハンドブックー医学・保健・福祉の基礎知識 / 山下格. --第7版--日本評論社, 2010年, 978-4535983335						
参考図書						
・萱間真美：リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングモデル活用術, 医学書院, 2016年, 978-4260027984. ・萱間真美：パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版, 照林社, 2015年, 978-4796523417. ※他の図書は授業内で紹介する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらう。質問の内容は次回の授業で説明する。					
備考	・出席確認は、「レスポンスカード」にて行う。レスポンスカードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。 ・授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。					

授業科目名		担当教員				
精神看護学実習		三品 弘司・白田 成之（代表教員 三品 弘司）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	2単位 (90時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		三品弘司（看護師） 白田成之（看護師）				
授 業 概 要						
精神疾患によって、日常生活や対人関係に困難をきたしている対象を受け持ち、オレム・アンダーウッド理論を用いて看護過程を展開していく。対象者との関わりを通して対象・自己理解を深め、その人らしい生活が送れるための援助方法や社会復帰に向けての働きかけについて学び、精神看護の役割および機能を理解する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①精神健康上の問題が、対象の身体・行動・対人関係にどのように表れているのか状況理解を深める。その理解に基づいて、対象者の抱えている課題や問題の解決に向けた個別性のある看護を実践することができる。 ②精神に障害を持つ人への治療の実際と治療上必要な看護の実際を説明できる。 ③対象者への関わりを通して、自己の関わりを振り返り、援助技術としてのコミュニケーションのあり方を述べるができる。 ④地域における精神障害者の生活の自立や社会参加を支援するための方法について学び、看護職に求められる役割と援助方法について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設				(1) 以下の疾患の理解 ①統合失調症（急性期、慢性期）	実習記録をまとめること
	岐阜大学医学部附属病院、黒野病院、のぞみの丘ホスピタル				②気分〔感情〕障害（双極性障害〔躁うつ病〕、単極性障害〔うつ病〕）	カンファレンスの準備
	II. 実習方法				③摂食障害（神経性やせ症、神経性過食症） ④境界性パーソナリティ障害	
	1. 学生40名を1グループ3～4名で編成し、3医療機関のいずれかの精神科病棟で2週間実習を行う。	① ② ③ ④	三品 白田	実習	(2) 電気けいれん療法（ECT） ※修正型電気けいれん療法（m-ECT）も調べる	
	2. 実習についてオリエンテーション（施設などの概要、諸注意、事前学習等）を受ける。	① ② ③ ④	三品 白田	実習	(3) 精神保健福祉法 ①入院形態、 ②精神保健指定医、 ③特定医師、④隔離・身体拘束、	
	3. 事前学習は、①精神障害と法制度、②主な精神疾患の治療と看護、③地域で精神障害者を支援するための制度について紙面にて課題の提示を行う。	① ② ③ ④	三品 白田	実習	⑤精神障害者保健福祉手帳制度、⑥通信・面会の自由、	
	4. 対象者を学生1～2名で受け持ち、対象者の現在の心理状態や日常生活について関心を持ち、				⑦守秘義務、⑧退院請求と処遇改善を求める権利	
	対象者と関わる中で捉えた事柄について、実習指導者や教員の助言を受けながら、対象者の症状やリカバリー、ストレングスを理解する。	① ② ③ ④	三品 白田	実習	(4) 精神科デイケア	
	5. 学生は、実習病棟の特徴を理解し、対象者のニーズに即した看護過程（ケアプランに基づく）の展開やレクリエーション活動を実施する。	① ② ③ ④	三品 白田	実習	(5) 障害者総合支援法のサービス事業 ①地域活動支援センター	

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	6. 対象者への関わりを通して、自己の関わりをプロセスレコードを使用しながら振り返る。	① ② ③ ④	三品 臼田	実習	②自立訓練（生活訓練）の「宿泊型」「通所型」	
	7. 精神障害者が社会復帰するための社会資源や看護の役割・援助を実際に見学し、理解する。	① ② ③ ④	三品 臼田	実習		
	8. 学生は、適時、各実習場所でカンファレンスを行う。内容は、教員、実習指導者とともに対象の理解、関わり方などについて行う。	① ② ③ ④	三品 臼田	実習		
	9. 臨地実習最終日は、実習指導者、教員とともにまとめの会で2週間の実習の学びについて振り返る。	① ② ③ ④	三品 臼田	実習		
	10. 学生は、学内でグループ討議、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や学びを共有し、レポートにまとめ、提出する。	① ② ③ ④	三品 臼田	実習		
	詳細は、実習オリエンテーションで説明します					
評価基準・評価方法						
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。						
使用教科書						
新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 / 岩崎弥生他。--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233631 体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生他。--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233648 精神医学ハンドブックス 医学・保健・福祉の基礎知識 / 山下格。--第7版--日本評論社, 2010年, 978-4535983335						
参考図書						
・菅間真美：精神看護第2版（パーフェクト臨床実習ガイド），照林社，2015年。 ・長谷川雅美：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード―プロセスレコードが書ける、読める、評価できる本 第2版，日総研，2017年。 ・田中美恵子編著：精神看護学 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 第2版，医歯薬出版株式会社，2015年。 ・山本勝則他：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 第2版，メヂカルフレンド社，2015年。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	分からないことがあれば、担当教員もしくは臨地実習指導者に聞いてください。その都度、対応します。					
備考	履修前提条件：【看護の原理と基礎】全科目と精神看護学概論および精神看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。また、精神看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。					

授業科目名		担当教員				
課題研究事前演習		熊田 ますみ・他（代表教員 熊田 ますみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		熊田ますみ小林美奈子（看護師）皮野さよみ（助産師・看護師）三品弘司（保健師・看護師）中斎二三博（司書）				
授 業 概 要						
課題研究事前演習は、看護研究を行うための研究の目的・目標及びプロセスを学び、看護領域における研究の概要と研究の方法・看護研究を実践できる基礎的能力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①看護領域における研究の目的・目標・倫理方法・考察を説明できる。 ②研究の進め方を説明できる。 ③文献検索をして、研究課題を見つけることができる。 ④文献リスト・文献カードの作成ができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護研究とは何か、研究テーマの見つけ方	① ②	小林	講義	領域別実習で興味や関心をもった内容についてまとめる 120分	講義内容を振り返り、研究テーマ(案)についてまとめる 120分
2	看護研究の手順、概念枠組みの作成	① ②	小林	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	講義内容を振り返り、看護研究の手順をまとめる120分
3	質的研究・量的研究	① ②	熊田	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	講義資料を振り返り、質的・量的研究の違いをまとめる 120分
4	看護研究計画書作成、看護研究の倫理的問題	① ②	皮野	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	研究計画書の作成及び倫理的問題についてまとめる120分
5	研究のまとめと研究発表（抄録・スライド・プレゼンテーション）	③	皮野	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	研究発表の方法についてまとめる120分
6	文献検索の方法	③	中斎	演習	自己の研究テーマ（案）に関するキーワードを3つ考える 30分	自己の研究テーマ（案）に関する文献を1つ探す150分
7	文献検索	③	三品	講義 演習	自己の研究テーマ（案）に関する文献を2つ探す120分	自己の研究テーマ（案）に関する文献を探し、文献リストを作成する。
8	文献リスト・文献カード作成	③	熊田 他	演習	1文献について文献カードを作成する 120分	文献リストを作成し提出する。文献カード1文献のみ作成し提出する180分

評価基準・評価方法	
文献カード（50％） 文献リスト（40％） 演習への参加態度（10％）にて評価する	
使用教科書	
基本がわかる 看護研究ビギナーズNOTE / 古橋洋子. --学研メディカル秀潤社, 2011年, ISBN978-4-7809-1038-4	
参考図書	
黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第3版、学研 横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして、医歯薬出版 竹内登美子編：臨床看護研究サクセスマニュアル ナース専科BOOKS、アンフェミア 川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	第1講から5講においては配布資料と教科書を対比させる。質問等に対しては次回の講義で対応する。
備考	専門分野の教員が、講義と演習形式で指導する。講義の進行上、授業内容・担当者が変更することがある。

授業科目名		担当教員				
課題研究		熊田 ますみ・他（代表教員 熊田 ますみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 後学期	1単位(15時間)		演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		熊田ますみ 小林美奈子（看護師） 三品弘司（保健師・看護師）皮野さよみ（助産師・看護師）				
授 業 概 要						
課題研究事前演習を踏まえ、それまでに履修した授業科目や実習から各人が関心のあるテーマを設定し、研究計画書を作成する。文献検索、論文収集、クリティークを主体的に進め、研究計画書を作成することで科学的な思考で看護を追求する姿勢を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①必要な文献の収集ができる。 ②文献学習を通して、研究デザインや倫理・概念枠組み・データの収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について説明できる。 ③研究課題の選択や吟味の方法を説明できる。 ④研究計画書の作成ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	研究テーマの絞り込み	① ②	熊田 小林 皮野 三品	演習	文献検討を見直して自分が興味をもった内容をまとめる 120分	指導を受けて研究テーマを絞り込む 120分
2	研究計画書の作成（研究動機の明確化）	① ②	熊田 小林 皮野 三品	演習	研究テーマを絞りこみまとめ提出する 120分	研究動機を明確にして文章化する120分
3	研究計画書の作成（研究目的）	① ② ③	熊田 小林 皮野 三品	演習	研究目的をまとめる 120分	指導を受けて研究目的を修正する120分
4	研究計画書の作成（概念枠組み）	① ②	熊田 小林 皮野 三品	演習	概念枠組みをまとめる 120分	指導を受けて概念枠組みを修正する 120分
5	研究計画書の作成（倫理的配慮）	③ ④	熊田 小林 皮野 三品	演習	自己の研究における倫理的配慮をまとめる 120分	指導を受けて倫理的配慮の修正する 120分
6	研究計画書の作成（研究方法）	① ② ③	熊田 小林 皮野 三品	演習	研究方法をまとめる 120分	指導を受けて研究方法を修正する120分
7	研究計画書の作成（研究方法）	① ② ③ ③	熊田 小林 皮野 三品	演習	指導を受けて研究方法をまとめる120分	指導を受けて研究方法を修正する120分
8	研究計画書の作成（スケジュール）	③ ④	熊田 小林 皮野 三品	演習	研究計画書を作成する120分	研究計画書を完成して提出する120分
	研究計画書提出					

評価基準・評価方法	
研究計画書（90％） 取り組み（10％）にて評価する。	
使用教科書	
基本がわかる 看護研究ビギナーズNOTE / 古橋洋子. --学研メディカル秀潤社, 2011年, ISBN978-4-7809-1038-4	
参考図書	
黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第3版、学研 横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして、医歯薬出版 竹内登美子編：臨床看護研究サクセスマニュアル ナース専科BOOKS、アンフェミア 川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	課題内容は確認し各学生にフィードバックする。また、グループ間で検討し内容を深める。
備考	学生を6～8名のグループに分け、教員がゼミナール形式で指導する。

看護学科

統合科目

授業科目名		担当教員				
在宅看護概論		小林 美奈子・山田 剛司（代表教員 小林 美奈子）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		小林美奈子（看護師）、山田剛司（訪問看護認定看護師）				
授 業 概 要						
地域・在宅で療養する看護の対象とその家族について理解し、療養環境と対象の特徴、更に看護の目的について学ぶ。また、在宅療養の環境が介護を継続する家族の生活にあることを理解して、援助者としての訪問看護のあり方と、在宅療養が医療と福祉からの連携が必要であることを学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①地域・在宅看護の目的と基本理念を説明できる。 ②地域・在宅看護の対象を生活者としてとらえる意義を説明できる。 ③在宅療養を支える訪問看護の特徴を説明できる。 ④在宅療法および健康増進のための社会資源および制度を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	在宅看護の概念・歴史と在宅看護の役割・機能（第1章）	① ②	小林	講義	教科書P12～P39を読み、重要用語を調べておく（120分）	重要用語等に関するレポート作成（120分）
2	在宅療養者と家族の支援（第2章）	① ②	山田	講義	教科書P42～P67を読み、重要用語を調べる（120分）	重要用語等に関するレポート作成（120分）
3	地域包括ケアシステムにおける在宅看護（3章）	① ②	小林	講義	教科書P70～P107を読み、重要用語を調べる（120分）	重要用語等に関するレポート作成・自分の地域の地域包括支援センターの住民の取り組みをレポート（120分）
4	在宅医療を支える制度（4章）－社会資源の活用，医療保険制度，介護保険制度	④	小林	講義	教科書P112～120を読む，重要用語を調べる（120分）	重要用語等に関するレポート作成（120分）
5	在宅医療を支える制度（4章）－1 生活保護制度、障害者に関連する法律	① ② ④	小林	講義	教科書P112～120を読み、重要用語を調べる（120分）	重要用語等に関するレポート作成（120分）
6	在宅ケアを支える制度（4章）－2 難病・子どもの在宅療養	① ② ④	小林	講義	教科書P133～156を読み、重要用語を調べる（120分）	重要用語等に関するレポート作成（120分）
7	在宅療養を支える訪問看護（5章）	① ②	小林	講義	教科書P164～189を読み、重要用語を調べる（120分）	重要用語等に関するレポート作成（120分）
8	在宅看護における危機管理と援助技術（6章唐章）	① ② ③ ④	小林	講義	教科書P194～203を読み、重要用語を調べる（120分）	重要用語等に関するレポート作成・在宅看護概論での学びレポート（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
定期試験（70％）、課題レポート（30％）	
使用教科書	
ナーシンググラフィカ21 在宅看護論①ー地域療養を支えるケア / 第6版--MCメディカ出版，2019年，ISBN978-4-8404-6520-5	
参考図書	
その他は必要に応じて紹介する	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートは採点して返却します。課題レポートの内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。
備考	

授業科目名		担当教員				
在宅看護活動論Ⅰ（基礎）		小林 美奈子・堀 信宏・山田 剛司・鷺崎 典子・清水 美智子・中川 幸代（代表教員 小林 美奈子）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位(90時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		小林美奈子（看護師）、堀 信宏（理学療法士）、山田剛司（看護師）、中川幸代（看護師）、清水美智子（看護師）、鷺崎典子（看護師）				
授 業 概 要						
地域においてしばしば見られる医療処置に伴う援助技術を必要とする在宅療養者の療養状況を理解し、各々の技術の実際を学習する。在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、CAPD、褥創ケア、在宅中心静脈栄養、吸引などについて、施設内での援助方法をもとに在宅で実践する場合の応用や緊急時の対処および家族への指導方法を中心に学習する。また、療養者の自立支援とQOLに向けた在宅リハビリテーションの特徴と住宅改修のポイントについて学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①在宅療養者における日常生活の自立支援のアセスメント技術について説明できる。 ②在宅における医療管理を必要とする人の看護アセスメントについて説明できる。 ③看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護師の機能について説明できる。 ④継続看護・退院時支援および地域連携の役割について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	在宅における・生活ケアと医療的ケアの援助技術	①	小林	講義	事前配布資料を読む(60分)	講義の学びと感想レポートを書く(90分)
2	在宅看護における安全と健康危機管理	① ②	小林	講義	事前配布資料を読む(60分)	講義の学びと感想レポートを書く(90分)
3	在宅療養生活を支える基本的な技術	① ②	小林	講義	事前配布資料を読む(60分)	講義の学びと感想レポートを書く(90分)
4	退院支援・退院調整の看護師の役割	③ ④	鷺崎	講義	事前配布資料を読む(60分)	講義の学びと感想レポートを書く(90分)
5	在宅リハビリテーションの特徴と住宅改修のポイント	① ④	堀	講義	事前配布資料を読む(60分)	講義の学びと感想レポートを書く(90分)
6	在宅における安全の確保 感染対策・医療事故防止	① ②	小林	講義	事前配布資料を読む(60分)	講義の学びと感想レポートを書く(90分)
7	在宅における服薬管理・継続看護の実際	① ③ ④	小林	講義	事前配布資料を読む(60分)	講義の学びと感想レポートを書く(90分)
8	在宅医療技術 在宅酸素療法	① ② ④	山田	講義	事前配布資料を読む(60分)	講義の学びと感想レポートを書く(90分)
9	在宅医療技術 在宅人工呼吸療法	① ② ④	山田	講義	事前配布資料を読む(60分)	講義の学びと感想レポートを書く(90分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	在宅医療技術 胃瘻・経管栄養④中心静脈栄養	① ② ④	清水	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
11	在宅医療技術 尿路カテーテル・尿路ストーマ	① ② ④	中川	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
12	在宅ターミナル 在宅の看取りのケアと疼痛コントロール	① ② ③	小林	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
13	在宅ターミナル 在宅訪問看護における終末期ケア	① ② ③	若森	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
14	療養者に適した福祉用具（施設見学）	① ②	小林	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
15	療養者に適した福祉用具（施設見学）	① ②	小林	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
16	在宅療養に関わる多職種の役割と連携	① ② ④	鷲崎	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
17	多職種連携の実践	① ② ③ ④	小林	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
18	多職種連携の実践	① ② ③ ④	小林 熊田	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
19	多職種連携の実践	① ② ③ ④	小林 熊田	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
20	在宅看護の展望	① ② ③ ④	小林	講義	事前配布資料を読む (60分)	講義の学びと感想レポートを書く (90分)
	試験：定期試験またはレポート					
評価基準・評価方法						
定期試験（70％）、課題レポート・演習参加態度（20％）、小テスト（10％）						
使用教科書						
ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論①ー地域療養を支えるケア / 第6版ーMCメディカ出版, 2019年, ISBN978-4-8404-6520-5 ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論②ー地域療養を支える技術 / 臺 有桂他. --第1版ーMCメディカ出版, 2018年, ISBN978-4-8404-6134-4						
参考図書						

その他は必要に応じて紹介する	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートは採点して返却します。課題レポートの内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。
備考	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。

授業科目名		担当教員				
在宅看護活動論Ⅱ（発展）		小林 美奈子・山田 剛司（代表教員 小林 美奈子）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(45時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		小林美奈子（看護師）、山田剛司（認定看護師）				
授 業 概 要						
疾病や障害を持ちながら在宅で生活、療養する人とその家族を対象とし、各人のニーズに基づく生活行動の支援方法、及び社会資源の活用方法を理解し、対象に必要な在宅看護の展開方法を学習する。また、在宅看護における信頼関係形成の重要性を理解する。更に、在宅療養に必要な社会資源とその活用方法を学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①在宅でのコミュニケーション・面接技術や、訪問時のマナーについて説明できる。 ②在宅看護論実習における学生の動き方や、実習で学ぶ内容を説明できる。 ③在宅看護論実習における情報収集の視点や、在宅看護という特性を考えた看護過程展開の根拠を説明できる。 ④在宅看護実習における患者と家族のQOLや自立支援に向けた社会資源の根拠について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	在宅ケアの看護過程の展開とケアマネジメント	① ③ ④	小林 他	講義	ケアマネジメントと社会資源の活用について調べる（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
2	脳梗塞後遺症の事例-介護保険による	② ③	小林	講義	介護保険及び患者の病態、治療、処置、看護援助に関連した学習（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
3	中途障害による脊髄損傷療養者の事例	② ③	小林	講義	医療保険、介護保険及び患者の病態、治療、処置、看護援助に関連した学習（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
4	重度心身障害をもちながら地域で生活する小児	② ③	小林	演習	障害者総合支援法、病態、治療、処置、看護援助に関連した学習（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
5	難病でをもちながら地域で生活する人のケアマネジメント	② ③	小林	演習	障害者総合支援法、病態、治療、処置、看護援助に関連した学習（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
6	看護過程展開の事例演習①	② ③	小林	演習	紙上事例に関する病態、治療に関する学習（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
7	看護過程展開の事例演習②	② ③	小林	演習	紙上事例に関するケアマネジメントと多職種連携について調べる（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
8	看護過程展開の事例演習③	① ②	小林	演習	紙上事例に関する本人と家族への看護上も課題とケアプランについて調べる（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
定期試験（筆記）						

評価基準・評価方法	
小テスト（10％）、課題レポート（40％）・定期試験（50％）	
使用教科書	
ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論①―地域療養を支えるケア / 臺 有桂他.―第6版―MCメディカ出版, 2019年, ISBN978-4-8404-6520-5 ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論②―地域療養を支える技術 / 臺 有桂他.―第1版―MCメディカ出版, 2018年, ISBN978-4-8404-6134-4 強みと弱みからみた 在宅看護過程＋総合的機能関連図 / 河野あゆみ.―第1版―医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03684-9	
参考図書	
その他は必要に応じて紹介する	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートは採点して返却します。課題レポートの内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。
備考	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。

授業科目名		担当教員				
在宅看護論実習		小林 美奈子・松野 ゆかり・他 （代表教員 小林 美奈子）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	2単位 (90時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		小林美奈子（看護師）、松野ゆかり（看護師）他（看護師）				
授 業 概 要						
地域で療養する人々やその家族を理解し、その人らしい在宅生活の継続に向けたケアの実践を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①在宅で療養生活を送る療養者とその家族の特徴を説明できる。 ②生活の場であることを理解し、対象者が望む生活を考慮した看護について支援計画を立案することができる。 ③在宅療養者支援に必要な社会資源の種類や法律・制度を理解し、活用方法を説明できる。 ④在宅療養に関わる多職種の役割と連携・調整方法について理解し、現状の課題を説明することができる。 ⑤在宅療養や地域での人々の暮らしを包括的に支援するしくみを説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	訪問看護ステーション実習：いび訪問看護ステーション、まつなみ訪問看護ステーション、訪問看護ステーション北方、岩砂訪問看護ステーション他					
	訪問看護ステーションひかり、うずら訪問看護ステーション、医師会訪問看護サンライズケアステーション、訪問看護ステーション平野、					
	地域包括支援センター：岐阜市地域包括支援センター長良、岐阜市地域包括支援センター岐北					
	地域連携室：岩砂病院、山田病院、山内ホスピタル、岐阜北地域包括支援センター、在宅介護支援センター平野、松波病院入退院センター					
	II. 実習方法					
	1. 学生を12～14名ずつの6グループに分け1班とする。在宅看護論実習においては、実習施設での受け入れ人数が、1～3名であるため、1班はおおよそ10施設に分かれて実習を行う。					
	2. 実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習など）を受ける。					
	3. 施設の概要や利用者の特徴について紹介を受け、看護過程展開に生かす。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	4. 2週間のうち1週間を訪問看護ステーション、1週間のうち2日間を退院調整部門または在宅支援施設などの施設で実習を行い、学内日に学びを発表する。					
	5. 訪問看護ステーションでは、対象者1名を受け持ち、生活の場で対象の望む生活を考慮した看護を考える。					
	6. 受け持ち以外の対象者についても、1日1～2件程度同行訪問する。					
	7. 実習中に、ケアマネジャー、ホームヘルパー、医師、理学療法士、作業療法士などの多職種との連携場面を学習する。					
	8. 在宅療養を支えたり、在宅生活に繋ぐ施設では、その役割や連携方法を学ぶ。					
	9. 実習期間内で指導者と2回～3回程度カンファレンスを実施する。					
	10. 学内日に実習内容の検討、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や各施設での学びを共有する。					
評価基準・評価方法						
実習目標の到達度、実習態度、実習記録など実習全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 実習態度・実習記録・課題レポート60%、学内日でのグループワークの取り組み態度、課題レポート、発表40%						
使用教科書						
ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論①－地域療養を支えるケア / 臺 有桂他. --第6版--MCメディカ出版, 2019年, ISBN978-4-8404-6520-5 ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論②－地域療養を支える技術 / 臺 有桂他. --第1版--MCメディカ出版, 2018年, ISBN978-4-8404-6134-4						
参考図書						
河野 あゆみ (著) : 強みと弱みからみた 在宅看護過程: +総合的機能関連図 医学書院						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートの内容が不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めています。					
備考	履修前提条件: 【看護の原理と基礎】全科目と在宅看護概論および在宅看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。また、在宅看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。					

授業科目名		担当教員				
安全管理論		眞田 正世				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位 (30時間)		講義・演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		眞田正世（看護師）				
授 業 概 要						
安全はあらゆる分野において最も肝要な事である。特に近年、医療安全は医療界の最優先課題となっている。ここでは、医療安全と医療事故の問題に焦点をあて学習を進めたい。まず医療安全管理を学ぶ意義を理解し、その上で医療安全の基本的考え方を学ぶ。また、医療事故とリハビリテーションにおける関係を知り、その上で医療事故防止の考え方や医療事故発生時の対応を学ぶ。また、リハビリテーション学科の学生としての医療安全を学ぶことで、実習における安全管理の在り方を学ぶ。演習では、医療事故防止の実際をKYTを活用し、臨地での対応に結び付ける。						
学 修 の 到 達 目 標						
知識：①医療安全の基本的考え方と医療事故防止について述べることができる。 技術：②医療事故の分析手法やKYTを活用し、考察することができる。 態度：③医療安全管理に興味を持ち、取り組む姿勢を持つことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	医療安全を学ぶ意義	① ③		講義		医療安全の歴史、医療安全推進対策 (60分)
2	医療安全の基本的考え方：ヒューマンエラー	① ③		講義		ヒューマンエラー (60分)
3	医療安全の基本的考え方：医療安全の用語とモデル	① ③		講義		医療安全の用語 (60分)
4	医療事故とリハビリテーションとの関係	① ③		講義	医療安全の用語 (20分)	看護業務と医療事故 (40分)
5	医療事故防止の考え方：組織としてと個人としての医療事故防止対策	① ③		講義		組織と個人の医療事故防止 (60分)
6	医療事故防止の考え方：医療分析手法と危険予知訓練	②		講義 演習		医療事故分析手法 (60分)
7	事故後の対応	① ③		講義		医療事故後の対応 (60分)
8	インシデントレポートと活用の実際	① ③		講義 演習		インシデントレポートの活用 (60分)
9	学生における医療安全	① ③		演習		5S、個人情報保護、危険認知と報告 (60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	医療事故防止の実際：体位・姿勢の保持・移動	②		演習	KYT (60分)	体位・姿勢 (60分)
11	医療事故防止の実際 1	②		演習		環境整備・感染防止・医療廃棄物の取り扱い (60分)
12	医療事故防止の実際 2	②		演習		理学療法・作業療法・視機能訓練における事故防止の実際 (60分)
13	医療事故防止の実際 3	②		演習		理学療法・作業療法・視機能訓練における事故防止の実際 (60分)
14	臨床における医療安全の実際	① ③		講義		
15	臨床における医療事故の実際	① ③		講義		臨床における医療事故防止 (60分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
履修態度（20％）、筆記試験（80％）での総合評価						
使用教科書						
参考図書						
系統看護学講座 総合分野 医療安全（医学書院） RCAの基礎知識活用事例、等その他適宜紹介 学研eナッシング 厚生労働省の医療安全研修資料						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポート等に関してはコメントを記入する。または次回講義で説明をする。					
備考	教科書は特別使用しないが、必要時書籍紹介する。授業は毎回、パワーポイント使用して進める。 関連する教科と結び付けて学習し、単に知識に止まらず実践的能力として身につけてほしい。よって、積極的に学び取る姿勢で臨んでほしい。グループワークなどの演習も取り入れ出来るだけ参加型授業形態をとり、共に楽しく学べる授業としたい。（大声での雑談等で、授業を乱す学生は状況により退室とするが、教室全体の問題として当事者学生以外の学生に判断を委ねる）					

授業科目名		担当教員				
災害看護論		松田 好美・額額 朋弥・杉山 清美・白木 大輔（代表教員 松田好美）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 後学期	1単位(30時間)		講義 オムバス		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		松田好美（看護師）、額額朋弥（看護師）、杉山清美（訪問看護認定看護師）、白木大輔（小児救急看護認定看護師）				
授 業 概 要						
大規模地震・洪水等の自然災害や大型交通事故や大火災などの人的災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の準備期から中・長期に渡り必要となる看護活動について理解を深める。被災地という特殊な状況下で行われる緊急医療、感染症対策、避難施設の保健対策、精神的ケア等の実例から、災害時における保健活動の概要を理解し、被災者に必要とされる医療・看護の基本的知識・技術を学んでいく。また、私たちが生活している地域にも、いつ災害が降りかかるかわからない状況である。そのため、災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術や判断・応用方法も考察する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術を理解し、判断・応用を説明できる。 ②災害が人々の健康生活に及ぼす影響を述べることができる。 ③災害急性期における活動に必要な知識、判断、技術、行動を理解し、関連して述べるができる。 ④平常期から災害時期、災害復興期における看護活動について述べるができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、災害概論	①	松田			講義内容を振り返る。 （50分）
2	災害の分類、災害への備え：貴方はどうしますか（レポート課題の提示）	①	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分）	講義内容を振り返る。 （50分）
3	災害サイクル、災害が人々の健康生活に及ぼす影響	②	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分）	講義内容を振り返る。 （50分）
4	災害時に必要な看護技術：CSCA、トリアージ	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分）	講義内容を振り返る。 （50分）
5	病院における災害看護：TTT	③ ④	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分）	講義内容を振り返る。 （50分）
6	災害時に必要な看護技術：二次トリアージ（トリアージの実施）	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分）	講義内容を振り返る。 （50分）
7	災害時の倫理的問題・法律問題、国家試験問題について	④	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分）	講義内容を振り返る。 （50分）
8	災害被災者へのメンタルケア、災害援助者のストレスと緩和	④	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分）	講義内容を振り返る。 （50分）
9	避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護	④	額額		教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分）	講義内容を振り返る。 （50分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護	④	額額		教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分)	講義内容を振り返る。 (50分)
11	災害時に必要な看護技術：成人への心肺蘇生	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分)	講義内容を振り返る。 (50分)
12	災害時に必要な看護技術：成人のALS、小児・乳児の心肺蘇生	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分)	講義内容を振り返る。 (50分)
13	災害時に必要な看護技術：演習（成人、乳児への心肺蘇生）3グループに分けて行う	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分)	講義内容を振り返る。 (50分)
14	災害発災時のDMAT活動（ドクターヘリ活動を含む）	③	白木		教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分)	講義内容を振り返る。 (50分)
15	災害発生地における被災者のケア	④	杉山		教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分)	講義内容を振り返る。 (50分)
	定期試験（筆記）。講義、演習の順序は変更する可能性がある。					
評価基準・評価方法						
最終試験60%，レポート40%（2回）						
使用教科書						
救急蘇生法の指針2015 市民用・解説編 / 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修. --改訂5版 --へるす出版, 2016, ISBN978-4-89269-882-8						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポート1：レポート提出後、課題について講義時間内に説明する。 レポート2：レポート課題は授業時間内に説明済みであり、学生の質問等に対しては掲示文章によりフィードバックする。					
備考	授業開始までに。消防署などで一般市民用の心肺蘇生の講習を受ける（3～4時間）。レポート（評価20%）する。 演習に関しては、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止し、内容・方法を変更する可能性がある。 授業時に質問調査紙を配付し、授業最後に回収する。資料にない内容であれば、次の授業開始時に回答する。					

授業科目名		担当教員				
総合判断育成演習		熊田 ますみ・皮野 さよみ・長橋 友恵・他（代表教員 熊田 ますみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	2単位(30時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）、皮野さよみ（助産師・看護師）、長橋友恵（看護師 他）				
授 業 概 要						
看護師として実践チームの中で機能するために、看護管理・チーム医療の基礎を学び、複数の看護の対象の日常生活援助・診療の補助行為等実際の場面を想定して演習を行い、対象及び場面に応じた判断力・看護技術を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①医療チームの一員として、看護におけるマネジメントの視点を説明できる。 ②チーム医療に関する連携協働を学び、多重課題に対する優先順位を説明できる。 ③医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制と医療安全活動を説明できる。 ④国際化の進展における保健・医療・福祉及び国際協力について説明できる。 ⑤「実習における卒業時到達度Ⅰ」の項目を事例を用いて情報をアセスメントして立案した計画に基づいて実施できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護管理（組織の一員としての役割と行動・リーダーシップとフォロワーシップ・円滑な組織運営に必要な対人力）	①	皮野	講義	看護学概論テキストの該当箇所を読む 120分	配布資料・講義内容を振り返る 120分
2	看護管理（看護管理とは・看護管理システム・看護部門と他部門との連携）	①	長橋	講義	看護学概論テキストの該当箇所を読む 120分	配布資料・講義内容を振り返る 120分
3	看護管理（人材資源の管理・看護ケアマネジメントとは・看護サービス管理のマネジメントとは）	①	長橋	講義	看護学概論テキストの該当箇所を読む 120分	課題レポートを作成し提出する 120分
4	チーム医療（チーム医療とは・チームナースング・一日の業務の組み立て方・多重課題に対する優先順位のつけ方）	②	熊田 白田	講義	看護学概論テキストの該当箇所を読む 120分	課題に取り組み提出する 120分
5	チーム医療（多重課題のシュミレーション・トレーニング）	②	白田	講義	事前資料を読み、対象をアセスメントし援助の方向性をまとめる 120分	多重課題の課題レポートを作成し提出する 120分
6	チーム医療（事例を理解し、患者に必要な看護ケア、留意点を検討して「一日の業務計画」を立案する）	②	熊田 白田 二村 清水	演習	事例を通して事例毎の留意点、優先順位をまとめる 120分	グループワークを実施して「一日の業務計画」を提出する 120分
7	医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制	③	皮野	講義	テキストの医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制を読んでくる 120分	医療安全における指針・方針及び医療安全体制の重点をまとめ提出する 120分
8	医療安全活動	③	皮野	講義	医療安全活動に係る具体的内容・規定等についてまとめる 120分	医療安全活動についてまとめる 120分
9	国際化の進展における保健・医療・福祉の現状	④	松野 吉崎	講義	わが国における国際化における保健・医療・福祉の課題についてまとめる120分	授業の内容を説明できるようにまとめる 120分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	国際協力について	④	熊田	講義	国際協力について新聞記事等を読んでおく120分	授業の内容を説明できるようにまとめ提出する 120分
11	基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に基づいた基礎看護技術の実施）	⑤	皮野他	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分
12	基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に基づいた基礎看護技術の実施）	⑤	皮野他	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分
13	基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に基づいた基礎看護技術の実施）	⑤	皮野他	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分
14	基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に基づいた基礎看護技術の実施）	⑤	皮野他	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分
15	基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に応じた看護技術の提供）	⑤	皮野他	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめ提出する120分
評価基準・評価方法						
看護管理（15%） チーム医療（15%） 医療安全（10%） 国際看護（10%） 基礎看護技術（50%）						
使用教科書						
看護の統合と実践① 看護実践マネジメント／医療安全 / 高橋則子他. --小澤かおり--メジカルフレンド社, ISBN978-4-8392-3374-7						
参考図書						
必要時、参考文献等を紹介する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	演習での発表内容や課題については講評し、フィードバックする。					
備考	グループワーク等については、主体的に参加すること。講義の進行上、担当者・内容を変更することがある。					

授業科目名		担当教員				
看護の統合実習		熊田 ますみ・他 （代表教員 熊田 ますみ）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	2単位 (90時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学方針(2)(3)看護方針(2)(3)(4)の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）他				
授 業 概 要						
各領域で学んだ知識・技術をもとに、医療チームの一員であることを認識し、自己の立場での責任と役割を果たす看護師の役割について学ぶ。さらに看護の継続性を理解し、患者に応じた看護のあり方を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①看護師長、チームリーダー、チームメンバーの役割と業務や他部門との調整や連携の実際と看護管理の在り方を説明できる。 ②複数の受け持ち患者の状態を把握し、多重課題に対し優先順位を考えながら安全・安楽に看護を実施することができる。 ③患者の24時間の生活状況を知り、継続看護の在り方を説明できる。 ④看護の統合実習で学んだことを通して、看護師としての自己の目標や課題を明確にし表現できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	I. 実習施設					
	平野総合病院 各務原リハビリテーション病院 岐阜清流病院					
	II. 実習方法					
	1. 学生は、1グループ4～6名で編成し、病院のいずれかの病棟で2週間実習を行う。					
	2. 実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習等）を受ける。					
	3. 看護師長、チームリーダー、チームメンバーと行動を共にし、見学を通して各々の役割と業務を知る。また、他職種連携についても知る。					
	4. 学生は複数の患者を受け持ち、優先順位を考え看護師と共にして看護を実施する。					
	5. 夕方から早朝の時間帯の患者の様子や看護の実際について説明を受け、24時間の対象の状況及び看護師の動きを知る。また、継続看護について考察する。					
	6. カンファレンスを実施し、実習目標が到達できるように問題の解決や学習内容の共有をする。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	7. 実習終了後、実習目標に対するまとめの学習を行い、達成状況や自己の課題をレポートにまとめる。					
評価基準・評価方法						
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。						
使用教科書						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	実習中その都度、記録へのコメントを残し、口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導する。実習最後のまとめ時に教員より学習内容に対してコメントする。					
備考	履修前提条件：【看護の原理と基礎】の全科目、成人看護学実習Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学・精神看護学実習、在宅看護論実習の単位を修得済みであること。総合判断育成演習を履修中であること。					

看護学科 授業担当者索引

…あ 行…		
足立 哲夫	非常勤講師	
安藤 彰浩	非常勤講師	
飯沼 温美	非常勤講師	
伊原 亮司	非常勤講師	
岩瀬 桃子	看護学科講師	
臼田 成之	看護学科講師	
遠渡 絹代	非常勤講師	
塩谷 滝雄	非常勤講師	
大井 一高	非常勤講師	
大井 修三	非常勤講師	
大江 直行	非常勤講師	
大藪 千穂	非常勤講師	
岡本 知美	非常勤講師	

…か 行…		
加藤 清人	作業療法専攻教授	
亀山 泰永	非常勤講師	
粥川 誠至	非常勤講師	
河合 克尚	理学療法専攻教授	
皮野 さよみ	看護学科教授	
紀ノ定 保臣	非常勤講師	
久保 和弘	非常勤講師	
熊田 ますみ	看護学科教授	
藏満 彩結実	非常勤講師	
瀬瀬 朋弥	非常勤講師	
神戸 博一	非常勤講師	
小林 美奈子	看護学科教授	
近藤 富雄	非常勤講師	
近藤 直実	特任教授	
近藤 ひろえ	非常勤講師	

…さ 行…		
坂本 裕子	看護学科助手	
佐々木 智恵	看護学科助教	
佐竹 裕孝	非常勤講師	
眞田 正世	非常勤講師	
塩野 美里	非常勤講師	
清水 美智子	非常勤講師	
清水 ゆかり	看護学科助教	
ジャマリ・マルジャン	非常勤講師	
白木 大輔	非常勤講師	
杉山 清美	非常勤講師	
杉山 俊介	非常勤講師	
鷺見 高光	非常勤講師	
鷺見 陽恵	看護学科助手	
住若 智子	非常勤講師	

…た 行…		
高井 健太朗	非常勤講師	
竹内 章郎	非常勤講師	
田中 耕	非常勤講師	
塚田 敬義	非常勤講師	

…な 行…		
中川 幸代	非常勤講師	
中川 みのり	非常勤講師	
中斎 二三博	司書	
中嶋 武広	非常勤講師	
長橋 友恵	非常勤講師	
中村 琢	非常勤講師	
中山 則之	非常勤講師	
長屋 江見	看護学科講師	
西本 裕	非常勤講師	
野瀬 早織	非常勤講師	

…は 行…		
橋本 永貢子	非常勤講師	
長谷部 武久	理学療法専攻教授	
林 将大	非常勤講師	
林 宗典	看護学科助教	
坂 義人	非常勤講師	
平野 聡子	非常勤講師	
深尾 琢	非常勤講師	
福岡 大輔	非常勤講師	
藤兼 大輔	非常勤講師	
二村 美津子	看護学科講師	
船戸 智子	看護学科助手	
武内 康雄	学長	
古田 弥生	看護学科准教授	
堀 信宏	理学療法専攻教授	

…ま 行…		
益川 優子	非常勤講師	
松井 永子	非常勤講師	
松田 好美	非常勤講師	
松野 ゆかり	看護学科准教授	
三品 弘司	看護学科教授	
ミハト・セイト・モハト	非常勤講師	
武藤 恭昌	非常勤講師	
武藤 吉徳	非常勤講師	
森 敏幸	非常勤講師	
森岡 菜穂子	看護学科助教	

…や 行…		
山内 久美子	非常勤講師	
山田 剛司	非常勤講師	
山田 日吉	非常勤講師	
山田 宏尚	非常勤講師	
山本 容正	非常勤講師	
弓削 繁	非常勤講師	
吉崎 純夫	看護学科講師	

…わ 行…		
鷺崎 典子	非常勤講師	
和田 恵子	非常勤講師	

